

原因 睡眠不足、饑渴ニ伴ヒ太陽炎熱ノ侵襲ヲ受ケ飲料不足ナル片
診候 頭痛眩暈、卒倒、體温昇騰、脈搏細小等ノ諸症
療法 先ツ狹隘ナル衣服ヲ脱シ冷所ニ移シテ冷水ヲ灌ギ清冷飲料ヲ與フ
 可及的冷却セル麥酒或ハ葡萄酒等ヲ與フルヲ宜シトス

鵝口瘡

Soor. ソール

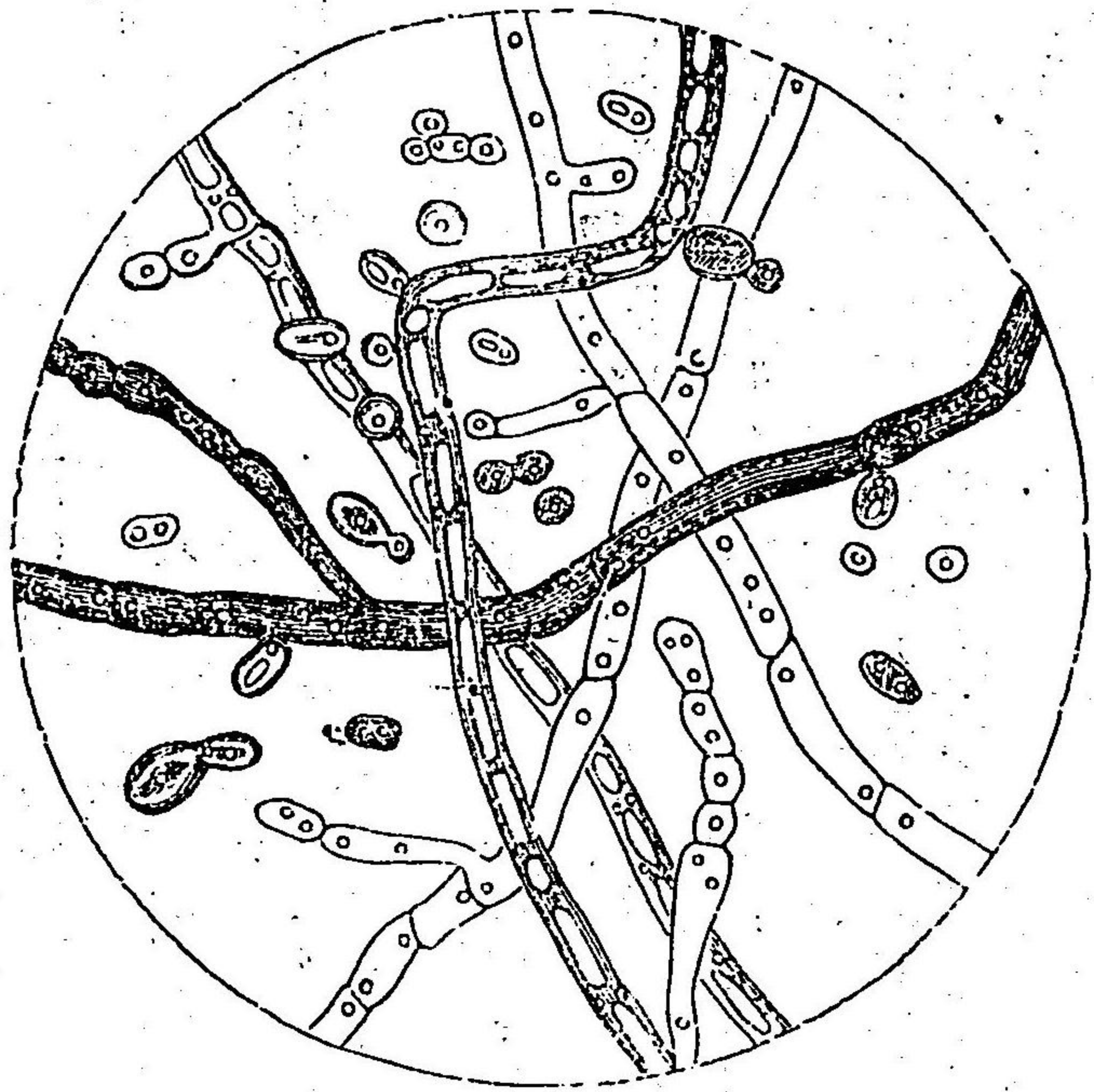
原因 乳兒ニハ口内ノ不潔大人ニハ結核、窒扶斯、蜜尿病、産褥熱、癌腫、白血病等誘因ニシテ素ト「オイジューム、アルビカンス」ト名クル黴菌ノ侵襲ニ起レルモノナリ
診候 口腔及咽頭ノ粘膜ニ白色乾酪様ノ小義膜數多ヲ生ジ其部充血腫起咀嚼及嚥下ノ作用ヲ妨ゲ口内灼熱シ唾液ハ酸性ニ變ズルヲ常トス胃痛下痢等ヲ發スルコト屢々ナリ

豫後 良

療法 濕布ヲ用井テ屢々口腔全部ヲ拭フベシ殊ニ哺乳後ハ必ズ然カスルヲ要ス傳染スル者ナルガ故ニ注意スベシ

クロール酸カリウム 一、〇〇、〇 單舎 右調和每一時一小兒匙
 一〇〇、〇 二〇、〇

第 四 十 九 圖



スソカビルア・ムーユジイオ

過マンガン酸カリウム 〇、〇五
 餾水 二〇〇、〇
 右調和口内洗滌料
 重曹 八、〇
 餾水 二〇〇、〇
 右口内洗滌料
 硼砂 二、〇
 餾水 一〇〇、〇
 薔薇蜜 二〇、〇

右調和塗布及洗滌用
 硼砂 一、〇
 蜂蜜 一〇、〇
 右調和塗布料
 硼砂 五、〇
 カリセリン 一五、〇
 右塗拭料（一日三回口ヲ拭フベシ）
 尙ホ「アフタ」等ノ條下ヲ參照セヨ

聲門痙攣

Spasmus glottidis. スバスムス、グロツチヂス

原因 佝僂病ヲ以テ本病ノ主因トス〇四ヶ月以上二年以下ノ兒童ニ多シ大人ニハ稀ナリ

診候 發作間歇性ノ聲門攣縮ニ係ル窒息狀ノ疾患ニシテ多クハ夜間ニ發ス顔面蒼白、眼球突出、上腹部陷没、失神、全身搐搦ノ症候ヲ現ハス
 間歇スルトキハ笛聲ヲ發ス
 豫後 疑

療法

發作ノ際ハ小兒ヲ坐セシメ醋或ハ冷水ニ浸セル布片ヲ用井テ全身ヲ摩擦シ顔面ニハ冷水ヲ注ギ或ハ「クロ、フオルム、エーテル」ノ嗅入或ハ「カミルレ」煎ノ洗腸ヲ行フ可シ〇攝生ヲ嚴ニシテ人工榮養ニ代ユルニ母乳ヲ以テシ又室内ノ換氣ニ注意シ成ル可ク新鮮濕温ノ空氣ヲ呼吸セシム可シ〇内服ハ燐劑及ビ臭剝ヲ併用スルヲ可トス

燐 〇、〇一 單舎 三〇、〇
 肝油 一〇〇、〇 右一日三回二分服
 燐 〇、〇一 カミルレ浸 (一〇、〇)一〇〇、〇
 右毎日一回一茶匙
 燐 〇、〇一 阿魏 一、〇
 リパニン 一〇〇、〇 右調和灌腸料(大人ニハ其二倍)
 右毎日一回一茶匙 繅草浸 (五、〇)一〇〇、〇
 臭剝 一、五乃至二、〇 阿魏 二、〇
 餾水 一〇〇、〇 右調和灌腸料

精液漏

Spermatorrhoe. スペルマトラー

原因 房事過度、手淫ニヨリ發シタル神經衰弱症、慢性淋疾、攝護腺炎等

診候 乗車騎馬ノ際若クハ上圍便利ノ時ニ當リテ勃起及ビ快美ノ感ヲ發
セスシテ精液漏出ス

療法 原因ヲ探リテ可及的之レヲ除キ凡テ陰部ノ刺戟ヲ避ケ冷水洗滌、
灌漑浴、冷却消息子送入法等ヲ行ヒ晚餐ヲ節シ其食物ニハ無刺戟性ノ
物ヲ撰ビ居室ノ通氣ヲ善クシ適宜ノ職業ヲ探ラシメ鐵劑、「キニーチ」
ノ如キ強壯劑ヲ與ヘテ全身症狀ニ注意スベシ

プローム樟腦

〇、三

又百倍ノ「アトロピン」溶液ヲ毎夕一滴

右爲一包與六包一日三回一包宛

内服スルモ可ナリ

(澱粉糰ニ容レ用ユ)

プロームカリウム

五、〇

忽布腺

一、〇

單舍

一五、〇

樟腦

〇、一

右調和一日三回每一食匙

白糖

二、〇

プロームナトリウム

四〇、〇

樟腦

〇、二

右分二十包朝夕毎二包

忽布腺

各適宜

同越

右三十粒ニ作り一日三回毎二粒

子療法モ亦効ヲ奏スルコトアリ

局所療法ニハ膀胱鏡或ハ「カテーテル」
ヲ用キテ攝護腺部ヲ腐蝕スベシ○消息

脊椎破裂

Spina bifida. スピナビフィダ

原因 胎生ノ發育不全ニ因ル

診候 脊椎ノ同一部兩側ニ開派シ其間ヨリ出ツル囊腫狀ノ腫脹アリテ内
ニ透明ノ液ヲ含ム此症ニ罹レル生兒ハ扁平足臍足下肢ノ麻痺萎縮等ヲ

兼テ身體ノ虛弱ナルモノナリ

豫後 概テ不良

療法 フラワッツ氏注射器若クハ之レニ類似ノ器械ヲ用井テ脊椎ノ缺損

部ニ認ムル「ヘルニヤ」形ノ腫脹物ヨリ其内容液ヲ吸吮シ而後繃帶ヲ
施ス可シ或ハ防腐法ヲ極メテ嚴ニシ截除術ヲナスベシ

小兒脊髓麻痺

Spinale Kinderlähmung.

スピナーレ、キンデルレームング

原因 急性前脊髓灰白質炎ヲ見ヨ

心臟痙攣

Stenocardia (Angina pectoris)

一名絞心症 ステノカルジア、(アングイナ、ペクトリス)

原因 僂麻質斯、大動脈瓣病、脂肪心、冠狀動脈病、暴酒、過煙、徽毒

脊椎破裂 小兒脊髓麻痺 心臟痙攣

子宮或ハ卵巢ノ疾病、ヒステリー等

診候 發作收縮性ノ心部疼痛、肩胛、頸及上膊ニ波及シ胸窄ノ自覺症、

苦悶、顔面失色、皮膚粘汗、手足厥冷、心動心音共ニ幽微トナリ脈搏

ノ絶止スル等ニシテ夜間頓發スルヲ常トス或ハ心悸亢進ヲ起スモノ有

療法 喫煙、飲酒、過勞ヲ禁シ原因ヲ明カニシテ之ヲ療スヘキコト勿論

ナリ而シテ發作ノ際ニハ酢水、芥子精、芥子油等ヲ塗布シタル布片ヲ

用井テ心臟及ビ上肢ニ摩擦法ヲ行ヒ又皮膚ヲ刺戟シ其他或ハ「モルヒ

子皮下注射ヲ行ヒ脈小ナルトキハ同時ニ強葡萄酒ヲ與ヘ樟腦油ノ注射

數筒ヲ用ユベシ脈強ナルトキハ併用スベカラズ或ハ鎮痙劑ヲ内服ニ供

シ間歇時ニハ冷水洗滌ヲ行ヒ室内空氣ノ代謝ヲ良好ニシ勞働飲食及便

通ニ注意シ神經性心悸亢進ニハ沸騰散或ハ糖水ヲ用井又豫防藥トシテ

「ヨードナトリウム」ヲ内服セシムル等本病治則ノ一般ナリト

鹽莫 一〇、〇

右半乃至二筒注射 一〇、〇

亞硝酸アミール 五、〇

茴香油 一〇、〇

右調和三乃至九滴發作ノ際吸入

セシム 五、〇

亞硝酸アミール 五、〇

甘硝石精 各〇、五

右發作時毎五滴布片ニ滴下シテ

吸入セシム

磷酸コテイソ 〇、五

石炭酸 〇、〇一

餾水 一〇、〇

右調和皮下注射一乃至二筒

テギタリザート 一〇、〇

枸橼酸アフェイ子 〇、五

右一日三回十五—二十滴宛

チガレン 一五、〇

枸橼酸カフェイ子 一、〇

右一—二筒皮下注射

テギタリザート 一五、〇

右一日三回十五滴宛

四硝酸エリトロール 〇、五

甘草末及越 適宜

右丸五十粒トナシ毎日一—三丸

(漸次一ヨリ三丸ニ)

間歇時ニハ左方ヲ用ユ

硝酸グリセリンアルコホル

餾水 (〇、三%) 二十滴

右一日三回每一食匙(注意ヲ要

ス)

硝酸グリセリン 〇、〇一

蒲公英越及末 適宜

右二十九ニ作り毎日一丸宛ヨリ

漸次増加シテ一日三丸宛トス

硝酸グリセリン錠 〇、〇〇五

右毎日一錠ヨリ漸次増加シテ毎

日三錠ニ至ル

ヨードナトリウム 二、〇

餾水 二〇、〇

右調和一日三回二日分服

プロームナトリウム 六、〇

苦丁
餾水

二、〇
二〇〇、〇

右一日三回二日分服

潰瘍性口内炎

Stomatitis ulcerosa.

ストマチチス
ウルツエローサ

原因 水銀、鉛、銀燐等ノ中毒、失苟兒陪僱蜜尿病食物ノ不良其他傳染性
流行性或ハ加答兒性ナルモノ有リ
診候 齒齦ノ疾病ニシテ其部ノ潮紅腫起ニ始マリ齦緣帶白黃灰色ノ軟泥
ニ變ジ其剝脫面潰瘍トナル其他流涎、口内惡臭、便秘、口唇及頰部ノ浮
腫腺ノ腫脹等

療法 「イルリガートル」ヲ用井極メテ能ク口腔ヲ屢々洗滌シ食物ニハ凡
テ軟カナル物ヲ擇ビ又葡萄酒、牛乳等ヲ與フ但シ水銀中毒性ノ者ニハ
汞劑ヲ止ム

クロール酸カリウム 五、〇
餾水 五〇〇、〇
右調和含嗽用
サリチール酸 五、〇
餾水 五〇〇、〇

右調和含嗽用
チモール 〇、二五
安息香酸 三、〇
カイカリ丁 一五、〇
昇汞 〇、八

アルコホル

一〇〇、〇

阿片丁

五、〇

薄荷油

〇、七五

餾水

五〇〇、〇

右調和滴劑ニナシ一盞ノ水ニ滴
注シテ其著シク溷濁スルヲ度ト
ナシ含嗽ニ用ユ（汞毒口内炎ニ
ハ之ヲ忌ム）

右調和含嗽用
其他收斂藥ヲ含ミタル煎劑又ハ浸劑ヲ
用ユルモ亦可ナリ

過マンガン酸カリウム 二、〇
餾水 五〇〇、〇
右調和含嗽用
ヨードホルムワゾーゲン
（一五%） 二〇、〇
右塗布料

五倍子丁 各五、〇
右調和齒齦塗布料
菩提樹炭 二〇、〇
右精細研和齒磨用
其他齒痛及驅齦法ノ條ヲ參考スベシ

甲狀腺腫

Struma. ストラーマ

原因 地方性或ハ散在性ニ來ルモノニシテ瘴氣毒タル一種ノ么微生體ニ
由ルナランカ而シテ該體ハ飲用水ト共ニ人體中ニ侵入シテ殊ニ甲狀腺
ノ充血ヲ起スモノナラン○本症ヲ多發スル地方ニハ「イデオート」ヲ

潰瘍性口内炎 甲狀腺腫

合併スルコト屢々ナリ

診候 甲状腺ノ増大ヲ呈スルモノニシテ單純肥大性甲状腺腫、膠様甲状

腺腫、囊状甲状腺腫、血管性甲状腺腫、纖維様甲状腺腫ノ五種ヲ區別ス

豫後 外科的手術ヲ行モ其一部ヲ剔出シテ治シ得ル場合ニ於テノミ良

療法 實質性ニ在テハ濃厚或ハ稀薄ノ「ヨード」丁幾或ハ「ヨード」グリセ

リン」ヲ塗布シ又ヨードカリウム軟膏或ハ灰白軟膏ヲ塗擦シ而シテヨ

ード水ノ内服又ハ罨法ヲ行ヒ或ハ「ヨード」カリウム」ヲ内服セシメ又ヨ

ードフォルム琶布(グッセン)パウエル氏)等用井テ効有リ○輓近胸腺或

ハ胸腺錠又タ甲状腺若クハ甲状腺錠劑ヲ用井テ良効ヲ奏シタルモノア

リ宜シク之レヲ使用シテ可ナリ但シ甲状腺錠劑ヲ用ユルトキハ心臟及

ビ尿ニ注意スベシ

ヨードカリウム 二、〇

苦丁 三、〇

溜水 二〇〇、〇

右一日三回二日分服 二〇、〇

ヨードワゾーゲン 右塗擦料

ヨードフォルム 一、〇

エーテル 五、〇

ホレーフ油 九、〇

右黑色瓶ニ貯ヘ毎五日乃至每八

日一乃至二筒注入料 一、〇

ヨードフォルム

エーテル 各七、〇

グリセリン 右每八日一筒宛

無臭ヨードフォルム(トンカ豆ヲ用

キテ無臭トセルモノ) 一〇、〇

ワゼリン 一五〇、〇

右調和刀背ノ厚許ヲ綿布ニ攤シ

テ頸圍ニ貼シ醋酸礬土水ニ浸シ

タル壓定巾ヲ以テ其上ヲ捲キ更

ニ「ゴム」紙ヲ以テ被包スルナリ

三乃至八週ノ間朝夕之ヲ交換ス

ベシ

ヨードワゾーゲン(六%) 一〇〇、〇

右外用 一〇、〇

ヨードカリウム 一〇、〇

ヨード 二〇、〇

グリセリン

右調和塗布料

ヨード丁 各一〇、〇

五倍子 右調和塗布料

ヨード丁 一五、〇

右塗布料(時トシテ實質内ニ注

射ス)

ヨード 五、〇

純アルコホル 三〇、〇

右調和塗布料(強ヨード丁幾英

藥局方)

アリストル 〇、三

カリ石鹼 三〇、〇

エーテル 各五、〇

アルコホル 右軟膏トシテ毎朝夕皮膚ニ塗布

シプリススニツツ氏罨法ヲ其上

ニ施シ毎朝軟膏ヲ洗去シ更ニ研

酸ワゼリンヲ塗擦ス可シ

汗疹

Sudamina. スダミナ

原因 汗腺ノ分泌機能亢盛ニ係ル刺戟ニ由ル

診候 汗發性ノ發疹ニシテ無色或ハ赤色一様ナラズ濕疹ニ陥ルコト多シ

療法 澱粉、石松子末或ハ皓礬末等ヲ撒布ス其他ノ藥ハ無益ニシテ而シテ刺戟藥ノ如キハ却テ害アリ

鬚瘡

Sykosis. シコシス

原因 單純性ハ瘰癧ト同原因、寄生性ハ「トリヒョヒートン、トングズラン

ス」ノ寄生

診候 口圍及下顎部ニ發スル小瘡ニシテ結節狀ヲナス者及ビ膿疱ヲナス

者アリ皆各一條ノ鬚ヲ通ジ毛囊潰滅シテ其部禿トナル

療法 先ヅ脂肪ヲ結節ニ塗布メ之ヲ軟和除去スルノ後石鹼或ハ石鹼精ヲ

以テ洗フベシ且毎日剃鬚或ハ拔鬚ノ其部ノ皮膚ニハ軟膏ヲ貼用ス可シ

ヘブラ氏軟膏

三〇、〇

白降汞

二、〇

右刀背ノ厚許ニ「リント」布ニ攤

ラノリン

一五、〇

シ夜間貼用スベシ

ワゼリン

五、〇

右調和軟膏ニ作ル用法同上

赤降汞

〇、五

緩和軟膏

二〇、〇

右調和軟膏ニ作ル

又或ハワキルソン氏軟膏ヲ用ユ

二、〇

酸化亞鉛

三〇、〇

ワゼリン

三〇、〇

右和調軟膏ニ作ル

三〇、〇

レゾルチン

一〇、〇

白色ワゼリン

五〇、〇

澱粉

五〇、〇

酸化亞鉛

各二五、〇

右泥ニ作ル塗擦用一週二三回

各二五、〇

ヘブラ氏軟膏

三〇、〇

水銀軟膏

一〇、〇

右調和軟膏ニ作ル

遺傳梅毒

Syphilis congenita.

シフキリス、コンケンタ

タンニン

五、〇

硫黃乳

一〇、〇

酸化亞鉛

一〇、〇

澱粉

各一七、五

ワゼリン

五〇、〇

右調和爲軟膏軟布ニ攤シ貼用

五〇、〇

タンニン酸

五、〇

硫黃乳

一〇、〇

酸化亞鉛

一〇、〇

澱粉

各一七、五

ワゼリン

五〇、〇

右軟膏ニ作ル「リント」布ニ攤シ

五〇、〇

貼用

五〇、〇

其他切開、燒灼或ハ針刺等ノ諸法モ亦

行フテ効有リ

原因 實父或ハ生母等ヨリ梅毒遺傳(後天梅毒參照)
診候 全身薄弱、足臑及肛圍赤色ニシテ光澤ヲ放チ、鼻孔充塞等ヲ主トシ

ハツチンソン氏三症等諸般ノ梅毒症候ヲ呈ス
療法 可成母乳ヲ與フ可シ極メテ滋養性食物ヲ與ヘ殊ニ口腔、陰部及ビ肛門ノ清潔ヲ專ラトシ局所療法全身療法共ニ充分ナラザル可カラズ其
他傳染セザル様注意シ兼テ兩親ニモ亦適應ノ療養ヲ施スベシ

- 甘汞 二、〇
 - 白糖 一〇、〇
 - 右十五包ニ分チ朝夕每一包
 - 第一沃汞 〇、二
 - 白糖 一〇、〇
 - 右十五包ニ分チ朝夕每一包
 - 甘汞 〇、二
 - 含糖炭酸鐵 〇、五
 - 白糖 一〇、〇
 - 右研和散十五包ニ分チ朝夕每一包
 - 昇汞 〇、一
 - 鹽水 〇、一
-
- 鹽水 一〇〇、〇
 - 右調和每食後一小兒匙
 - 一二歳ノ小兒ニ在テハ注意シテ時々左ノ軟膏塗擦法ヲ試ムベシ但シ持續ス可カラズ
 - 水銀軟膏 各二、〇
 - 緩和軟膏 右調和十分シテ五日間ニ用ユ
 - (毎日二回)
 - 昇汞 五、〇
 - 硃砂 二、〇
 - 鹽水 二〇〇、〇

右調和三浴ニ分用ス
陰部、肛圍ニ發シタル皮膚剝脱性或ハ潰瘍性ノ膿疱ニハ左方ヲ處スベシ
昇汞 〇、一
鹽水 二〇、〇
右調和塗布料

口粘膜膿疱或ハ口角、鼻翼等ノ裂瘡ニハ灰白軟膏ヲ貼シ或ハ左方ヲ處スベシ
赤降汞 〇、五
緩和軟膏 一〇、〇
右調和軟膏ニ作ル

後天梅毒

Syphilis acquisita. ジフケリス、アックイシュータ

原因 明治三十八年シヤウヂシ氏發見ノスピロヘーテ、バルリダノ傳染ナリ

診候 全身諸器臟ヲ侵シ千狀萬態ナルガ故ニ之ヲ畧ス
療法 第一期梅毒

(イ) 微毒性初期疾患(原發症)ノ療法

此期ニ於テハ可成其患部ノ切除ヲ賞用スベシト雖トモ之ヲ以テ第二期症候ノ發生ヲ果シテ防ギ得ルヤ否ヤハ豫言スルコト能ハザルナリ○此期ニ於テスル局處療法ハ二種ノ目的ニ出ヅル者ニシテ第一ニハ甚シク潰爛セントスル潰瘍面ヲ清潔ニシテ以テ其潰爛ヲ防ギ第二ニハ硬結ヲ吸收セシ

ムルニ在リ而シテ第一ノ目的ニハヨードフォルム、赤降汞軟膏（赤降汞一、〇ワゼリン二〇、〇）等ヲ用井第二ノ目的ニハ水銀硬膏、水銀硬膏ムル、水銀軟膏等ヲ用ユ其他ノ治則ハ硬性下疳ノ條下ヲ参照スベシ

(ロ) 全身療法

第一期ニ於テ全身水銀療法ヲ試ムルコトハ一定ノ場合ヲ除クノ他ハ適當ナラズ

初期疾患ニシテ或ハ蔓延症、壞疽性、侵蝕性等ノ潰瘍ニ包莖若クハ嵌頓包莖ヲ合併セル者等ニ在テ水銀塗擦或ハ注射等ノ水銀療法ヲ行ヒ又著シキ硬性腺炎ニ在テハ沃鐵舍利別（沃鐵舍五〇、〇水一五〇、〇毎日二食匙）ヨード肝油ヨード、一肝油五〇、〇毎日二乃至八茶匙）等ノヨード療法ヲ施スニ過ギズ而シテ傍ラ安靜ヲ守ラシメヨード軟膏、ヨード丁幾、水銀軟膏等ヲ其腺ニ塗擦シ或ハ水銀硬膏ヲ貼シ又々兼ヌルニ有力ノ滋養食ヲ以テスベシ

(ハ) 攝生

此期ニ於ケル微毒ノ攝生ニハ第二期ニ及テ被ムルベキ劇シキ發疹ノ侵襲ヲ豫防スルガ爲メ其最モ病毒ニ侵サレ易キ體部ノ療法ヲ施スニ在リ即口

内炎、皮脂漏、頭髮脫落、濕疹（殊ニ生殖器及肛門ニ於ケル）、足汗過多、齲齒、胃加答兒、常習便秘等其主ナル者ニシテ是等ノ療法ヲ怠ルコトナク而シテ貧血家ニハ鐵、「キニーネ」ノ内服ヲ用井鐵浴ヲ行ヒ又神經家ニハ緩性水治法ヲ施スヘシ

第二期微毒

全身驅微法

(甲) 水銀療法

第二期ニ在リテハ全身驅微法トシテ專ラ強力ナル水銀療法ヲ開始スベシ。水銀療法中最モ有力ナルモノハ塗擦法及注射法ノ二ナリ而シテ第一回ノ療法ヲ結了シタル後ハ往時ノ對症法ヨリモ軌近行ハル、フールニエー氏ノ慢性間歇的療法ヲ用ユベシナイセル氏ハ該法中ニ主水銀療法ニ副水銀療法ナルモノヲ加ヘタリ

(イ) 塗擦療法

水銀軟膏 二、〇乃至五、〇
右爲一包蠟紙ニ包ミ與フ一日一
包ツ、塗擦用
水銀レゾルビン 二、〇乃至五、〇

右同上

ハーゲン

右二一四、〇宛

（塗擦療法ニ用ユ）

本療法ヲ施スニハ先ヅ患者ニ全身浴ヲ命ジテ皮膚ヲ清潔ニスベシ若シ全身浴ヲナシ能ハサルハ塗擦前該部ノ皮膚ヲ洗滌清潔ニシ而テ一包ノ灰白軟膏ヲ開キ之レヲ手掌上ニ取リテ塗擦部ニ塗り輕ク且ツ徐々ニ十五分乃至二十分間塗擦シ次ニ綿花ヲ以テ該部ヲ蔽ヒ繃帶ヲ施ス翌日乃至レバ繃帶ヲ除キ該部ヲ洗滌シ更ラニ他部ニ塗擦ス此ノ如ク治療ヲ加フル第一日ヨリ第六日ニ達ス第七日ニハ塗擦ヲ休ミ必ズ全身浴ヲナサシム之レヲ療法ノ一週ト稱ス患者ヲ自ラ塗擦セシムルニハ左ノ順序ニ從フベシ

第一日 灰白軟膏ヲ右手ノ掌面ニ採リ之ヲ左肩ヨリ左ノ前膊ノ中央ニ至ル迄ノ部分ニ輕ク塗擦スルコト十五分乃至二十分間ナルベシ塗擦後右手ヲ洗滌スベシ

第二日 灰白軟膏ヲ左手ノ掌面ニ採リ右肩胛部ヨリ右前膊ノ部ニ至ルマデ塗擦スルコト第一日ノ如シ

第三日 第一日ノ如ク右手掌面ニ水銀軟膏ヲ採リ左大腿ニ塗擦スベシ

第四日 第一日ノ如ク水銀軟膏ヲ採リテ右大腿ニ塗擦スベシ

第五日 第一日ノ如ク水銀軟膏ヲ採リ左下腿ニ塗擦スベシ

第六日 第一日ノ如ク水銀軟膏ヲ採リ右下腿ニ塗擦スベシ

第七日 塗擦ヲ休止シ全身浴ヲ命ズ

第八日 ヨリ更ラニ同一ノ順序ヲ以テ塗擦ヲ反覆スベシ塗擦ノ回數ハ奏効ノ如何ニ從フモノニシテ素ヨリ豫メ之レヲ一定シ難シト雖ドモ通常斑狀黴毒疹ハ二十回乃至三十回ノ塗擦ヲ要シ膿疱性黴毒疹、潰瘍性黴毒疹、護膜腫性黴毒疹、骨及内臓ノ黴毒等ニハ尙ホ其以上ノ塗擦ヲ要ス通常五週即チ三十回ノ塗擦ヲナスベシ而シテ尙ホ奏効ナキトキハ其以上此法ヲ持續スベシ

(ロ) 注射療法

注射ニ供スル汞劑中不溶解性ノモノアリ溶解性ノモノアリ不溶解性ノモノハ一週一回之レヲ注射シ溶解性ノモノハ日々之レヲ注射ス甲ニ屬スルモノハ「サリチール酸水銀等」ニシテ乙ニ屬スルモノハ昇汞等ナリ

・サリチール酸水銀

一、〇

タンニン酸水銀

三、〇

流動パラフィン

一〇、〇

「クロールナトリウム」

一、〇

右注射料(一週一筒宛)
主水銀療法トシテ撒酸汞ヲ用ユルトキ
ハ八回乃至十回ノ注射ヲ以テスベシ

右皮下注射料(毎日一回一筒宛)
主水銀療法トシテハ三十回乃至四十回ノ注射ヲ要ス

〇、一

(ハ) 内服療法

内服ニ供スル汞劑ノ處方左ノ如シ

タンニン酸水銀 三、〇 各適宜

甘草羔及末 右爲丸六十粒一日三回每食後一

丸乃至二丸宛 二、〇 各適宜

阿片 各適宜

甘草羔及末 右爲百丸一日三回食後一丸乃至

二丸宛 〇、六

メルガール 〇、六

毎日三回一瓿宛

サリチール酸汞

甘草末

凡テ水銀劑ノ療法ニハ其内服、塗擦或ハ皮下注射ニ論ナク特ニ口内ノ攝生ニ注意シテ口粘膜ヲ刺戟スル飲食物ヲ禁ジ喫烟ヲ斷テ而シテ、クロール酸カリウム、過マンガン酸カリウム、石炭酸及サリチール酸等ノ含嗽劑又五倍子丁幾、ラタニア丁幾等ノ塗布及清涼齒磨粉ヲ用ユベ

龍膽越 各適宜

右爲六十九丸一日三回每食後一丸 宛

黃色ヨード汞 〇、六乃至三、〇

甘草羔及末 各適宜

右爲六十九丸一日三回每食後一丸 宛

昇汞 〇、一二

クロールナトリウム 一、〇

甘草羔及末 各一、〇

右爲三十九丸一日三回每食後一丸 宛

シ尙ホ口内炎ノ條下ニ就テ治則ヲ參考スル所有ルベシ○其他住所空氣及飲食ノ攝生ニモ亦注意ヲ加ヘ空氣ヲ新鮮ニシテ軟和ナル者ヲ擇ビ居所ハ之ヲ清潔ニシテ適宜ノ運動ヲ營ミ精神ヲ安逸ニシ滋養無刺戟性ノ食物ヲ與ヘザル可カラズ○要スルニ水銀療法ハ微毒ノ諸症候消失後モ尙ホ聊カ持續スルヲ可トス故ニ其療養凡ソ四乃至六週間ノ久キニ瀾ルベシ

(乙) ヨード療法

水銀ニ亞テ有効ナルモノハ「ヨード劑ナリ而シテ第二期ニアリテハ發熱、頭痛及ビ骨關節神經ニ發スル微毒性疾患ヲ療スルトキニ用ユ

沃剝 二、〇 アルテア末 一、〇

苦丁 三、〇 ゴム漿 適宜

餹水 二〇〇、〇 右爲三十九丸一日三回一丸乃至二丸宛

沃剝 右一日六回二分服 二、〇乃至一〇、〇

餹水 二〇〇、〇 沃剝 三、〇

沃剝 右一日三回每食後二分服 二〇〇、〇 龍膽末及越 各適宜

甘草羔 一〇、〇 丸宛 右爲六十九丸一日三回五乃至一〇丸宛

沃剝 一〇、〇 二五%ヨザピン 二〇〇、〇

甘草羔 三、〇

右毎日二十立方仙迷醫部注入

(十日間持續スベシ)

一〇%ヨヂピン

一〇〇、〇

薄荷油

三滴

右一日三回一茶匙宛

ヨーチオーム

グリセリン

各二五、〇

右毎日一回大腿ニ塗布スベシ

サヨヂン錠

(〇、五)

右與二十個

毎日二乃至六個

微毒ノ難症即チ膿疱性發疱或ハ初期既ニ早ク潰瘍トナル發疹及増悪ノ疾速ナル症ニ在テハ強壯療法ヲ主トシ砒石劑、鐵劑、窒篤滿氏煎ノ内服等ヲ用ユベシ若シ重症ニ於ケルガ如ク全身療法ヲ必要ナリトシテ水銀療法ヲ行フ時ニ在テハ注意シテ其少量ヲ用井且同時ニ強壯療法ヲ施サバ爾可カラズ又既ニ危險症ヲ呈スル者ニハ水銀及「ヨード」ヲ前後ニ換用スルコトナク兩ナガラ同時ニ應用ス可シ然レモ經過中若シ水銀内服ノ爲メニ胃加答兒ヲ併發スルハ頗ル危險ナル者ナルヲ以テ水銀ノ後用ヲ廢セザル可カラズ是故ニ水銀療法ハ一般ニ第一年第二年ニ於テ四乃至六ヶ月ノ休藥時ヲ以テ行ヒ且同時或ハ次デ「ヨード」療法ヲ行フヲ宜シトス

○第三期微毒

此期ニ於テスル微毒療法モ亦第二期ノ如ク水銀及「ヨード」ヲ用ユニヨ

ド「劑ハ特ニ第三期ニ於テ其効著明ナリ然レモ「ヨード」劑ニテ治シタルト雖モ必ズ之レニ次クニ水銀療法ヲ以テスベシ危險ナル場合ニハ水銀及「ヨード」ヲ同時ニ應用シテ其多量ヲ用井ズ只之ヲ持續シ而シテ二三ヶ月休藥後假令新ニ諸症候ヲ發スルヲナキモ尙一二回同療法ヲ反覆スベシ其他局所療法ニハ外科的療法ヲ要スルヲアリ

脊髄癆

Tabes dorsalis.

ターベスドルザーリス

原因 專ラ微毒其他房事過度、濕冷地上ノ坐臥、下半身勞力過度、心身過勞、急性傳染病、外傷、麥角中毒、遺傳等ニ因スル脊髄後索ノ變質ナリ

○三十年ヨリ五十年ノ男子ニ多シ

診候 第一期(神經痛期)ニ在リテハ下肢ノ錐穿樣電痛、腰背絞窄、膝蓋腿

反射消失(ウエストフアル氏徵候)、瞳孔不變等ニ始マリ次デ第二期(運動不整期)トナリ歩行困難、揚脚驚步、直身閉眼體振(ロンベルグ氏徵候)、觸感及痛覺ノ減退、利尿失禁、膀胱炎等ノ症候ヲ來タシ終ニ第三期(載癱期)トナリ下肢ノ麻痺、陰萎、呼吸困難、腎痛等ヲ起シ漸々衰弱スルモノナリ

豫後 概テ不良ナリ經過ハ數年乃至十年

療法 微毒ノ徵候或ハ疑アルモノニハ必ず驅微法ヲ施ス可シ其他初期ヨリ褥ニ就カシメ毫モ心身ヲ勞セシメズ内服ニハ「ヨード」劑ヲ與ヘ又温浴、電氣療法(平流電氣ヲ用井脊椎部ノ上方ニハ積極、下方ニハ消極、毎二日一回五分間)按摩法代償性練習法等ヲ用井テ効アリ疼痛ニハ麻酔劑ヲ與フ可シ

水銀軟膏

五、〇

右二分トナシ塗擦料二日分

硝酸銀

一、〇

ヨードカリウム

三、〇乃至六、〇

白陶土

一〇、〇

苦丁

三、〇

樟

右爲百丸一乃至二丸

單舍

二〇〇、〇

白糖

一、〇

右一日三回毎食後二日分服

白糖

二、〇

プロームカリウム

五、〇

單舍

一五〇、〇

法水

五、〇

單舍

一五、〇

桂皮水

二五、〇

右調和一日三回每一食匙(殊ニ神經質家ニ用ユ)

右調和朝夕二回毎十乃至二十滴

絛蟲

Taenia. テニア

原因

鮭、鱒(擴節裂頭絛蟲)牛肉(無鈎絛蟲)豚肉(有鈎絛蟲)ノ本病ノ囊

蟲ヲ含有セル者ヲ生食或ハ半熟食スルヨリ該蟲ノ腸内ニ寄生スルニ由ル而シテ本邦ニ見ルトコロノ絛蟲ハ過半擴節裂頭絛蟲ナリ

診候

食思缺乏、惡心、嘔吐、疝痛、流涎、鼻痒、瞳孔散大、心悸亢進、下痢或ハ便秘、耳鳴等ノ諸現症ナリトス

療法

豫防法最モ必要ナリ、驅蟲療法ハ絛蟲片節ノ排出ニヨリテ其腸内ニ存スルノ確診ヲ得タル者ニ行フ可シ故ニ唯單ニ患者ノ訴フルトコロ

ニ據リテ之ヲ行フ可カラズ必ず先ツ其片節ヲ見ルヲ要ス驅蟲療法ハ一ノ攻撃的療法ナルヲ以テ患者ノ衰弱セルモノ肺癆アルモノ虛弱ナル小兒老人及妊婦等ニ向テハ之ヲ施ステ得ズ驅蟲ノ方種々アリ次ニ述ブル所ノ二方ハベルツ博士ノ方法ニ據ルモノニシテ先ツ蓖麻子油一食匙ヲ與ヘ一日間米飯及麥飯ヲ禁ジ鹹味或ハ酸味ノ食物ノミヲ食セシメ水若クハ日本酒ヲ飲用セシメ翌朝驅蟲劑ヲ用ユベシ
幼稚若クハ虛弱ナル小兒ニハ驅蟲法ヲ行フベカラズ〇稍々年長ノ小兒

ニシテ體質佳良下痢ノ弊習ナキ者ニハ左ノ藥劑ヲ用ユルモ妨ゲナシ而シテ其前夜先ヅ便ヲ軟ヅルガ爲メ唯稀薄ノ肉羹汁ノミヲ與ヘ翌朝服藥後モ尙之ヲ用ユ可シ若シ其藥劑ヲ吐スルトキハ更ニ同藥ヲ内服セシムルヲ宜シトス

(甲)一日間豫備ヲナシタル後早朝〇、

五乃至五、〇ノ綿馬越ヲ頓服セシメ三時間ノ後「カル、ス」泉鹽又ハ複方「センナ」浸ヲ與フベシ

綿馬越 五、〇

右丸トシテ或ハ膠囊ニ入レ頓用 三〇、〇

複方センナ浸 三〇、〇

右頓用 一五、〇

カル、ス泉鹽 一五、〇

右一盞ノ水ニテ用ユ

(乙)豫備前方ノ如クニシテ左方ヲ用ユ

新鮮柘榴根皮 六〇、〇

ヲ五〇〇、〇ノ冷水ニ浸ス一廿四時間ノ後煮沸シテ二〇〇、〇

トナセルモノニ

綿馬越 三、〇

右二分シテ三十分時ヲ隔テ、用

キタル後蓖麻子油ヲ用ユ

蓖麻子油 二〇、〇

右頓用(以上乙方)

柘榴根皮 五〇、〇

重曹 五、〇

之ヲ四〇〇、〇ノ水ニ浸シ二

十四時間放置シ後煮沸シテ其

量二〇〇、〇ト爲シ之ニ綿馬

越幾斯五、〇ト橙皮舍二〇、

〇ヲ加フ

右全量ヲ一乃至一時間半内ニ於

テ三回ニ分服セシム

柘榴根皮 五〇、〇

重曹 五、〇

二十四時間許四〇〇、〇ノ水

ニ浸出シ煮沸シテ其量二〇

〇、〇ト作シ之ニ「マンナ」舍

利別二〇、〇ヲ加フ

右全量ヲ毎半時間ヲ以テ三回ニ

分服セシム

又柘榴根皮ハ其味不佳ナルガ故ニ患者

若シ之ニ堪ヘザルトキハ先ヅ食道内ニ

消息子ヲ送リテ一回ニ注入スルヲ可ト

ス此際ニ患者ヲシテ前一日間其食ヲ斷

タシメ且ツ下痢ヲ投シテ腸ノ内容物ヲ

排除ス可シ

コソ花末 二五、〇

蜂蜜 適宜

右調和砥劑ニ作リ一時間以内ニ

於テ二回ニ分服セシム

綿馬越 各一〇、〇

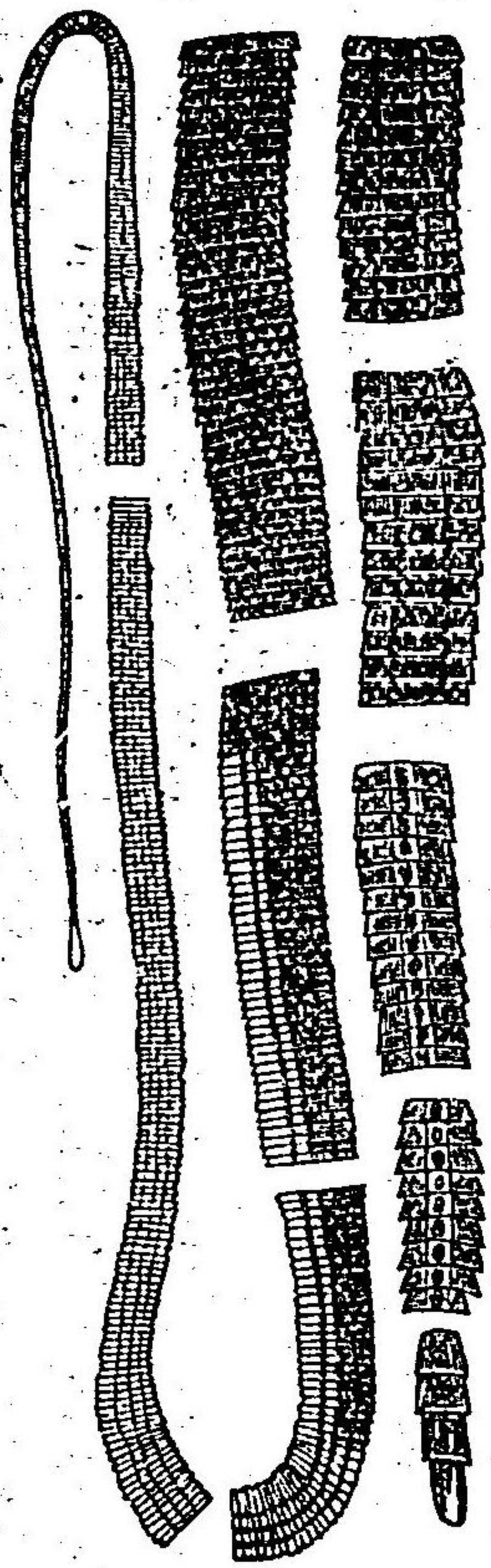
柘榴根皮越 三、〇

ヤ一ラツパ末 三、〇

右研和丸七十粒ニ作り先ヅ其十

五乃至二十粒ヲ前斷食日ニ服セ

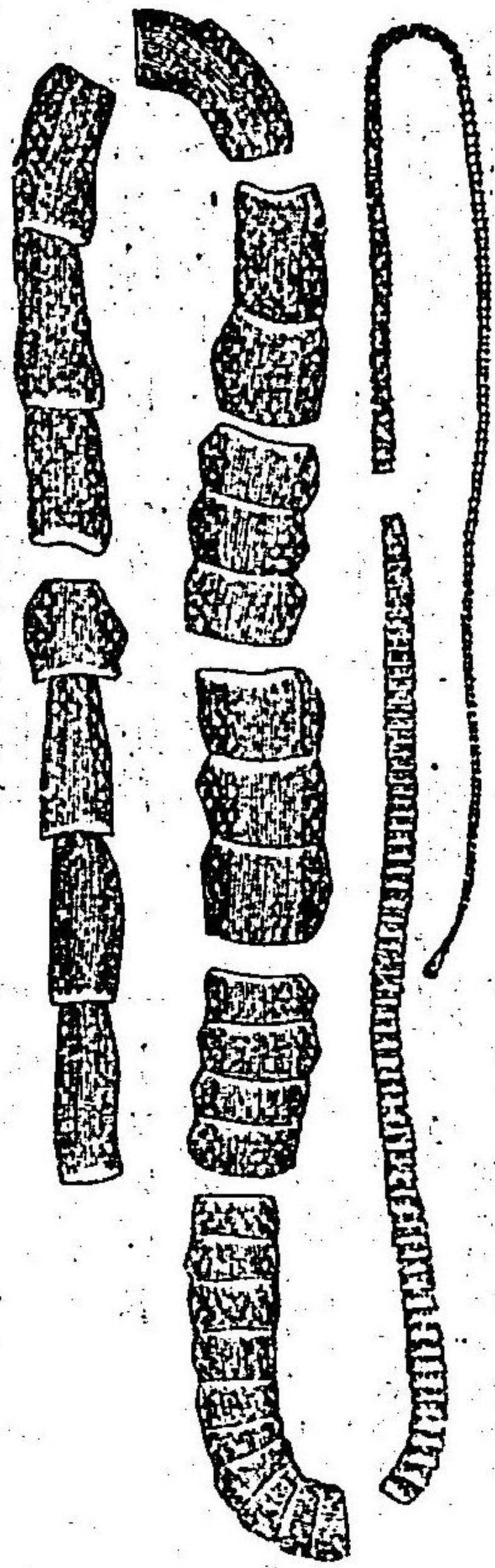
第五十五圖



圖ノ蟲絲頭裂節擴

擴節裂頭絲蟲ハ人體寄生蟲ノ最大ナル者ニシテ其長キモノハ九「メ
「テル」ニ達ス頭ハ扁平橢圓形ニシテ兩面ニ深キ吸溝ヲ有シ頸ハ長
クシテ細キコト絲ノ如シ而シテ片節ノ多キ三百乃至千二百ヲ算ス本
圖ハ其各節ノ自然大ヲ示スモノナリ

圖一十五第



無鈎條蟲

シメ次日ニ至リ二三時間以内ニ
其殘餘ヲ服盡セシム(ベツテル
ハイム氏法)
下劑ヲ要スル場合ニハ左方ヲ處スベシ
維也納下劑 二〇〇、〇
右灌腸料

カマラ末 二〇、〇
綿馬越 五、〇
右膠囊三十個ニ分包シ每十五分
時一囊ヲ與フ
カマラ末 二〇、〇
右散五包ニ分チ每十五分時一包

コソ花越 一〇、〇
適宜
コソ花末 右研和丸二十粒ニ作り每十五分
時四粒
アカシヤ皮 四〇、〇
右茶劑トナシ食前三乃至四時間
内服(チール氏)
ハヅ油 一滴
クロ、フホルム 三、〇
グリセリン 三〇、〇
右調和用法同上
硫酸ハレチエリン 〇、三
タンニン酸 〇、五
鹽水 三〇、〇

右調和內服
小兒ニハ左方ヲ處ス
柘榴根皮越 二、〇
薄荷舍 一〇、〇
蜂蜜 適宜
右調和舐劑ニ作り一日三回分服
コソ花及同葉末 一〇、〇
精製蜂蜜 二五、〇
右調和同上
綿馬越 一、〇
蜂蜜 適宜
右調和同上
又或ハ前段ニ掲ゲタル大人用藥劑ヲ減
量シテ小兒ニ應用スルコトアリ

破傷風

Tetanus テタヌス 強直症

原因 千八百八十九年醫學博士北里柴三郎氏ノ證明セラレタル破傷風
「バチルレン」ナリ

破傷風

診候 眼瞼破裂縮小、外背舉上、開口困難ヲ發シ咀嚼筋強直性攣縮ニ罹ルヲ認ム(牙關緊急)後更ニ項背諸筋ノ痙攣ヲ續發シ(角弓反張)終ニ軀幹及ビ四肢ノ筋ニ及ブ知覺過敏反射機能甚シク亢盛、體温四十度及ビ其以上ニ達スルコトアリ

豫後 重症ハ不良輕症ヲ治スルコトアルモ常ニ疑

療法 病室ヲ安靜ニシ其温度ハ可成的之レヲ冷カニ平等ニ保タシメ疼痛

ニハ麻醉劑(皮下注射ヲ最良トス)「クロ、フオルム」ノ吸入ニ兼テ抱水「クロラール」及ビ「モルヒチ」ノ内服(常ニ輕眠ヲ來ス)等用井テ効有リ○創傷ハ可及的之レヲ除去スベシ○牙關緊急ニハ麻醉劑ヲ用井併セテ人工榮養ヲ施サバル可カラズ○熱湯壓定巾(攝氏五十乃至五十五度)ヲ後頭及脊椎ニ貼シ或ハ之ニ反シテ冷水壓定巾ヲ以テスルモ亦可ナリ○近年破傷風血清療法ヲ用ユ、其用法ハ血清ニ添ヘルトコロノ用法書ニ詳ナリ

- 抱水クロラール 二、〇
- 抱水クロラール 五、〇
- 餉水 一〇〇、〇
- 餉水 一〇〇、〇
- アラビアゴム漿 各五〇、〇
- 橙皮舎 二〇、〇
- 右調和灌腸用
- 右調和十五分時一食匙

臭剝 餉水

一〇、〇乃至二〇、〇 二〇〇、〇

右調和一日三回一食匙一盞ノ水ニ和シテ用ユ

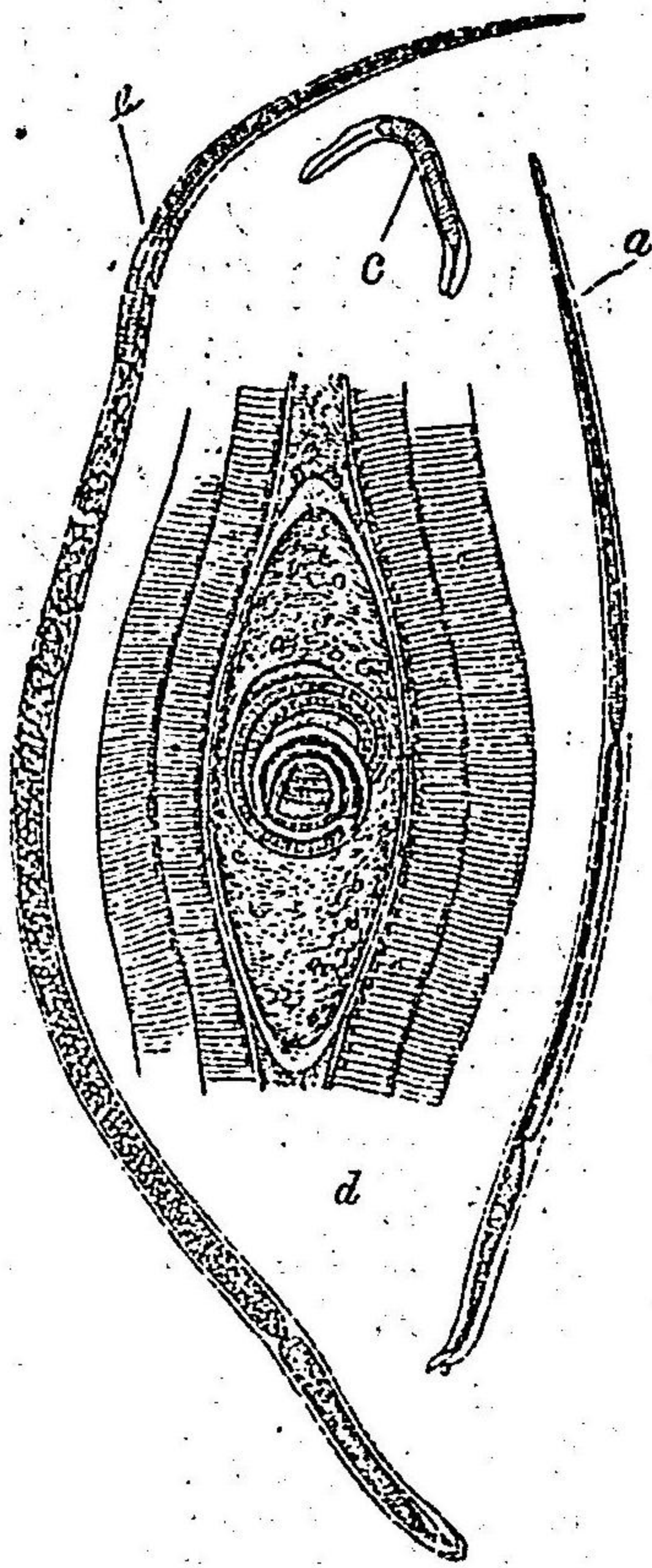
旋毛蟲

Trichinen.

トリヒチーン

原因 「トリヒチナ、スピラーリス」ト名クル蟲ヲ含ム肉類殊ニ家猪ノ肉ヲ食用シタルニ由ルモノ多シ

圖二十五第



圖ノ蟲毛旋

「右方ハ雄蟲ニシテ一、五」ミリメートル「左方ハ雌蟲ニシテ三、〇」ミリメートル「中央上方ハ幼蟲其下方ハ筋肉内ニ旋毛蟲ノ舍ルヲ示ス

破傷風 旋毛蟲

診候 食思缺乏、胃部壓重、虎列拉様下痢、嘔吐、發熱等ニ始マリ次テ腹圍内部ノ穿刺性劇痛、或ハ癩麻質斯様筋痛、發汗、眼瞼浮腫、呼吸困難、不眠、煩渴、心悸亢進等ヲ來タスモノナリ

豫後 輕症ハ良、重症ハ不良

療法 旋毛蟲ノ尙ホ胃腸内ニ在ル者ニハ胃ノ洗滌ヲ行ヒ或ハ下劑ヲ投ズ可シ而後ノ療法ハ對症的ニシテ蓖麻子油、甘汞等緩下劑ヲ用ユルニ過ギズ○重症ニシテ弛張熱ヲ呈シ安眠ヲ得ザル者ニハ先ヅ温浴ヲ取ラシメ毎夕「モルヒネ」ヲ與ヘ且ツ晝夜共ニ褥中ニ安臥セシメ解熱劑ニハ「サリチール」酸ヲ用井テ効アリ○豫防ニハ生豚肉ヲ食スルヲ禁ズ

- 甘汞 〇、二 餾水 一八〇、〇
- ヤーラツパ末 各一、二 疼痛甚ダシキトキハ左方
- 白糖 右半量乃至全量 鹽莫 〇、二
- ベントソール 一〇、〇 餾水 一〇、〇
- ゴム漿 各三〇、〇 右半筒乃至一筒
- 薄荷水

肺結核、喉頭結核

Tuberculosis pulmonum et

laryngis. ツベルクルローシス、プルモーム

エト、ラリンギス

原因 結核「バチルス」ノ傳染ナリ(着色圖ヲ看ヨ)

診候 頑固性ノ咳嗽、膿球、血液、結核菌及彈力性纖維ヲ含メル咯痰、肺ノ水泡音、聲音震顫ノ強盛、咯血、胸壁陷没、鼓濁音、空洞音、鑼性音、盜汗、

下痢、食思欠損、日晡潮熱、肌膚蒼白、全身削衰等

喉頭ニ發スレバ嘶嘎及ヒ喉頭痛等ヲ兼ヌルモノナリ

療法 新鮮善良ノ空氣中ニ住居セシメ冬季ニハ南方ニ轉地療法ヲ行フ假令熱候アルモ敢テ旅行ヲ妨ゲズ然レドモ若シ既ニシテ肺ニ空洞ヲ生ジ

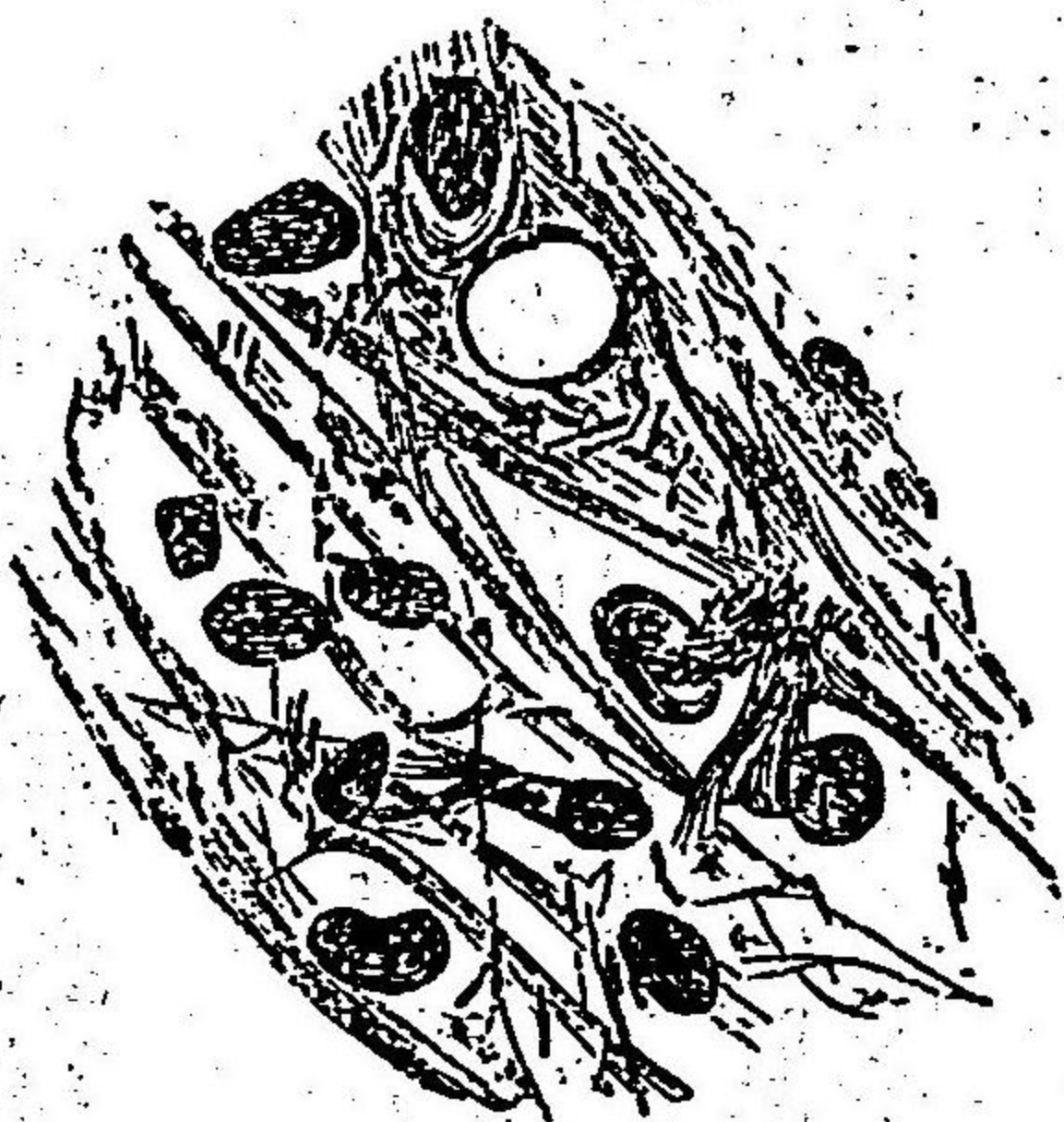
タル者ハ轉住療法ハ却テ害アリ○本症ノ治則中賞用スル所ノ者ハ「グアヤコール」、「クレオソート」、其他熱候微弱ニシテ咯痰多量ナル者ニ寒暖ノ變化甚シカラザル高燥轉地ノ療法ヲ行ハシメ又咯血ノ傾向有リテ日晡潮熱シ且乾咳等ノ症候アル者ニハ暖濕温和海濱ノ轉地療養ヲ行ハシムル等良法ナリトス要スルニ夏ハ山地ニ轉ジ或ハ終始善良ナル空

氣ヲ求メ滋養食、肝油、「セルテルス」水、牛乳等ヲ與ヘ解熱法ヲ力メ鎮咳劑ヲ與ヘ無熱時ニハ極メテ滋養性ノ食物ヲ與ヘ鐵劑（注意ヲ要ス）ヲ用井或ハ肺ノ運動ヲ鼓舞シ或ハ冷水ヲ用井テ皮膚ノ慣寒ヲ養成シ又乳精療法或ハ葡萄療法ヲ行フ等肺癆治則ノ一般ナリトス

○喉頭ノ結核性潰瘍ニハ腐蝕ヲ禁ズ又咳嗽、嚥下困難、輕度ノ呼吸困難等ハ「モルヒチ」ノ吸入或ハ「コカイン」ノ塗布（喉頭鏡ニ依リ）ヲ用井テ之ヲ鎮靜スルコトヲ得ベシ輕症ナル者ハ明礬、タンニン酸等ノ吸入ヲ用ユ其他對症療法ヲ施スニ過ギズ然レドモ病勢進ンデ喉頭ノ狹窄セルガ爲ニ呼吸困難ヲ來セル者ニハ氣管切開術ヲ行フベシ

小兒ニハ其始メ母乳ノミヲ與ヘ後ニ至リテ適當ノ食物ヲ給スルヲ宜トス。然レトモ澱粉性ノ食物ハ之ヲ多量ニ與フ可カラス

第五十三圖



結核菌ヲ含ム咯痰

クレオソート 〇、一
 ホレーフ油 〇、二

右一膠囊ニ入レ六個ヲ與フ一日
 三回每一個宛
 クレオソート 〇、一
 黃蠟 〇、〇五
 白蠟 〇、一五
 右二丸トシテ十二丸ヲ與フ一日
 三回二丸宛
 クレオソート 一、〇乃至二、〇
 肝油 一五〇、〇
 右一或ハ二茶匙毎食前内服（ブーシヤール氏）
 クレオソート 各一〇、〇
 煨製マカ子シウム 各一〇、〇
 アルテア根 各一〇、〇
 右ニ少量ノ「グリセリン」ヲ加ヘテ百丸ヲ製シ毎食後二丸宛服用
 漸次増量
 クレオソート 一、〇

肺結核、喉頭結核

ホレーフ油 九、〇
 鹽酸コカイン 〇、〇一
 右皮下注射料（此油劑ハ豫メ殺菌ス可シ）
 クレオソート 一三、五
 龍膽丁 三〇、〇
 酒精 一五〇、〇
 マラセン酒 適宜
 （全量二〇〇〇、〇トナス）
 右調和毎日二或ハ三回一食匙チ一盞ノ水ニ加ヘテ食時ニ用ユ
 （ギンテルト氏、ブーシヤール氏）
 クレオソート 一、〇
 龍膽丁 二、五
 酒精 二五、〇
 セリ酒 適宜
 （全量一〇〇、〇トナス）
 右調和一日三回或ハ二回一茶匙

チ半蓋ノ水ニ和シテ用ユ(フレンツェル氏)

クレオソート 〇、〇五
トルーバルサム 〇、二

右調和一膠囊ニ包ム百個ヲ作り與フ

初日二箇爾來八日間三箇宛第二週ニハ二箇第四週ニハ六個宛ヲ與フ(二ヶ月以上連用但シ食後ニ服用ス可シ)

肝油 一五、〇

右臨臥時頓服

クレオソート 二、五

肝油 二〇〇、〇

サツカリン 〇、一

右調和一日二三回每一食匙

クレオソート 二、〇乃至三、〇

亞砒酸ナトリウム 〇、〇四

マラセン酒 五〇〇、〇

右調和毎食時二小蓋

カコヂール酸 〇、五

鹽酸コカイン 〇、〇三

クレオソート 五滴

重曹 〇、三

餾水 一〇〇、〇

右皮下注射料五分ノ一筒ヨリ漸次一筒ニ至リ一週休藥ス

クレオソート 六滴

グリセリン 三〇、〇

フルメント精 六〇、〇

右調和毎三時一食匙ヲ水ニ加ヘ用ユ

クレオソート 二、〇乃至四、〇

甘扁桃油 二五、〇

卵黃 一個

餾水 二〇〇、〇

グリコサールベルヂナミン

右一茶匙宛

シロリン

右毎食後三乃至六茶匙

小兒ハ二乃至三茶匙

炭酸グアヤコール 一、〇

乳糖 二、〇

右爲六包一日三回一包宛

グアヤコール 一、〇乃至二、〇

餾水 一八〇、〇

酒精 二〇、〇

右調和黑色燻ニス入レ毎日二或ハ三回一茶匙乃至一食匙食後一蓋

ノ水ニ和シテ用ユ

クレチゾール 一〇〇、〇

右一茶匙宛牛乳、赤酒ニ混シテ

用ユ(大人四、〇乃至一五、〇小

兒一、〇乃至六、〇)

ツェル氏)

右調和一日二或ハ三回一食匙宛

一蓋ノ水ニ和シテ用ユ(フレンツェル氏)

(全量一〇〇〇、〇トナス)

右調和一日二或ハ三回一食匙宛

一蓋ノ水ニ和シテ用ユ(フレンツェル氏)

右乳劑トナシ灌腸料(先ヅ洗滌灌腸ヲ行ヒ後本劑ヲ用ユ數週間毎夕之ヲ施ス)

クレチゾール 四滴

ヨードフォルム 一、〇

オイカリ油 八滴

クロ、フォルム 四十八滴

アルコホル 各一五、〇

エーテル 各一五、〇

右調和吸入料

グアヤコール 一三、五

龍膽丁 三〇、〇

酒精 二〇〇、〇

セリ酒 適宜

肺結核 喉頭結核

チオコール 五、〇
 橙皮舎 二〇、〇
 溜水 一、二〇、〇
 右一日三回乃至一食匙
 チオコール 五、〇
 右十包ニ分チ一日三回乃至六回
 一食匙
 レロリン 一〇〇、〇
 右毎日三回一茶匙宛
 アカリナン 〇、一
 托氏散 一、〇
 泥菖根末及ビ越 九、五
 右爲丸二十粒毎夕一―二丸
 テル―ル酸カリウム 二、〇
 白陶土 適宜
 右爲丸二十粒發汗前二、三時一
 乃至二丸
 發熱アルモノニハ左方チ處ス

ピラミドン 一、〇
 乳糖 二、〇
 右三包ニ分チ一日三回二日分服
 撒曹 二、〇乃至三、〇
 右爲一包「オブラート」ニ包ミ早
 朝無熱ノ時ニ頓用
 アンチピリン 五、〇
 右五包ニ分チ毎日一乃至三包
 アンチヘプリン 各二、〇
 白糖 各二、〇
 右十包ニ分チ毎夕一乃至二包
 硫規 一、〇
 白糖 五、〇
 右十包ニ分チ一日三回每一包宛
 鹽莫 〇、〇五
 重曹 二、〇
 白糖 二、〇

右十包ニ分チ一日三回每一包
 硫規 一、〇
 ゴギ末 〇、一
 吐根末 各〇、五
 阿片 適宜
 甘草越 右研和丸五十粒ニ作り一日三回
 每一粒(日晡潮熱ニ用ユ)
 マレチン 〇、一―〇、三
 右爲一包與六包
 毎日二乃至三包宛
 ヘ―トル或ヘトクレゾール 〇、〇一
 溜水 一〇、〇
 靜脈内腎部注射
 漸次増量一日〇、〇五ニ至ル
 咳嗽アル者ニハ左方チ處シテ効アリ
 磷酸コデイン 〇、三
 コンニヤツク酒 一〇、〇

單舎 九〇、〇
 右一日三回乃至六回一茶匙宛
 磷酸コデイン 〇、三
 杏仁水 一〇、〇
 右一日三回十乃至二十滴宛
 ヒヨス越 〇、五
 白糖 五、〇
 右十五包ニ分チ一日三回每一包
 ヒヨス越 〇、三
 杏仁水 各五、〇
 溜水 各五、〇
 右十五滴一盞ノ水ニ加ヘ咳嗽頻
 發時ニ頓用
 鹽莫 〇、〇三
 杏仁水 一〇、〇
 右十五滴宛咳嗽時一盞ノ水ニ和
 シ頓用
 ヘロイン 〇、〇〇五

乳糖 〇、五
 右爲一包與六包咳嗽甚ダシトキ
 一包宛
 ザオニン 〇、〇一
 乳糖 〇、五
 右爲一包與六包同上
 印度大麻越 〇、五
 白糖 五、〇
 杏仁水 右研和散十包ニ分チ朝夕每一包
 アンモニア茴香精 各一〇、〇
 鹽莫 〇、一
 甘草羔 二、〇
 右調和毎二時十乃至十五滴
 荳蔻越 〇、三
 アシモニア茴香精 二、五
 餾水 一五、〇
 右調和毎三時十滴乃至十五滴

咯痰ノ甚ダ多量ナルモノニハ左方
 ペルーパーサルサム 二、〇
 再餾テレピンテ油 二、〇
 右一日三回毎十滴水ニ和シテ用
 ユ
 テレピンテ油 五滴
 薄荷油 一滴
 右膠囊ニ入レ一日三乃至五個
 不眠症ニハ
 ブルフホナール 二、〇乃至四、〇
 右分四包臨臥前ニ用ユ
 パラアルデヒード 二、〇乃至四、〇
 ゴム漿 六〇、〇
 單舎 三〇、〇
 右調和頓服(催眠藥)
 發汗アルモノニハ左方ヲ處ス可シ
 硫酸アトロピン 〇、〇五
 餾水 二〇、〇

右十乃至三十滴臨臥前ニ用ユ
 硫酸アトロピン 〇、〇二
 滴宜
 甘草末及同越 滴宜
 右二十粒ニ作り毎夕一或ハ二粒
 テル、ール酸カリユム或ナトリウム 二、〇
 白陶土 滴宜
 右爲丸二十粒
 發汗前二乃至三粒
 カンフル酸 〇、七
 右頓用
 咯血アルトキハ安靜ヲ命シ發言ヲ禁シ
 咳嗽ヲ鎮靜シ強芥子泥發泡硬膏等ヲ貼
 シ出血ノ肺尖若クハ其淺表ニ在ルコト
 明カナル時ニ限り其部ニ氷囊ヲ貼ス然
 レドモ咯血止ミタルト同時ニ氷罨法ハ
 廢セザル可ラズ其他診察ノ際強打診チ
 避ケ麻酔鎮咳劑ノ他止血藥トシテ左方

チ處ス近年又タ「ゲラチン」ヲ用ユ(咯
 血ノ條下參照)
 麥角浸 (六、〇)二〇〇、〇
 右一日六回二分服
 麥角越 二、五
 甘草末 各滴宜
 甘草羔 各滴宜
 右五十丸ニ作り一日五乃至十丸
 麥角越 二、〇
 餾水 一〇、〇
 石炭酸 〇、一
 右半乃至一筒皮下注入料
 ヒドラスチス流動越 十五乃至二十滴
 右一日三回水ニ和シテ用ユ
 醋酸鉛 〇、〇三乃至〇、〇五
 白糖 五、〇
 右爲一包與三包一日三回一包宛

下痢ヲ發シタルトキハ左方ヲ處ス可シ

阿片 〇、一
 タンニン酸 一、〇
 コロンボ末 二、〇
 右研和散十包ニ分チ毎時一包
 コロンボ煎 (一〇、〇)二〇〇、〇
 サレツプ漿 一〇、〇
 水製阿片越 〇、一
 橙皮舍 二〇、〇
 右調和毎二時一食匙
 ドーフル酸 一、〇乃至一、五
 右爲三包一日三回一包宛
 テルマトール 五、〇
 右分十包一日四乃至八包
 チオホルム 〇、一五
 阿片末 〇、〇二五
 タンニン酸 〇、一
 右爲一包與六包一日二回一包宛

貧血症ニハ

林擒酸鐵丁 各一五、〇
 苦丁 右調和毎日半乃至一茶匙
 林擒酸鐵丁 三〇、〇
 橙皮舍 一〇、〇
 右調和毎日三回一茶匙宛水或ハ
 酒ニ和シテ用ユ
 林擒酸鐵越 五、〇
 蒲公英越 適宜
 右五十粒ニ作り朝夕毎二粒
 沃鐵舍 一〇、〇
 橙皮舍 二〇、〇
 右調和朝夕每一茶匙
 肝油 一〇〇、〇
 右朝夕每一食匙
 喉頭潰瘍ノ局處療法ニハ左方
 鹽酸コカイン 〇、二乃至〇、五

グリセリン 各五、〇
 鹽莫 〇、二
 右調和塗布料
 鹽酸コカイン 〇、二乃至〇、五
 鉛糖 二、〇
 白糖 八、〇
 右研和吹入料
 鹽酸コカイン 〇、二乃至〇、五
 次硝酸蒼鉛

白糖 各五、〇
 右研和吹入料
 鹽酸コカイン 〇、三
 石炭酸 〇、〇五
 鹽水 二、〇
 右調和吹入料
 水タルー水 二〇、〇
 右吹入料
 其他蒸氣吸入モ亦有效ナリ然レドモ略
 血アル者ニハ行フ可カラズ

白腫

Tumor albus.

ツモール、アルプス

原因 腺病質ノ人殊ニ兒童ニ於テ膝關節、膝關節、足關節等ノ肉芽性炎症
 ナリ結核「バチルレン」ニ胚胎ス
 患部ノ慢性ナル腫起失色疼痛、多少ノ發熱、患部ノ化膿瘻孔、關節強直
 等ノ諸症ニシテ全身症狀ハ腺病質ノ特徴ナリ
療法 可成其關節ヲ安息シ「ギプス、水硝子等ノ固定繃帶ヲ施ス可シ初期

肺結核、喉頭結核 白腫

ニハ冷壓布ヲ用井或ハ吸收藥ノ塗布ヲ用井幼年ノ者ハ田舎ニ轉居セシメ或ハ山地ノ空氣ヲ呼吸セシメ滋養性ノ食物ヲ與ヘ藥劑ニハ肝油ハルレル氏ヨード水、ヨード温浴等用井テ効アリ又貧血ニハ鐵劑ヲ用井壯者(春期發動期後ノ)ニハ適應時ニ手術ヲ行フベシ

百日咳

Tussis convulsiva. (Pertussis.) 疫咳

ツツシス、コンウルシューワヘルツツシス

原因 一種特異ノ病毒傳染ニ因テ起ル大抵小兒(一年乃至六年)ノ疾病ナリ春冬寒冷ノ二季ニ於テ流行性ニ來ルコト多シ

診候 二日乃至七日ノ潜伏期ヲ經テ通例單純ノ氣管支加答兒ノ症狀即チ通常ノ咳嗽ヲ呈スルコト一週乃至二週(加答兒期)次ニ發作性ノ痙攣性咳嗽(鷄鳴様或ハ吹笛様ノ長キ深吸息次ニ短カキ呼吸的咳嗽ノ頻發次ニ吹笛様ノ長吸息即チ「ルプリーズ」ヲ發スルコト四週乃至五週其間一日ノ發作輕症ハ三四回通常十五回乃至三十回、重症ハ六十回以上百回ニ達ス、終ニ減退期ニ移リ發作輕決シニ乃至四週ニテ治ス經過ハ二月以上ニシテ六七月ノ久シキニ瀰ルモノ有リ動モスレバ加答兒性肺炎ヲ併發ス

豫後 概テ良、但シ肺炎ヲ合併スレバ不良

療法 其初期ニハ單ニ鎮咳劑ニテ足ル者ナリト雖トモ後ニ至レハ「プロムカリウム」或ハ「モルヒネ」ヲ用井ザル可カラズ而シテ新鮮ノ空氣ヲ擇ミ毎日一二時間之ヲ呼吸セシム可シ○健兒ハ之ヲ嚴ニ隔離シ兼チテ感冒ヲ防クベシ○發作ノ際ニハ其兒ヲ扶ケテ粘液ノ咯出ヲ促サシメ室内温度ハ之ヲ平等ナラシメザル可ラズ而後有力ノ滋養品、キニーチ、鐵劑、葡萄酒、肉食ヲ與ヘ又鼻腔ノ檢查ヲ怠ル勿レ

- | | | |
|-----------|------|----------------|
| 白糖 | 〇、一 | 右十包ニ分チ一日三回每一包 |
| 荳蔻末 | 五、〇 | 右十包ニ分チ一日三回每一包 |
| 荳蔻丁 | 五滴 | 右每三時二乃至三滴 |
| 留水 | 五〇、〇 | アンチスパスミン |
| 覆盆子舎 | 一〇、〇 | 杏仁水 |
| 右調和每三時一茶匙 | | 右一日一乃至二回十五滴以下 |
| 荳蔻越 | 各〇、二 | アリストキン |
| 酸化亞鉛 | 三、〇 | 白糖 |
| 白糖 | | 右分一包與六包一日三回一包宛 |
- 痙攣期ニ在テハ荳蔻劑ヲ用ユルコト斯

ノ如クナリト雖トモ若シ瞳孔ノ散大ス
ルニ至ラハ後服ヲ止ムベシ
粘滿期ニ在テハ揮發松脂油ノ蒸氣ヲ吸
入セシム其量一時間ニ五乃至九滴ナ
リトス

鹽規 ○、三乃至一、〇

單舍

各三〇、〇

留水

右一日六回二日分服

タンニン酸キニー子

重曹

各一、〇

白糖

右研和散十包ニ分チ每二時一包

ナイヒニーン

〇、三乃至一、〇

右分六包一日三回一包宛

アランチピリン

〇、二乃至〇、八

適宜

右爲三包一日三回一包

留水

レゾルチン

一〇〇、〇

二、〇

單舍

右調和每一時一小兒匙

一五、〇

留水

ブロームカリウム

一〇〇、〇

右十包ニ分チ一日三回每一包

白糖

五、〇

吐根末

印度大麻越

「デチ」瓦トス

〇、二

〇、一

一般ニ「アランチピリン」ノ用量ハ患兒ノ

年齢ニ從ヒ一日量其年齢數ト同數ノ

右調和每一時一食匙

五〇、〇

橙皮舍

アランチピリン

一、〇

トカイ酒

二五、〇

留水

橙皮舍

二五、〇

單舍

一五、〇

右調和每三時一小兒匙

抱水クローラル

一、〇

留水

一〇〇、〇

單舍

二〇、〇

右調和每三時一茶匙

サカニン

〇、〇五

杏仁水

一〇、〇

右一日二乃至三回十滴宛

トツソール

二、五

留水

八〇、〇

橙皮舍利別

二〇、〇

右一乃至二茶匙每日服用

ツソール

二、〇

留水

八〇、〇

覆盆舍

一〇、〇

右一日二乃至六回一茶匙

チトロフェン

〇、一五―〇、五

白糖

〇、五

右爲一包與三包毎日三回一包宛

鹽酸フェノコル

三、〇

ゴム合劑

七〇、〇

右每三時一食匙

又百倍乃至五十倍ノ石炭酸ヲ吸入セシ

メ或ハ石炭酸ニ浸シタル布片ヲ病床ノ

傍ニ懸垂スルモ可ナリ

ナフタリン

二〇、〇

右炭火上ニ一日一回蒸發セシム

可シ

チモール

一〇、〇

酒精

二五〇、〇

留水

七五〇、〇

右調和磁器ニ盛り熱シテ其蒸氣

ヲ吸入セシム

鹽酸キニー子

〇、〇一乃至〇、〇一五

重曹
アラビアゴム

一五、〇
〇、二五

右研和吸入料

胼胝

Tyloma.

チロー

鶏眼

Clavus.

クラウス

原因

局所ノ器械的刺戟ニ關スル表皮細胞ノ形成過多ナリ

診候

表皮細胞ノ一局所ヲ限リ増殖スル者ニシテ甚ダ堅固ナリ多クハ手足ニ發ス

療法

鶏眼ヲ切除シテ防腐繃帶ヲ施スベシ〇乳頭狀ノモノニ在テハ「バクレン」ヲ用井テ可ナリ〇ロエセン氏ハ左法ヲ發明セリ即チ先ヅ其部ヲ防腐液(硼酸或ハ撒酸)ヲ用井テ潤ホシタル後大凡四ミリメートル乃至半仙迷ノ厚サニ結晶撒酸ヲ以テ被ヒ而シテ其上ヲ被フニ無刺戟性ノ繃帶品即チ數層ニ疊ミタル硼酸溶液ノ濕リント布片ヲ以テ更ニ「グツタベルカ」ヲ用井テ其表面ヲ密蔽スルナリ鶏眼、輕度ノ胼胝或ハ疣贅ニハ此繃帶ヲ用ユルコト五日間ニテ其効ヲ奏スルモノトス

白降汞

二、〇

白降汞

覆フニ偏答百兒加紙ヲ以テス

緩和軟膏

二〇、〇

酸化亞鉛

各二、〇

右調和軟膏ニ作り塗布(其上ヲ

單軟膏

二〇、〇

右調和軟膏ニ作り塗布

ヘブラ氏軟膏

二〇、〇

右調和リント布片ニ攤シテ貼用(毎日交換シテ表皮ノ軟化剝離ヲ俟ツ)

濃厚硝酸

一〇、〇

サリチール酸

五、〇

右硝子杆ヲ用キテ塗布ス

水銀硬膏

各五、〇

印度大麻越

一、〇

石鹼硬膏

各五、〇

右調和毛筆ヲ用キテ貼布ス

盲腸炎及盲腸周圍炎

Typhlitis et Perityphlitis

チフリチス、エト、ペリチフリチス

原因

盲腸炎及盲腸周圍炎ナル名稱ハ適當ナル名稱ニ非ラズ何トナレバ最近ノ研究ニヨリテ病ノ發スルトコロハ主トシテ蟲樣突起ニアルコト

明ナレバナリ其盲腸ニ原發スルハ甚ダ稀ナリ故ニ近時ハ蟲樣突起

炎 Appendicitis ト云フ其原因ハ突起ニ膿病細菌ノ侵入スルニアリ突起

内糞石形成ハ炎症ノ發生ヲ促ガスモノナリ

主トシテ盲腸或ハ蟲樣垂内ノ異物殊ニ糞石ノ刺戟ニ由ル又結核、潰瘍、

胼胝 鶏眼 盲腸炎及盲腸周圍炎

六二七

感冒、近傍ノ炎症波及等ナリ

診候

腸骨窩部ノ劇痛頓發及其下方波及、惡寒、體温及ビ脈搏ノ増加、嘔吐、便秘、腹膜炎腹部膨滿等ナリ

○蟲様突起疝痛

(1) 臍部及心窩ニ疼痛アリサレド其以上ニハ放散セズ右腸骨窩ニ固定セル疼痛點アリ

(2) 右腸骨窩ニ知覺アリ殊ニマツクブル子イ氏點ニ於テ甚シ

(3) 嘔吐アリサレド持續性ナラズ

(4) 甚ダ稀ニ膀胱及睪丸ニ知覺過敏若クハ疼痛アリ

○膽石疝痛

(1) 心窩ニ疼痛アリ肩胛部ニ放散ス膽囊ニ固有ノ疼痛點アリ

(2) 肋骨弓下部ニ甚シキ知覺過敏アリ膽囊部ニハ甚シカラズ

(3) 屢々嘔吐シ之ヲ制止スルコトヲ得ズ

(4) 膀胱及睪丸ノ病狀ナシ

○腎石疝痛

(1) 疼痛鼠蹊及ビ睪丸ニ放散ス時々肛門ニ波及シ便意及ビ裏急後重

ヲ發スルコトアリ

(2) 知覺ノ最モ過敏ナルハ背面ノ腎孟部ナレモ前面ノブーバルト氏靱帶ノ部ニ亦疼痛ヲ發ス

(3) 嘔吐ハ本病ノ必要ナル症狀ニアラズ

(4) 膀胱過敏利尿困難及膀胱ノ裏急後重血尿症アリ睪丸ハ上方牽引セラル

豫後

漿液性盲腸周圍炎ニアリテハ良、化膿性盲腸周圍炎ニ於テハ甚ダ疑ハシ其穿孔シテ汎發性腹膜炎ヲ發シタルトキハ多數ハ死亡ス

療法

嚴重ニ安靜ヲ命ジ牛乳鶏卵肉羹汁等易消化流動性ノ食物ヲ與ヘ疼痛ニハ氷嚢ヲ貼シ(患者冷卷法ヲ厭フトキハ温卷法ヲ用ユベシ)又其患者強壯家ナレバ水蛭ヲ放チ又阿片ヲ用ユ○滲出物ノ殘留ヲ認ムレバ「ヨード劑ヲ塗布ス可シ○膿瘍ヲ形成シタルト腹膜腔内ニ穿孔シタルトキ等ニハ外科的手術ヲ要ス○左ノ場合ニハ必ズ外科的手術ヲ用ユベシ

(一) 腹膜ニ益々蔓延スルトキ

(二) 膿瘍ノ破潰セシトスルトキ及ビ熱ノ化膿ヲ明示スルトキ

盲腸炎及盲腸周圍炎

(三) 三日乃至五日ノ間ニ於テ輕快ヲ見ズシテ反ツテ増悪スルトキ
(四) 反覆再發スルトキ(但シ發作無キ時ニ手術スルヲ可トス)

- 阿片末 〇、五
- 白糖 三、〇
- 阿片丁 右研和散十包ニ分チ每三時一包 二十滴
- 扁桃乳劑 五〇、〇
- 阿片丁 右調和每三時一食匙 三十滴
- 單舍 一〇、〇
- 餾水 九〇、〇
- 阿片末 右一日數回分服 〇、一
- 乳糖 二、〇
- 鹽莫 〇、二
- 餾水 一〇、〇
- 右半筒皮下注射(疼痛ノ甚シキ)
- 水蛭 三十條乃至五十條
- 右腸骨窩部ニ貼用
- 五%イヒチオールグリセリン
- 右患部塗布料 二〇、〇
- ヨードワゾーゲン 三〇、〇
- 右塗擦料
- カリ石鹼 各二五、〇
- 黄色ワゼリン 五、〇
- ヨードフォルム 右外用
- 沃丁 各五、〇
- 五倍子丁
- 右塗布料

腸窒扶斯

Typhus abdominalis.

チフス、アブドミナリス

原因

エーペルト氏發見ノ腸窒扶斯「バチルレン」ノ傳染ニシテ該毒ヲ含メル飲食物殊ニ飲用水ヨリ來ルモノ多シ

診候

潜伏期(平均十四日)ノ後全身倦怠、頭重、食思欠損、睡眠不穩等ノ先驅症(數日乃至一二週)ヲ呈シ次テ惡寒(概テ數回)發熱大渴引飲、舌唇乾燥牽裂、便秘或ハ下痢(豌豆汁ノ如キ便)盲腸部ノ雷鳴及知覺過敏、脈數體温ニ比スレバ其數少ク(八十乃至百)脾腫、薔薇疹(第四或ハ第五日ヨリ軀幹ニ)及本病特異熱ノ定型即チ發病第一週ノ始メ五六日ハ日々體温概テ半度宛上昇シテ遂ニ四十度乃至四十一度ニ達シ第二週ノ終若クハ第二週ノ始ヨリ稽留シ輕症ニ在テハ該週ノ終重症ニ在テハ第三週ノ終ヨリ著シキ弛張ヲ始メ輕症ハ三週重症ハ四週乃至六週ニシテ常温ニ復スルヲ常トス然レドモ常ニ著シキ弛張ヲナシ且ツ最高温四十度ニ達セズ全發熱ノ期十乃至十四日ヲ算スルモノモ亦タ多シトス但シ重症ハ腸出血、肺炎、腦膜炎稀ニ腸穿孔ヲ合併シ或ハ心臟麻痺ニ由テ死ス○第二週ノ末期或ハ第三週ニ腸出血ヲ來スコトア

リ第三乃至第五週ニ腸穿孔ヲ發スルコトアリ○體溫常溫ニ復シタル後直チニ再發スルコト尠カラズ○尿ニ「チアツォ」反應アリ○血液ニウキダール氏反應アリ

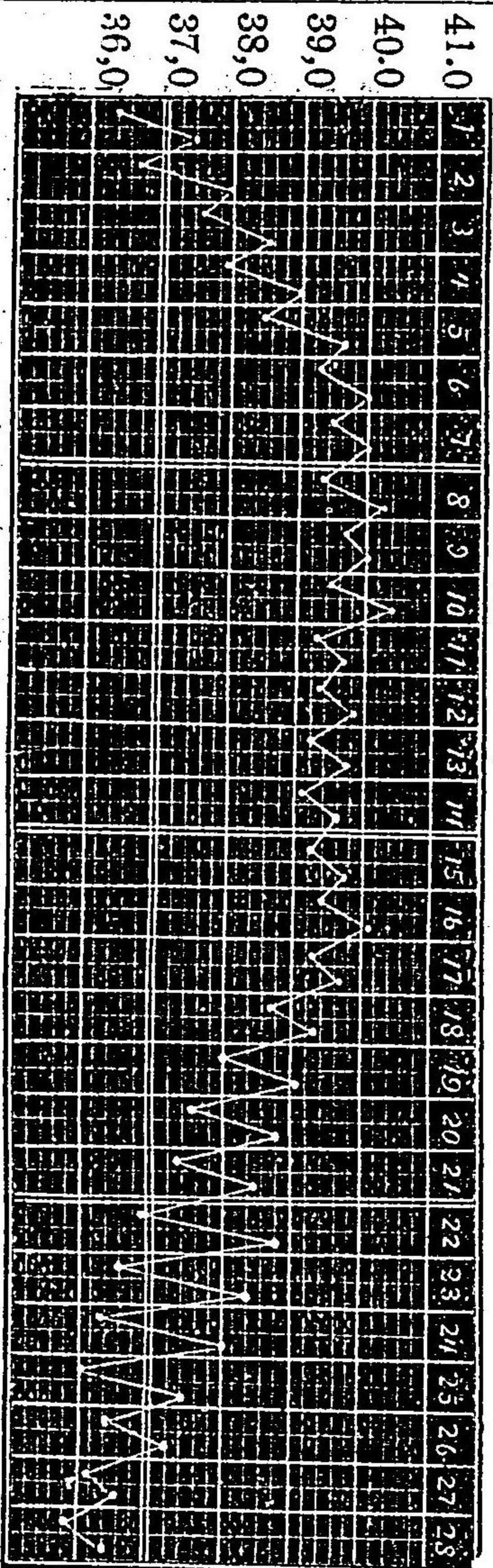
窒扶斯ノ變形ハ次ノ如シ○(一)輕症即チ最輕症(胃熱)ハ速カニ始マリ經過短カシ(八日乃至十四日)○(二)不全窒扶斯ハ速カニ發熱シ二三日にシテ下降ス○逍遙窒扶斯ハ全身症狀ハ極メテ輕微ニシテ患者常ノ如ク職業ニ從事シ外出逍遙殆シド意ニ介スル處ナシ然レドモ第二週或ハ第三週ニ於テ俄然腸出血穿孔ヲ發スルコトアリ

豫後 脈搏百二十以上ナルモノ或ハ脈搏軟少ナルモノ或ハ脈搏不正ナルモノ或ハ四十一度以上ノ熱永續スルモノハ豫後不良、腸出血、肺炎、腦膜炎ヲ合併スルモノモ不良、腸穿孔ヲ發スレバ殆シド必ズ死ス、其他老人、産婦、心臟病患者ハ危險ナルコト多シ○發熱甚ダシカラザルモノ、合併症ナキモノ及ビ小兒ハ良

療法 安臥靜息ヲ命ジ最モ食餌ニ注意ス可シ即チ絶對的ニ固形ノ飲食ヲ禁ジ常ニ液狀滋養品ヲ與フ可シ、牛乳、肉羹汁、生卵、卵酒ヲ與ヘ、輕症ニハ少量重症ニハ多量ノ葡萄酒ヲ飲用セシム可シ、無熱トナリテ

圖 四 十五 第

第一週 第二週 第三週 第四週



新 扶 室 腸

腸室扶斯

ヨリ五日間ハ固形食ヲ禁シ次ニ卵、刺身、粥等ヲ與フベシ藥劑ハ其初期ニ於テ甘汞下劑ヲ投ズルノ他燐酸リモナーデ或ハ鹽酸リモナーデヲ用ユ解熱劑ハ猥リニ與フ可カラズ體温四十度五分以上ナルトキ若クハ第二週ノ終リニ至ルモ體温下降ノ傾向ナキモノ之ヲ用ユ可シ熱度高キトキ頸部ニ氷嚢ヲ貼スベシ又冷水纏絡法ヲ用ユルモ可ナリ下痢、腸出血、心臟衰弱等ニハ各々其對症ノ法ヲ用ユ可シ○大小便ニハ同量ノ石灰乳ヲ混ジ能ク攪拌シ二時間以上放置スベシ衣服等皆ナ消毒ヲ充分ニ行ハンコトヲ要ス

甘汞

乳糖

各四、〇
右散八包ニ分チ毎日三乃至四包
(初期ニ用ユ)

ナフタリン

白糖

ベルガモツト油

燐酸

各五、〇
二滴
右分二十包一日五乃至十包
二、〇

覆盆子舎

餾水

右每二時一食匙

ザロール

右爲一包與六包一日三回一包宛
二日分服

ベンツオナフトール

右爲一包與六包一日三回一包宛
サリチール酸マガ子シウム一〇、〇

餾水

右毎日四回一食匙宛

體温四十度五分以上ナルトキ若クハ第二週ノ終ニ至ルモ體温下降ノ傾向ナキトキハ左方

ラクトフェニン

〇、五
右爲一包與六包毎日二乃至三回一包宛

撒曹

右爲一包頓用

鹽規

右爲一包頓用

硫規

〇、一乃至〇、五
一、五乃至三、〇

白糖

右五包ニ分チ每十分時一包
〇、五乃至一、〇

餾水

右一日三回二日分服

硫規

稀硫酸

餾水

アンモニア茴香精

右調和每時一食匙

撒曹

重曹

餾水

單舎

右調和每時一食匙

撒曹

アンチヘプリン

白糖

アンチピリン

右爲一包與四包一日ニ用ユ

右散五包ニ分チ澱粉囊ニ包ミ午

後一乃至三包ヲ用ユ

硫酸タルリン 〇、〇四乃至〇、一
白糖 〇、三
右爲一包與十包每時一包宛
カイホリン 一、〇
右爲一包與五包一日一包乃至五
包葡萄酒ニテ用ユ
サリシン 各〇、五
茴香油糖 各〇、五
右爲一包與十二包午後ヨリ五乃
至十二包ヲ用ユ
フェナツエチン 各〇、五
白糖 各〇、五
右爲二包與二包毎午後一乃至二
包
下痢アルヲ認ムルニ於テハ左方ヲ處ス
サレツプ煎 二〇〇、〇
阿片丁 五滴
單舎 二〇、〇

右調和飲料毎一時一食匙
次硝酸蒼鉛 一、〇乃至二、〇
右爲一包與十包一日數回二包宛
(一日ノ量二〇、〇選用ユルモ可
ナリ)
ゴム合劑 二〇〇、〇
水製阿片越 〇、一
右每時一食匙
サレツプ煎 二〇〇、〇
阿片丁 二、〇
右調和灌腸料
腸出血ヲ發シタルトキハ絶對的安靜ヲ
命シ下腹部ニ氷嚢ヲ施シ先ツ阿片丁十
五滴ヲ與へ後毎三時三滴宛ヲ與フ其他
左方
粗製明礬 〇、五
阿片末 〇、一
樟腦 〇、三

白糖 二、〇
右研和散五包ニ分チ毎二時一包
鉛糖 各〇、三
阿片末 各〇、三
澱粉 五、〇
右研和散十包ニ分チ毎三時一包
過クロール鐵液 一、〇
桂皮水 一五〇、〇
桂皮舎 二〇、〇
右調和毎時一食匙
一%ゲラチン溶液 二〇〇、〇
右一日三回二日分服
衰弱愈々加ハリ虚脱ノ傾向アルトキハ
「エーテル」ノ皮下注射ヲ行ヒ又シヤン
パン、葡萄酒(一食匙宛)肉羹汁等ヲ匙
ニテ少量ニ頻々與フベシ
樟腦 二、〇
オレーフ油 八、〇

右皮下注射料(一日十筒或ハ以
上)
卵黃 二個
コンニヤツク酒 五〇、〇
桂皮水 一二〇、〇
單舎 三〇、〇
右二回分服(ストローク氏武蘭埜
酒)
卵黃 二個
ブランデー酒 三〇、〇
單舎 二〇、〇
餛水 一二〇、〇
右一日六回二日分服
麝香 〇、五
白糖 二、〇
右研和散五包ニ分チ毎三時一包
便秘ニハ温湯灌腸ヲ行フベシ藥劑ハ患
部ヲ刺戟スルノ虞有リ

小兒ニ用ユル處方左ノ如シ

甘赤 〇、一乃至〇、四
 乳糖 〇、五
 右分二包一日二回一包宛
 ナフタリン 〇、〇五乃至〇、二
 茴香油糖 〇、五
 右爲二包與三包每三時一包宛
 稀鹽酸 一、〇
 溜水 一〇〇、〇
 單舍 二〇、〇
 右每二時一小兒匙宛

アンチピリン 〇、二五
 橙皮舍 二〇、〇
 右每夕數回一茶匙宛
 硫酸タルリン 〇、〇一(三才ヨリ四才迄)
 〇、〇二(五才ヨリ十才迄)
 〇、〇三乃至〇、〇五
 (十才ヨリ十五才迄)
 白糖 〇、三
 右爲一包與十包每二時一包砂糖
 水ニテ用ユ

発疹室扶斯

Typhus exanthematicus.

チフス エキサンザマチクス

原因 未詳ナリ著シキ觸接傳染性ヲ有ス
診候 潜伏期ノ(十日乃至十四日)ノ後頭痛、四肢ノ疼痛、倦怠、食慾不振、嘔吐及不眠等ノ前驅症ヲ發シ或ハ前驅症ナクシテ卒然寒戰體温暴騰(四十度乃至四十一度)、頭痛、眩暈、無感、譫語等ノ腦症ヲ發ス

氣管枝加答兒、脾腫ヲ呈ス、然レドモ腸症狀ハ比較的輕度ナリトス、而シテ第三日乃至第七日ニ多數ノ蔷薇疹ヲ全身ニ(軀幹、頸部、四肢罕ニ顔面ニ)發シ二三日ノ後出血ニ變ス○輕症ニ在テハ第二週ノ初ニ輕快シ、重症ニ在テハ或ハ第十四日乃至第十七日ニテ輕快シ或ハ合併症肺炎等ニ由テ死ス
豫後 熱ノ高低合併症ニ由テ異ナリ死亡數ハ六乃至二十%
療法 腸室扶斯ノ療法ニ同ジク同條下ヲ看ルベシ

回歸室扶斯

(再歸熱) *Typhus recurrens*

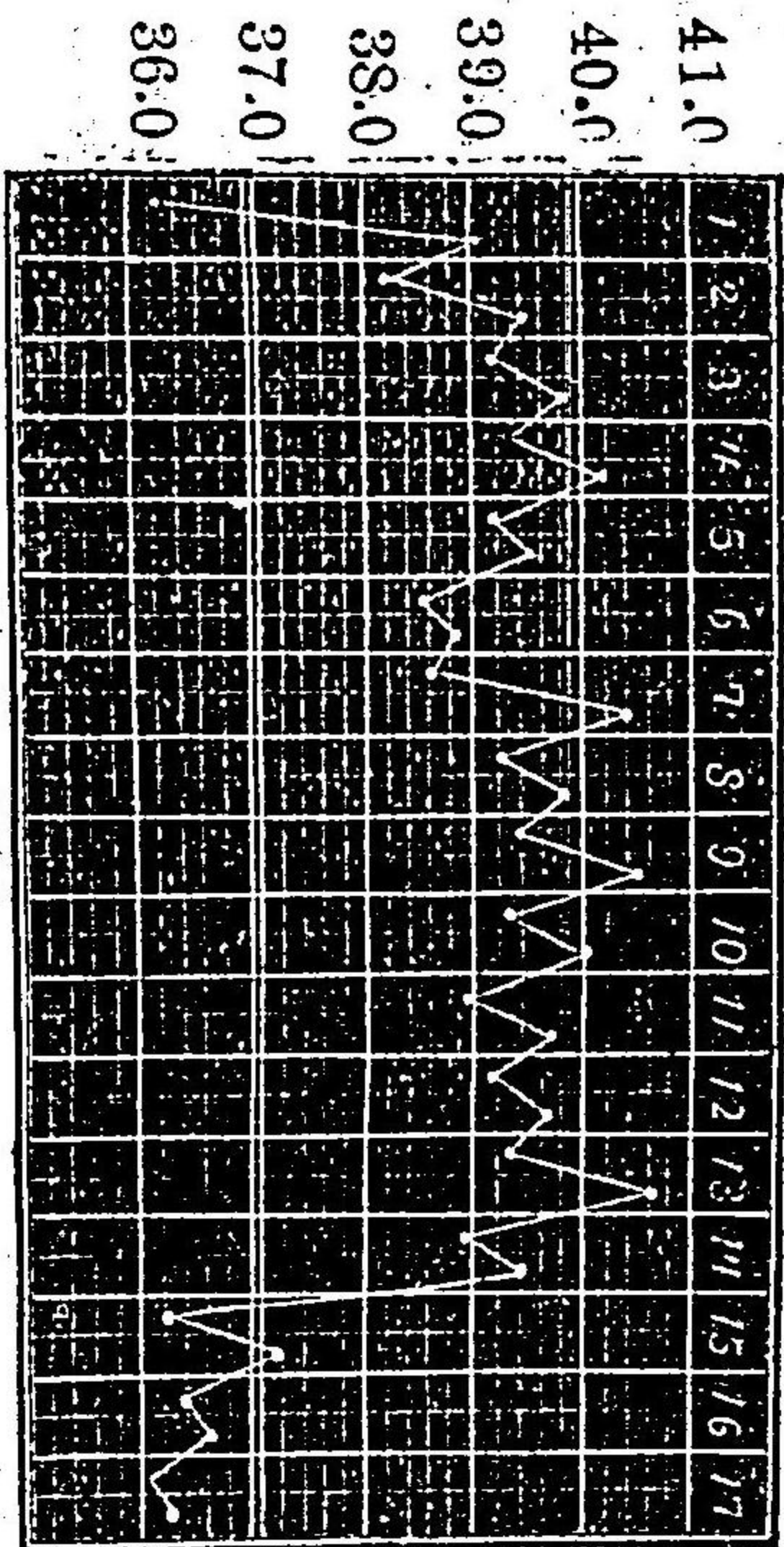
(*Febris recurrens*)

チフス、レクルレンス(フエブリス、レクルレンス)

原因 オールベルマイエル氏螺旋狀菌ノ傳染ニシテ該菌ハ常ニ發熱中ハ血中ニ存在ス、無熱期ニハ消失ス本病傳染ハ空氣、介立者、使用物品、蚤、或ハ直接觸接ニ由ル
診候 潜伏期(五日乃至八日)ノ後寒戰、體温暴騰(或ハ稽留或ハ弛張著シ)、薦骨部、劇痛、四肢疼痛、頭痛、倦怠、食慾不振(往々嘔吐)、脈搏増加、脾著シク腫大四肢ノ諸筋ハ壓迫スレバ疼痛ヲ發ス(殊ニ腓

發疹室扶斯 回歸室扶斯

圖 五 十 五 第

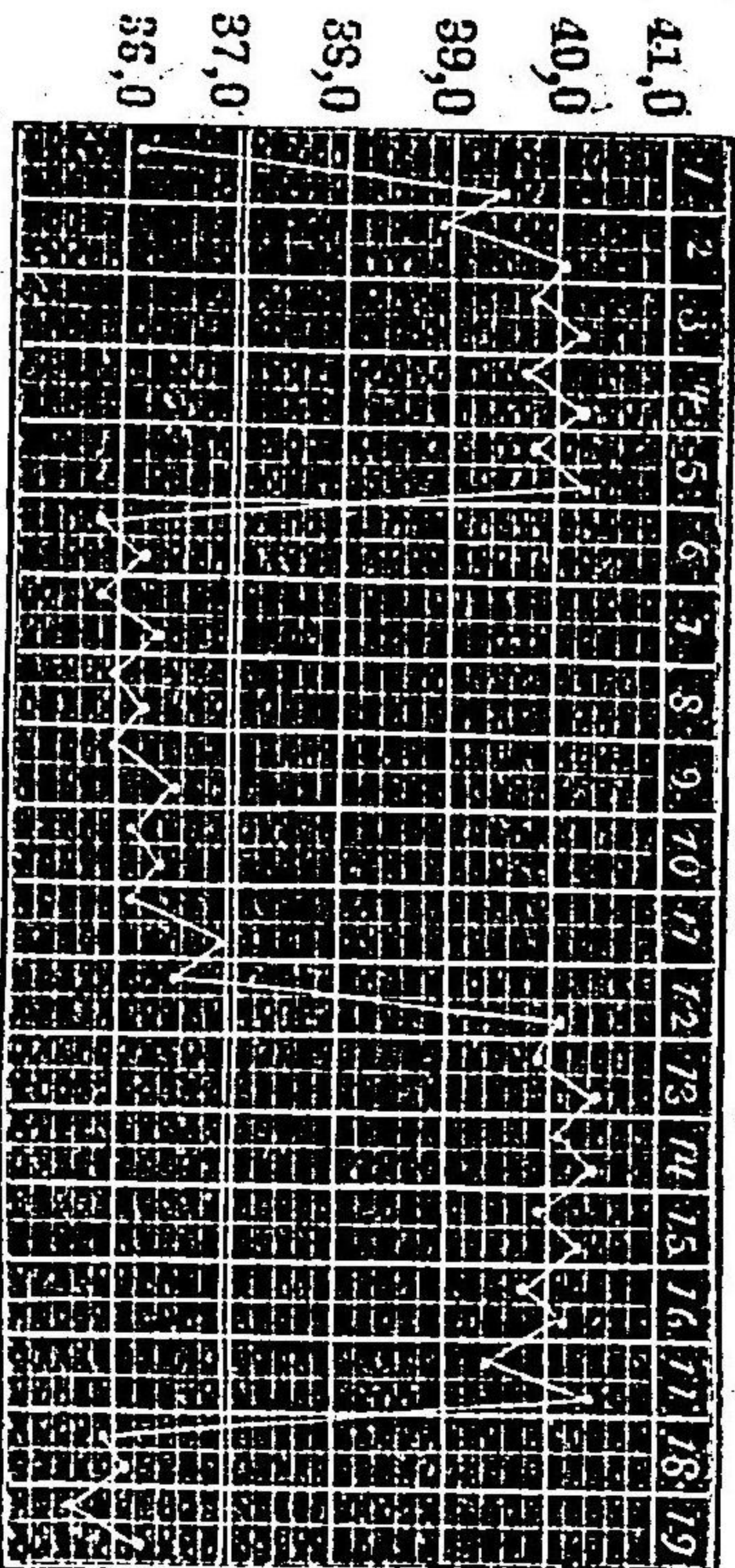


斯 扶 黎 疹 發

腸筋、其他口唇ヘルペス、或ハ氣管枝炎ヲ發スルコトアリ以上ハ第一回發作ニシテ五日乃至七日間ノ後發汗シテ三十五度内外ニ下降シ第一無熱期ニ移ル○第一無熱期ハ四日乃至十日間ヲ常トス只ダ脾腫ヲ認ムルノミニシテ第二發作ニ移ル○第二發作ハ第一發作ニ同ジ但シ一二日短キモノ多シ○第二無熱期ハ第一無熱期ノ如シ但シ一二日長キモノ

多シ○第三發作ハ第二發作ヨリモ更ニ短カク第四第五ハ發セザルヲ常トス○發作中ノ血液ヲ檢シ螺旋菌ヲ明カニスレバ診斷明確ナリ本病ノ一種類トシテ膽液性窒扶斯様症 *Das bilioese Typhoid.* ヲ算入スルモノアリ即チ「グリーゼンゲル (Griesinger.) 氏埃及ニ於テ始メテ觀察セル疾病ナリ、熱及黃疸アリ且烈シキ腦症アリ出血シ易ク心臟衰弱

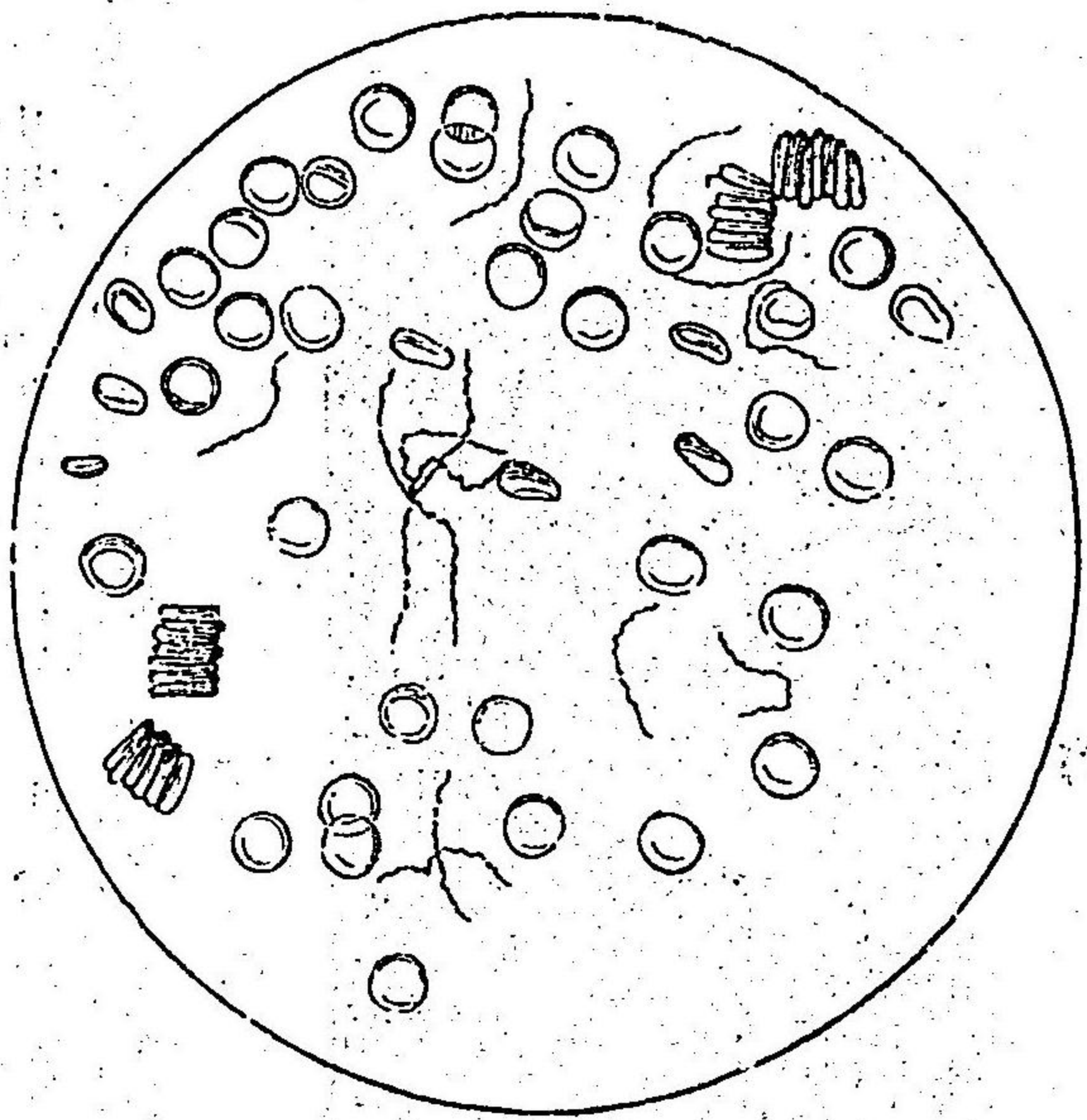
圖 六 十 五 第



熱 歸 回

回歸窒扶斯

第五十七圖



カールマルエイル氏菌

シ易シ然レモ近年ノ研究ハ本症ヲ以テ別症トナスベシト云フ埃及即チ
グリージンゲル氏ガ經驗シタル地方ニ於テハ血中ニ「スピルレン」ヲ

發見セザレバナリ

豫後 概テ良

療法 特效藥ナキヲ以テ對症療法ヲ施シ他人ニ傳染ノ虞アルヲ以テ萬般
ノ消毒ニ注意スベシ

潰瘍

Ulcers. ウルツェラ

原因 外傷、黴毒、腺病、結核、癩病、痛風、失苟兒陪屈、狼瘡等ナリ

診候 組織ノ實質缺損其部ノ炎症諸症陷没等ヲ認ムベシ

療法 患部ノ潮紅腫脹甚シキ者ニハ冷水或ハ鉛水ノ罨法ヲ行フコト一般
ノ消炎法ナリトス而シテ足潰瘍ニハ軟膏ヲ貼用シ「ヨードフォルム」繃帶
ヲ施シ又劇甚ノ肉芽性潰瘍面ニハ熔製硝酸銀ノ腐蝕法或ハ烙白金燒灼
法ヲ行ヒ或ハ腐蝕「カリ」ヲ塗布シ或ハ銳匙ヲ用井テ肉芽ヲ去ルベシ○
單純潰瘍ニハ晝間絆創膏條（バイントン氏法）或ハ「フランチル繃帶」或
ハ「ゴム繃帶」ヲ用井テ纏絡シ夜間濕温罨法ヲ施スヲ宜シトス但シ荏苒
治癒ヲ怠ル者ニハ植皮術ヲ施スコトアリ

次醋酸鉛液

二〇、〇
二〇〇、〇

右調和罨法料

粗製明礬末

一〇、〇

潰瘍

次醋酸鉛液	二〇〇、〇
右調和鞣法料	二〇〇、〇
酸化亞鉛	五、〇
ワセリン	各一五、〇
右調和軟膏ニ作ル用法同上	
苛性カリ	〇、五
右調和繃帶料	二〇〇、〇
右調和繃帶料	二、〇
オノロフ油	一〇、〇
右軟膏	八八、〇
赤降汞	〇、二
右調和軟膏ニ作ル	一五、〇
ワセリン	五、〇

テルマトール	一〇、〇
黄色ワセリン	九〇、〇
右軟膏	二〇、〇
テルマトール	七〇、〇
滑石	一〇、〇
澱粉	一〇、〇
右撒布料	一〇、〇
アイロール	一〇、〇
右撒布料	各一〇、〇
クルーリン	各一〇、〇
澱粉	各一〇、〇
右塗布料	五、〇
壞疽性潰瘍ニハ制腐洗滌性液及義布斯	
タール末ヲ用キテ効アリ	二〇〇、〇
クロール石灰	二〇〇、〇
右調和創面洗滌料	二、〇
過マンガン酸カリウム	二、〇

右調和創面洗滌料	二〇〇、〇
サリチール酸	五、〇
炭酸ナトリウム	一、〇
右調和創面洗滌料	二〇〇、〇
硫酸石灰	五〇、〇
木タール	一〇、〇
右研和撒布料(義布スタール散)	三〇、〇
次硝酸蒼鉛	三〇、〇
右撒布料、先ヅ創面ヲ洗滌シ而	
後之ヲ撒布シテ繃帶ヲ用キ固定	
ス	
木醋	二、〇
右調和創面洗滌料	二〇〇、〇
下腿潰瘍ニハ左ノウンナ氏亞鉛膠ヲ用	
ユ	

酸化亞鉛	各一〇、〇
膠	各一〇、〇
グリセリン	各四〇、〇
右温メテ塗布ス	一〇、〇
イヒチオール	一〇、〇
右潰瘍面ニ塗布シ棉花ヲ貼ス初	
メハ毎日後ニハ隔日變換ス	
結核性及腺病性潰瘍ニハ其周縁部ヲ切	
除シ又銳匙ヲ用キテ惡性肉芽ヲ搔去シ	
而シテ「ヨードフォルム、カーゼ繃帶ヲ	
施スベシ殊ニ痲鈍性潰瘍ニハ「ヨード	
液ニ浸シタル「ガーゼ」ヲ被覆シ其表面	
ニハ更ニ「グツタベルカ繃帶ヲ施スヲ	
宜シトス	
ヨードカリウム	二、〇
ヨード	一、〇

餾水

二〇〇、〇

右外用

小兒ニハハルライン氏滴母鹽ノ温浴ヲ

行ヒ内服ニ肝油ヲ與フ可シ
黴毒性潰瘍ニハ適應ノ局所療法ヲ施シ
且ツ「ヨードカリウム」ノ内服ヲ與フ

喉頭潰瘍

Ulcera laryngis.

ウルツエラ、ラリンギス

原因

加答兒性剝脫、窒扶斯、黴毒或ハ結核ニ發スルモノ多シ

診候

頑固性ノ咳嗽、嘶嘎、喉頭癢痒、喉頭鏡下潰瘍ノ發見ニシテ黴毒

ニモ或ハ結核ニモ各之レニ伴フ全身及局處症ノ特異ナル者アリ假令バ

甲ニハ腺腫乙ニハ肺結核ノ如シ

療法

其原因ノ黴毒ナルカ將タ或ハ結核ナルカニ注意シ其原因療法ヲ勉

ムベシ○結核性潰瘍ニハ薄荷腦油、オルトフォルム、ヨドール、ソゾヨ

ドール亞鉛(一、〇乃至二、〇)滑石一〇、〇)アリストール、デルマ

トール、タンニン酸、ブロームアムモニウム等ヲ吹入スベシ、ヘーリ

ング及クラウゼ氏ハ一日一二回宛三〇乃至八〇%ノ乳酸ヲ潰瘍面ニ塗

布シタリ、コカイン水ヲ用ユ限局性ニシテ手術的療法ヲ施シ得ルモノ

ハ之ヲ行フベシ

薄荷腦

一〇〇、〇

オレーフ油

一〇〇、〇

右調和喉頭注射料

オルトフォルム

一〇、〇

右吹入料

ア子ステジン

三、〇

酒精

四五、〇

餾水

五五、〇

右吸入料

コカイン

一、〇

餾水

一〇〇、〇

右吸入料(「コカイン」ハ「スプレ

ーニテ」)

一〇〇、〇

結核性腸潰瘍

Ulcera intestini tuberculosa.

ウルツエラ、インテスチニー、ツヘルクローザ

原因 肺結核、全身結核ノ繼發、結核性牛乳ノ飲用、及結核性ノ母若クハ
乳母ヨリ來ルコトアリ、又肺勞患者トノ接吻又ハ該患者ノ使用シタル

喉頭潰瘍 結核性腸潰瘍

六四七

黴毒性潰瘍ニハ有力ノ局所療法ニ併セ

テ全身療法ヲ施スベシ

甘汞

一〇、〇

右吹入料

ヨードカリウム

一、〇

ヨード

〇、一

グリセリン

二〇、〇

右調和塗布料

昇汞

〇、一

濃厚酒精

二〇、〇

餾水

二〇〇、〇

右調和吸入料

食器ヲ用ヒ爲メニ腸粘膜ニ結核バチルスノ傳染又小兒ニ在テハ腺病質、榮養不給ノ者ニ原發スルコトアリ

診候 原發性ノ者ニ在テハ下腹膨滿、腸壁緊張、雷鳴、腹痛、惡心、嘔吐、頑固性下痢(一日二三回乃至數回軟便又ハ稀薄液狀ニシテ多量ノ灰白黃色ノ雲絮狀片ヲ混ズ)日哺潮熱及削瘦等ナリ續發性ノ者ニ在テハ肺癆ノ諸症候ニ兼ヌル頑固性カカオ豆色ニシテ血液ヲ混ジタル粘液様便及上圍時ノ疝痛様疼痛等小兒ニアリテハ往々腫大セル腸管膜腺ヲ觸ル、コトアリ、潰瘍ノ部位、小腸ニアルトキハ往々便秘ヲ發スルコトアルモ大腸ナルトキハ劇シキ下痢ヲ起ス、盲腸ナルトキハ盲腸炎或ハ蟲様突起ノ症候ヲ發シ若シ直腸ニ轉居スレバ直腸炎若シクハ肛門周圍炎ヲ發ス

豫後 不良

療法 豫防法、肺結核患者ヲシテ咯痰ヲ嚥下セシム可カラズ若シ空腹時ニ咯痰ヲ嚥下シタル時ハ直ニ小許ノ麵包ヲ食セシムレハ直ニ鹽酸ヲ分泌シテ該菌ニ作用ス可シ疑ハシキ牛乳若シクハ生肉ハ食セシム可カラズ、此症ニ在テハ之ト同時ニ認ムル全身結核或ハ肺結核ノ療法ヲ施シ

肝油、稀乳汁含鐵礦泉等凡テ腸ヲ刺戟スル藥劑ヲ禁ジ食物ニハ牛乳、鶏卵、肉等又可成ハ肉液ヲ與フ可シ

下痢ニハ左方ヲ處シ最モ有効ナリ

次硝酸蒼鉛 三、〇
阿片 〇、二
白糖 四、〇

右研和散十包ニ分チ一日三乃至四回一包

サリチール酸蒼鉛

沈降炭酸カルチウム 各一〇、〇
右分三十包毎日三乃至四包「ホ

アラト」ニ包ミ用ユ

サリチール酸蒼鉛 各五、〇
乳糖 各五、〇

撒曹 右分十包毎日二乃至三回一包宛 六、〇

タンナルビン 三、〇
右分六包一日三回二日分

乳酸 二、〇乃至八、〇
右一日數回分服

瀉水 二二〇、〇
潰瘍ノ直腸ニ在ル者ニハ澱粉溶液或ハ

サレツプ煎ニ阿片丁幾チ和セル者或ハ左方ヲ灌腸ニ用ユ可シ

硝酸銀 〇、五
瀉水 二〇〇、〇

右調和二回灌腸料 尙ホ慢性腸加答兒ノ條下ニ就テ本症ノ治法ヲ參考スベシ

軟性下疳

Ulcus molle. ウルクス・モルレ
Weicher Schanker. ワイナル・シヤンケル

原因 大抵不潔ノ交接ニ起ル下疳毒ノ傳染ナリ(ヂユクレイ氏ウンナ氏連鎖菌)

診候 多クハ陰部ニ發生スル潰瘍ニシテ周圍柔軟蒼面低ク蒼面豚脂様ノ不潔ナル滲出物ヲ被ムリ大抵疼痛アリ鼠蹊腺ノ腫起膿膿ヲ致スコトアリ

豫後 良

療法 先ヅ二%コカイン或ハ「オイカイン」液ヲ塗布シテ局部ヲ麻醉セシメ「フオルマリン」或ハ石炭酸液ヲ以テ創面ヲ腐蝕シプロー氏液罨法ヲ施スコト一日ニシテ後ヨードフォルム等ノ撒布療法ヲ行フヘシ又炎勢周圍ニ彌蔓増進シテ浮腫浸潤等ヲ致ストキハ冷罨法ヲ行フ可シ

- ヨードフォルム末 五、〇 右撒布料
- ヨードフォルム末 三、〇
- ヨードフォルム末 三、〇
- ヨードフォルム末 六五、〇
- ヨードフォルム末 三五、〇
- ヨードフォルム末 三、〇
- ヨードフォルム末 六五、〇
- ヨードフォルム末 三五、〇
- ヨードフォルム末 三、〇
- ヨードフォルム末 六五、〇
- ヨードフォルム末 三五、〇

ヨードル

五、〇

澱粉

各一〇、〇

白糖

一〇、〇

右撒布料

アイロール

五、〇

石炭酸

一、〇

右撒布料

一〇、〇

右洗滌料

一〇〇、〇

次安息香酸蒼鉛

一〇、〇

ヨードフォルム末

二、〇

右撒布料先ヅ潰瘍ヲ消毒洗滌シ

薄荷油

二滴

タル後撒布スベシ(一日一乃至

ラノリン

八、〇

二回ヲ度トス)

ワゼリン

二、〇

イソホルム

右調和軟膏ニ作ル

角膜潰瘍

Ulcus corneae. ウルクス・コルチエ

原因 外傷(最モ屢々木竹ノ枝、稻麥ノ葉又ハ顛瓜、石片等ニヨリ睫毛亂生又ハ手術ノ際ニ來ルコトアリ)結膜炎(加答兒性、化膿性、顆粒性、寶扶的里性ニ多シ)水疱性角膜炎、角膜營養不給、疱疹、痘瘡ニシテ細菌ノ組織内ニ入ルニ依ル〇下等社會及ヒ老人ニ多シ

診候 角膜周圍ノ充血、羞明、流涙、膿汁分泌、疼痛、患部ノ實質缺損

軟性下疳 角膜潰瘍

其潰瘍面ノ透明ナルアリ帶黃濁蓄膿等ニシテ化膿性ノモノハ終ニ癩痕或ハ葡萄腫ヲ來シ穿孔ス其症重キハ全眼球炎ヲ起シ角膜癆或ハ眼球癆ヲ來スコトアリ

療法 先ツアトロピンヲ點眼シ硼酸溶液等ヲ用井テ結膜囊ヲ洗滌スルカ若クハ「ヨードフォルム末、アリストール、ヂチニン」ヲ撒布シ○外傷性ノモノハ防腐的ニ繃帶ヲ施スカ或ハ五千倍昇汞水罨法ヲ行ハシメ其他ノモノニハ務メテ硼酸水罨法ヲ命ジ疼痛ニハ麻醉藥ヲ與フベシ○其症頑ナルモノハ銳匙ヲ以テ搔爬シ或ハ電氣燒灼器ヲ用井テ潰瘍ノ縁界ト底面トヲ燒灼ス可シ縁界判然セザルハ○五フロレスチン」ヲ二%曹達水一○、○ニ溶解シタルモノヲ以テ之ヲ染ム可シ上皮缺損部ハ鮮綠色ヲ呈ス○前房ニ蓄膿シタルモノハ角膜切開或ハ穿刺術ヲ施シ又劇痛アル者ニハ麻醉劑ヲ用井遲鈍性潰瘍ニハ水或ハ「カミルレ」浸劑ノ濕罨法ヲ行ヒ或ハ熔製硝酸銀ヲ用井結膜天蓋部ヲ細ク燒灼ス可シ

硼酸 三、〇

硼酸 一〇〇、〇

右調和結膜囊洗滌用

一、〇

サリチール酸 一〇〇、〇

右調和用法同上

二%ヒオクタンニン水

右潰瘍面へ塗布

ヨードフォルム

五、〇

右撒布用

硫酸アトロピン

〇、〇五

餾水

一〇、〇

右調和點眼料

疼痛ニハ左方ヲ用ユ

萇若越

三、〇

餾水

二〇〇、〇

右温罨法料トナス

若シ其潰瘍角膜周圍ノ深部ニ浸蝕スルカ或ハ大ニ蔓延スルカ或ハ軟化スルカ或ハ周圍性虹彩炎ヲ起セルトキハ「アトロピン」ヲ禁ジ「エゼリン」ヲ用ユ可シ

サリチール酸エゼリン

〇、〇五

餾水

一〇、〇

右調和點眼用

胃潰瘍或ハ圓形胃潰瘍

Ulcus ventriculi
ウルクス、ウエントリクリー

原因 萎黃病、心臟病或ハ肺硬結等ノ爲メニ起ル胃粘膜炎ノ末梢動脈エンボリ或ハ毛細管溢血ニ來ル婦人ニ多シ胃酸過多モ亦之ヲ發スルコト有リ

診候 胃加答兒ノ諸症殊ニ食後胃部疼痛、酸性嘔氣嘔噁惡心、嘔吐、吐血等ナリ、胃痛ハ灼熱様穿刺様痙攣様ニシテ心窩ニ局限シ、嘔吐ヲ起シ胃内容ヲ失フ時ハ通常止ムモノナリ、又患者ノ位置ニヨリテ増減アリ

胃潰瘍或ハ圓形胃潰瘍

リ亦本症ニ必要アル症候トシテ記載ス可キハ背部ノ疼痛ナリ、(特ニ左側第八乃至第十二胸椎又ハ第一第二腰椎ノ間時ニ兩肩胛骨間ニ發スル「アアリ」壓痛ハ心窩ニモ背部ニモ發ス、嘔吐ヲ發スルハ通常其疼痛ノ劇シキ場合ナリ、吐血或ハ自然ニ或ハ身體ノ勞働、精神感動ニヨリ又食後ニ發ス、此血色ハ暗黒酸性ナリ其他、風氣、黒色タル様血便、便秘、或ハ下痢也食慾通常亢進シ舌ハ清潔ニシテ食味モ亦良合併症又ハ後遺病トシテハ癩痕性幽門狹窄、穿孔性腹膜炎、胃癌、砂漏胃、横隔膜下膿瘍、進行性惡性貧血ナリ、○胃癌ノ條ヲ看ルベシ

豫後 良但シ穿孔出血ヲ發スレバ不良

療法 吐血ニハ其對症療法(吐血ノ條下ヲ看ヨ)ヲ行ヒ且ツ食物ヲ斷然禁ジ其止血ヲ認メタルニ及ンテ冷牛乳ヲ反覆少量ヲ與ヘ漸次増量スベシ然レドモ患者若シ牛乳ニ堪ヘザルトキハロイベ、ローゼンタール兩氏肉溶液或ハ新鮮ナル肉越幾斯ヲ與ヘ若クハ「ペプトン」或ハ肉滓灌腸(新鮮牛滓一五〇、〇細挫肉片三〇〇、〇ヲ煎ジテ小許ノ肉羹汁ニ作り先ヅ清洗灌腸ヲ行ヒタル後之ヲ直腸内ニ注入スルナリ)ヲ用ユ可シ○疼痛ノ發作ニハ麻醉劑ヲ投ジ頑固ノ嘔吐ニハ麻醉劑及氷片ヲ與ヘ風氣

ニハ驅風藥ヲ用ユ可シ諸症ノ減退スルヲ待テ始メニ淡泊ノ食物、鶏卵、細截肉片等ヲ與ヘ又藥品ニハ「カル、ス泉鹽(五、〇乃至一〇、〇)ヲ温湯ニ溶カシ朝夕内服」マリエンバード等ヲ用ユ可シ病後一二年ハ果實ノ生ナルモノ、酸味ノ強キモノ香竈料ノ多ク加ヘタルモノ寒熱ノ強キモノヲ飲食スルコトヲ禁ス○吐血後ハ少ナクモ二週間就褥靜養ヲ要ス而シテ止血後ハ氷嚢ニ代フルニ温罨法、舊布ヲ胃部ニ貼スベシ出血ノ甚シキモノ或ハ内科的治療効ナクシテ再發多キモノ或ハ癩痕狹窄ヲ形成スルモノ或ハ穿孔シテ膿瘍ヲ形成スルモノハ外科的手術ヲ施スベシ

單ニ潰瘍ノ療法ニハ次硝酸蒼鉛或ハ抱水クロラールヲ用井テ効有リ

次硝蒼

一、〇

アンチピリン

重曹

白糖

各〇、五

白糖

各〇、五

右爲一包與六包每食前十五分一

右爲一包與六包每食前一包(胃

包宛

瘰アルトキハ「モルヒ子〇、〇一

次硝蒼

次硝酸蒼鉛

重曹

阿片末

一、〇

白糖 三、〇
 右十包二分チ一日三回每一包
 次硝酸蒼鉛 一、〇
 萇若越 〇、一
 茴香油精 三、〇
 右研和散十包二分チ朝夕每一包
 重曹 一、〇
 ヒヨス越 〇、三
 次硝酸蒼鉛 各二、〇
 白糖 右十包二分チ一日三回每一包
 硝酸銀 〇、〇五
 餾水 一二〇、〇
 カリセリン 三〇、〇
 右黑色瓶ニ入レ與フ毎日三回一
 食匙
 コカイン 〇、一五
 白糖 二、〇

右散五包二分チ毎日三乃至四回
 一包
 嘈嗽著シキモノニハ
 煨製マグネシア 三、〇
 重曹 五、〇
 右研和分六包一日三回食後三十
 分一包宛
 重曹 六、〇
 煨製マグネシア 三、〇
 萇若越幾斯 〇、一二
 右分六包一日三回食後三十分ニ
 與フ二日量
 劇痛アルトキハ「モルヒネ」ノ皮下注射
 ナ行ヒ左方チ處ス可シ
 鹽莫 〇、一
 杏仁水 一〇、〇
 右調和毎回五滴乃至十滴
 燐酸コデイン

萇若越幾斯 各〇、一二
 炭酸蒼鉛 三、〇
 白糖 三、〇
 右分十包一日三回每一包宛
 過クロール鐵液 一〇、〇
 右五滴チ一杯ノ砂糖湯ニ和シテ
 用ユ
 嘔吐アルトキハ氷片チ與ヘ左方
 鹽酸コカイン 〇、〇一乃至〇、〇五
 白糖 〇、五
 右一包トシテ頓用
 修酸メリウム 〇、〇五
 乳糖 〇、五
 右一包トシテ頓用
 下痢ノ劇甚ナルトキハ左方チ處スヘシ
 タンニン酸 〇、五

尿毒症

Uraemia.

ウレミア

阿片 〇、一五
 白糖 二、〇
 右研和散五包二分チ毎二時一包
 近時ノ經驗上凡ソ十四日間朝夕抱水ク
 ロラール「チ與ヘ日中ニハ」カル、ス泉
 鹽チ用ユルコト世ニ稱スル所ナリ
 抱水クロラール 三、〇
 餾水
 アピアゴム漿 各五〇、〇
 右調和一夜ノ服量（但シ三分シ
 テ二時間毎ニ用ユ可シ）
 吐血チ發シタルトキハ先ヅ絶對的安靜
 ナ命シ阿片丁十五滴チ與ヘ胃部ニ氷嚢
 チ施シ氷片チ喫セシメ後毎三時阿片丁
 五滴チ與フ

原因 尿成分ノ排泄障碍ニ由リテ起ル中毒ナリ腎臟諸病及腎盂以下ノ尿道ノ疾患ニシテ尿排泄ヲ障碍スルニヨル、通常尿排泄減少又ハ閉止ノ時ニ發スルモ尿量ニ異常ナク又ハ增量シタル場合ニモ之レヲ發スルコトアリ、

診候 急性症ハ多クハ頭痛、偏頭痛、眩暈、視力朦朧、耳鳴、嗜眠若シクハ不眠症、食慾不振、悪心、嘔吐等ノ前驅症ヲ以テ始マリ、稀ニハ忽然癲癇様發作ヲ以テ始マル、而テ多クハ既ニ一日以内ニ人事不省トナリ或ハ間代性痙攣ヲ發ス痙攣ハ二三分乃至十五分後消失スレトモ人事不省、昏睡ハ尙持續シ時ニ再ビ醒覺セズ、シヤイン、ストック氏呼吸現象及心臟衰弱ヲ以テ死ス、或ハ醒覺後異常ナキカ、或ハ再ビ發作ヲ來スコトアリ、或ハ慢性ニ移行スルコトアリ、發作時ニハ散瞳或縮瞳光線反應緩徐發汗若シクハ乾燥體温上昇（暫時ニシテ常温ニ復シ又ハ常温以下ニ下ルコトアリ）時ニ不全發作ニシテ昏睡ノミ存シ或ハ痙攣ノミ存シ或ハ譫妄及癲狂狀發作或ハ精神發揚後沈鬱ヲ來タスコトアリ、或ハ失語症（半身不隨ヲ伴フコトアリ）ヲ發スルコトアリ、屢黒内障ヲ發シ、時ニ蛋白尿性網膜炎ヲ發見スルコトアリ又内疼ヲ見ルコト

アリ、殊ニ舌、口莖、咽頭粘膜ニ於テ最モ多シ、慢性ニハ消化不良、頭痛、アンモニア性嘔吐、下痢、嗜眠精神恍惚、耳聾昏睡等喘息症候ヲ發シ、呼氣ニ尿臭ヲ帶ブルコトアリ、時トシテ苦惱ナル皮膚瘙癢ヲ發ス

療法 尿毒症ノ兆即尿量大ニ減少比重甚ダ下リ且頭痛惡心嘔吐無慾不安ニハカフイン或チウレチンヲ與フ心力弱キハチキタリス葉劑灌腸ヲ伍用ス急性尿毒症發作ニ食鹽温液ノ皮下、靜脈内ノ注射或灌腸（五〇〇〇—一〇〇〇〇）若脈強實ナレバ食鹽注入前刺絡（一五〇、〇—二〇〇）或吸角ヲ用ユ心衰弱ニカフエインカンフル油エーテル精皮下注射其他頭部水巻法皮膚刺劇、痙攣ニハ抱水クロラール灌腸ヲ行フ〇腎臟炎ノ條ヲ参照スベシ

麻疹毒

Urticaria.

ウルチカリア

原因 血管運動神經ノ障害ニ由テ發スル皮膚ノ疾患ニシテ蕁麻、蚊刺、蚤螫、魚鰕ノ中毒或ハモルヒネ、キニーチ、テレピンテ油等ノ消化器刺戟、寒冷、蜜尿病、黄疸、消化器病、間歇熱、女子生殖器病等ナリ

蕁麻疹

診候 急性皮膚病ニシテ赤色或ハ白色平坦大豆大ノ硬隆起疹ナリ瘙痒灼熱ス時ニ熱發或ハ浮腫ヲ起スコト有リ其來去速カナルヲ以テ特徴トス

療法 原因療法ヲ第一トシ而シテ曹達浴、明礬、冷水浴及灌水法等ヲ行ヒ時ニ或ハ澱粉ヲ外用スルコトアリ其頑固ナル者ニハ「アトロピン」ヲ内服セシムベシ

- 硫酸マグネシウム 二〇、〇
- 苦丁 二、〇
- 餾水 二〇〇、〇
- 右一日六回二日分服
- 醋酸 五、〇
- 酒精 二〇〇、〇
- 右調和洗滌料
- 鹽規
- エルゴチン 各一、〇
- 蕒若越 〇、〇二
- グリセリン 適宜
- 右丸トナシ毎二時一乃至二丸
- 硫酸アトロピン 〇、〇一
- 餾水
- グリセリン 各二、〇
- トラガンタ末
- 右調和丸十五粒ニ作り毎日二粒
- 瘙痒ニハ左方ヲ處シテ効有リ
- 薄荷腦 二、〇
- 再餾酒精 一〇〇、〇
- 右塗布料
- ブランデー酒 一〇〇、〇
- 右瘙痒部ニ塗布ス
- 撒曹 五、〇

米粉

右研和撒布用

二〇、〇

ペルーバルサム

五、〇

グリセリン

右調和塗布用

三〇、〇

水痘

Varicella. ウァリツヘルラ

原因 未詳、専ラ小兒ニ發スル流行病ナリ本病ハ空氣、介達者又ハ物品又ハ直達接觸ニヨリ蔓延シ一回患フルトキハ多クハ免疫性ヲ獲取ス

診候 潜伏期(十四日)ノ後輕熱ヲ發シテ全身ノ處々(初メ顔面漸次軀幹四肢ニ)ニ紅斑ヲ生ズ該紅斑ハ速ニ水泡ニ變ズ大サ大小豆粒ノ如ク内ニ水様透明ノ液ヲ容ル而シテ三日後ヨリ結痂シ一二週ニシテ治ス大陰唇及大腿内面ニ紅斑ヲ生スルコトアリ、大小陰唇ハ脂垢ヲ被ムルコトアリ

療法 藥劑ヲ要セス消化シ易キ食物ヲ與ヘ二三日間就褥セシムベシ口腔ノ清拭含嗽等ハ缺クベカラス

腔痙攣

Vaginismus. ヲウギニスムス

原因 陰門狹隘ニ關スル交接的或ハ手淫ノ刺戟過度、外科的疾患等ニシ

水痘 腔痙攣

テ妙齡ノ女子ニ多シ

診候 陰門ノ知覺過敏瘰癧狹窄等ナリ

療法 原因解剖的變常ニ在ルカ或ハ病的變常ナルカヲ明ニシテ各局部ノ

病狀ニ應ジ或ハ擴張法ヲ行ヒ或ハ炎症潰瘍等ノ療法ヲ施シ又微温坐浴

ヲ用井或ハ鐵劑、ブロームカリウム等ヲ内服セシム可シ

鹽酸ユカイン 一、〇 時ニ或ハ弱硝酸銀溶液五十倍ノモノヲ

餽水 二〇、〇 塗布シ或ハ「ヨードフォルム」ヲ吹入シ

右調和塗布料 テ良効ヲ奏スルコトアリ

痘瘡

Variola. ウァリオラ

原因 天然痘毒ノ感染ニシテ觸接性流行性ナリ又空氣、介立人體又ハ物

體ハ本病傳染ヲ旺盛ナラシム、罹患後ハ免疫性ヲ獲收シ得ベシ

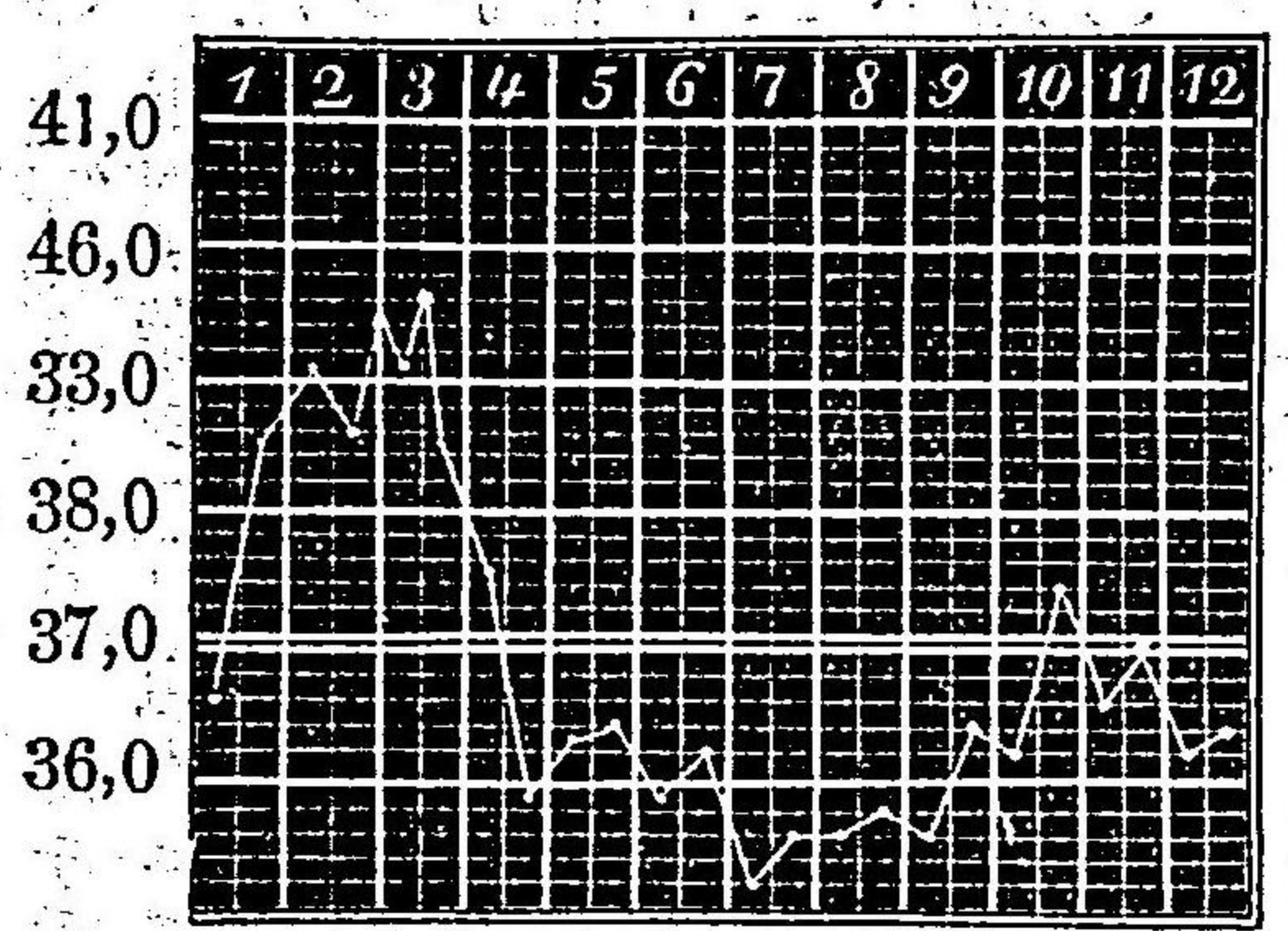
診候 潜伏期(十日乃至十四日)ノ後序期(三日)ニ移リ寒戰、體温昇

騰(四十度乃至其以上ニ達シ稽留ス)頭痛、嘔吐、薦骨痛、譫語、瘰

癧(小兒ニ於テ)第二日ニ於テ前驅發疹即チ紅斑性或ハ出血性斑疹ヲ

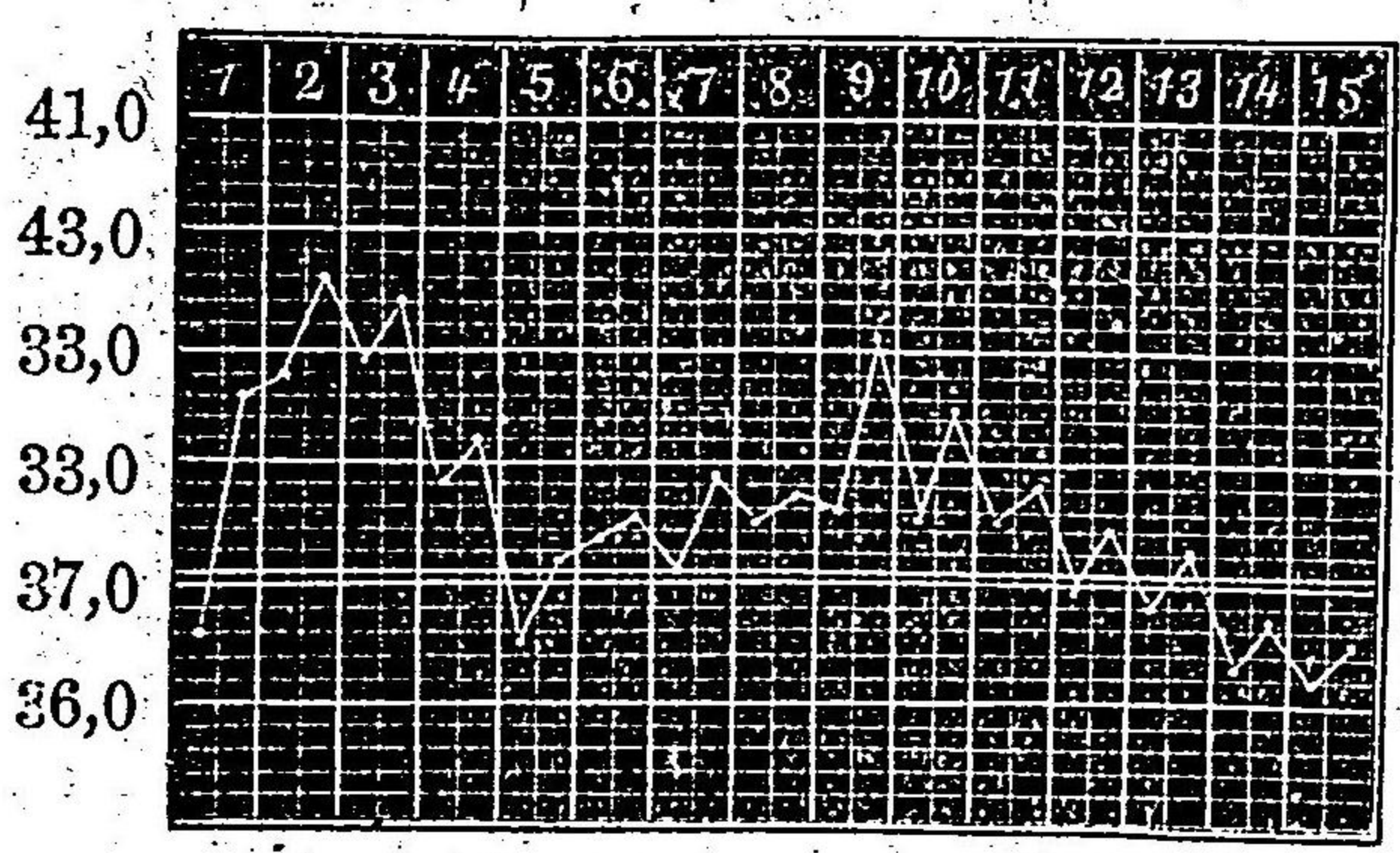
下腿及大腿ノ内面ニ多發ス第三日ノ終リ若クハ第四日ノ始メニ於テ發

圖 八 十 五 第



假痘

圖 九 十 五 第



真痘

序期

發疹

序期

發疹

痘瘡

六六三

期ニ終リ全身症狀輕快ス其後ノ經過ニ從ヒ二種ニ分ツ

(甲)眞痘 *Varicella vera* 即チ重症ニ在リテハ發疹期ニ於テ先ヅ頭部及顔面ニ小斑ヲ發シ二日以内ニ丘疹ニ變ジ丘疹ノ中央ニ水疱ヲ發生シ次デ膿疱ニ變ジ第九日ニ於テ眞痘膿疱ヲ完成シ其頂點ニ臍窩ヲ有シ紅暈ヲ繞ラス(化膿期)此時期ニ於テ體温再ビ上昇シ顔面腫脹甚ダシク頭部及手指ニ發疹疼痛ヲ生ス口及ビ咽頭等ニモ亦發疹シ嚥下困難、其他結膜炎虹彩炎等ヲ發スルヲアリ第十二日若クハ第十三日ニ至リ體温下降シ膿疱乾燥結痂ス(乾燥期)而シテ劇甚ナル瘙痒ヲ伴ヒ一週或ハ二週ノ後痘痕ヲ留メ或ハ暗褐色ノ斑ヲ留メテ治ス(斑ハ數月ノ後消失ス)○眞痘ノ經過中化膿期ニ於テハ死ヲ來タスコト渺ナカラズ○全經過四乃至六週

(乙)假痘 *Varicella* 即チ輕症ニ在テハ發疹僅少ニシテ膿疱ヲ形成スルモノ少ナシ全經過二週

豫後 多數ノ膿疱ヲ形成シ其融合スルモノ出血シテ黑色痘瘡ヲ作ルモノハ豫後共ニ不良ナリ假痘ハ良

療法 純粹ノ待期療法ニシテ攝生ヲ嚴ニシ通氣ヲ善良ニシ發熱ニハ冷水罨法或ハ氷罨法ヲ行ヒ便通ヲ利シ而シテ合併症ニハ時期ヲ過サズ適應

ノ療法ヲ加フベシ○皮膚ノ緊張著シキトキハ油類ノ塗擦若クハ塗布ヲ用井或ハ五十倍ノグリセリン溶液ニ浸シタル麻布ヲ用井全身ヲ被包シ解熱後ニハ微温全身浴ヲ行フ可シ豫防法ニハ隔離法ヲ嚴ニシテ消毒法ヲ行ヒ種痘ヲ施ス等其一般ナリトス

拘櫟汁 各一五、〇
右「バスタ」トナシ麻布ニ攤シ貼用毎日一回交換スベシ 五、〇

覆盆子舎 各一五、〇
右調和飲料ニ加ヘ用ユ 五、〇

面部ニハ殊ニ其豫後ヲ善良ニシテ癢痕ヲ貽サ、ラシメンガ爲ニ左ノ石炭酸澱粉軟膏ヲ塗布スルヲ宜シトス 各五〇、〇

石炭酸 五、〇
オレノフ油 三、〇
澱粉 各四〇、〇

右調和軟膏ニ作ル 三〇、〇
石炭酸 四、〇
オレノフ油 四〇、〇

白堊 六〇、〇
右調和軟泥ニ作り軀幹及四肢ニ外用ス而部及頸部ニハ「グリセリン」ニ代フルニ扁桃油ヲ以テ

シ而シテ假面ヲ用キ軟泥ヲ固定スベシ

疣贅

Verruca. ウェルガ

療法 皮膚ノ表面上ニ隆起スル部分ヲ剪去シテ後腐蝕ス其他

發煙硝酸

五、〇

右腐蝕用

又單ニ左方ヲ反覆シテ其腐蝕ヲ試ムル

モ可ナリ

サリチール酸

各一、〇

酒精

エーテル

コロザウム

石炭酸

五、〇

五、〇

右外用
亞砒酸 二、〇
水銀軟膏 五、〇、〇
右調和外用繃布ニテ固定ス表皮剝脱スルニ至レバ後用ヲ止メテ軟膏ヲ除去ス可シ
周邊ノ健全部ヲ保護スルガ爲メニハ綿花或ハ「グツタペルガ、クワ、フホルム」等ヲ用キテ其部ヲ被包ス可シ

眩暈

Vertigo. ウェルチロ

療法 原因療法（神經中樞或ハ腸内臓ノ療法）等ヲ主トナス可シ

神經性眩暈ニハ左方ヲ用キテ効アリ

纈草丁

ハルレル氏酸越歴矢兒 各一〇、〇

右調和毎二時十滴乃至二十滴水

ニ加ヘ用ユ

臭剝

龍膽丁

餽水

右一日六回二日分服

腹内臓性ノモノニハ左方ヲ用ユ

癒瘡木脂

昇華硫黃

純精酒石

拘椽油糖

右研和散ニ分チ朝夕每一茶匙

耳病性眩暈（所謂メニール氏耳迷路疾

患）ニハ「キニート子」（一日量〇、六乃至

〇、八）ノ連用（八日乃至十二日間）次テ

八日乃至十二日間中止シ再ビ前方ヲ反

用シテ効有リ（シヤルコー氏）

心臟瓣膜病

Vitium cordis. ウチウム、コルヂス

原因 心臟内臓病ノ原因トナル可キ者（殊ニ樓麻質斯）心筋炎、血管硬化、墜落、劇動等ニシテ心臟患者百人ニ就キ八十九ハ左心ノミテ十八ハ右兩心ニ跨リ一ハ右心ノミテ侵ス又タ左心疾患ノ六十六%ハ僧帽瓣ヲ三十四%ハ大動脈瓣ヲ侵スノ比例ナリ

疣贅 眩暈 心臟瓣膜病

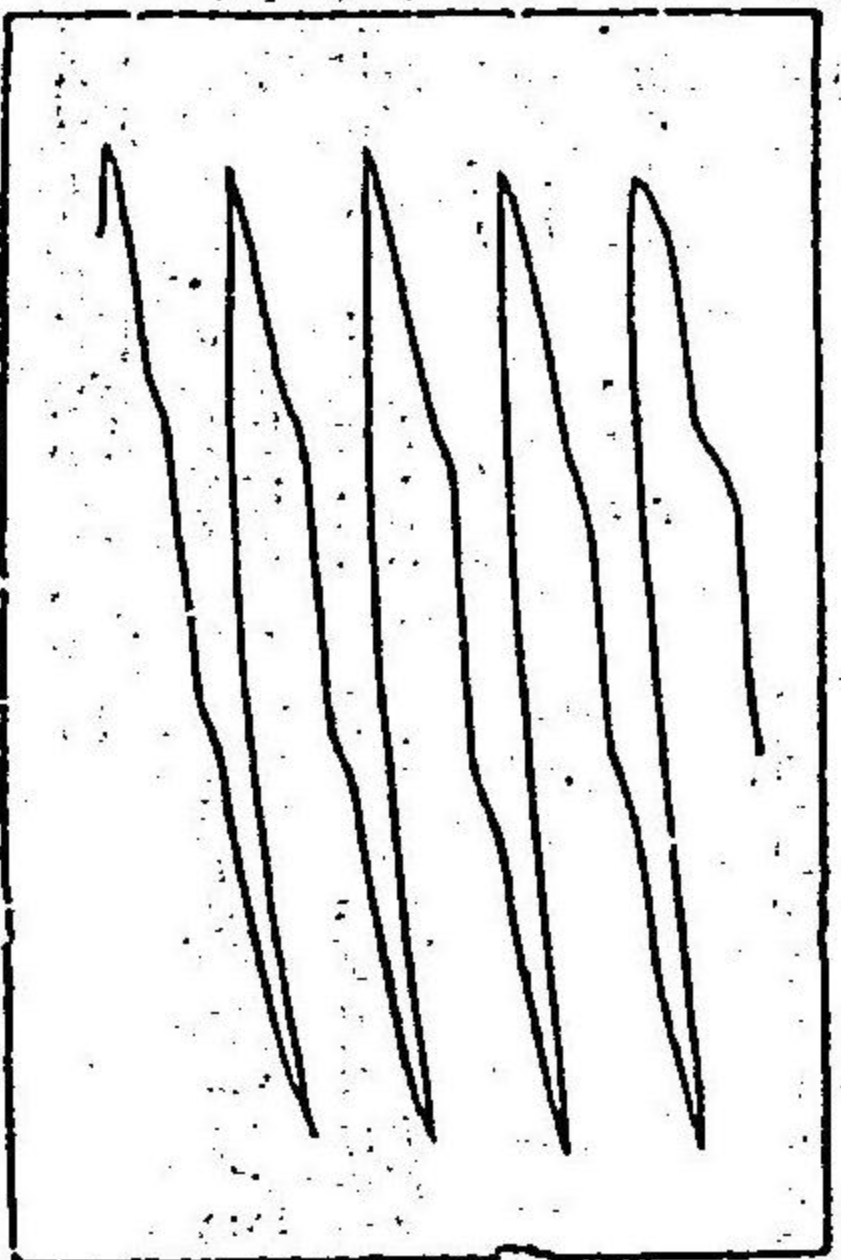
診候 僧帽瓣不全閉鎖ニ在リテハ（瓣膜病中最モ多キ疾病ナリ）心尖ニ於ケル收縮時雜音肺動脈第二音ノ強盛第三心室音強盛、大動脈音微弱脈搏細小、心臟濁音部其横徑ヲ増加シテ右方ニ進ミ右胸骨緣及其以上ニ到ル心尖衝突ノ増劇○僧帽瓣口狹窄ニ在リテハ開張時雜音第二肺動脈音強盛、第一大動脈音弱、心濁音部擴張、心尖衝突稍強劇、脈小○僧帽瓣不全閉鎖兼狹窄ニ在リテハ左心室ニ於ケル收縮時及ビ開張時ノ雜音肺動脈第二強盛、大動脈第二音微弱、心尖衝突不全症ニ於ケルガ如シ心濁音部ハ不全症ニ於ケルヨリモ尚ホ擴張シ脈小ナリ○大動脈ノ不全閉鎖ニ在リテハ心尖衝突外下方ニ轉ジ左室及ビ大動脈ニ於ケル開張時雜音心濁音部長徑ヲ増加シ脈搏強且速、橈骨動脈等ニ於テ明カニ音ヲ聽知ス○大動脈口狹窄ニ在リテハ左室及大動脈ニ於ケル收縮時ノ雜音、大動脈第二音微弱、心尖衝突外方ニ轉ジテ弱ク濁音部縱横徑共ニ稍々擴張ス脈極メテ小且遲○大動脈口不全閉鎖兼狹窄ニ在リテハ左室及ビ大動脈ニ於ケル收縮開張時ノ雜音濁音部縱横ニ擴張ス○三尖瓣閉鎖不全ハ收縮時雜音頸靜脈搏動○同上狹窄ハ右室内開張時雜音頸靜脈怒張○肺動脈不全閉鎖ハ第二左肋間部ニ開張時雜音濁音部右方ニ増

大頸靜脈怒張○肺動脈口狹窄ハ第二左肋間收縮時雜音猫媚音觸知濁音右方ニ増加ス心動強盛ナルモ心尖衝突反テ不明ナリ○代償機ヲ失スレバ呼吸困難、咳嗽、咯痰、喘息發作、心悸亢進、癱瘓質斯性疼痛、皮膚蒼白、水腫、尿量減少、腸胃ノ障害、栓塞ノ症狀等ヲ發シ脈疾速不正トナル

豫後 不良、體格強弱、年齢、攝生ノ如何ニ因テ異ナレリ

療法 其治則對症的ニシテ過度ノ勞働ヲ慎ミ凡テ精神ノ興奮ヲ禁ジ熱浴ハ決シテ之ヲ取ラシメズ唯ダ稀レニ温浴ヲ許シ或ハ便通ヲ調整スル等

第十六圖



大動脈瓣不全閉鎖

其一般ナリトス而シテ代償機ノ攝生ニハ喜怒哀樂ノ感動及ビ身體ノ勞働ヲ避ケ食物ニハ肉、牛乳、鶏卵ノ類ヲ與ヘ麥酒及ビ薄葡萄酒ハ其少量ヲ許スコト有ルベキモ香竄物、濃厚珈琲、茶、煙草ハ斷ジテ之レヲ禁ジ且ツ冬期ハ南方夏期ハ綠陰深處ニ轉地

療養セシメ又貧血家ニハ鐵劑、多血家ニハ牛乳及葡萄酒療法ヲ用非常ニ便通ニ注意スベシ

既ニシテ代償機ニ障害ヲ起シ即チ心悸亢盛亂脈等ノ症狀ヲ呈ハス者ニハ心部ニ冷器法ヲ行ヒ緩利尿劑、「ヂギタリス」ノ類ヲ内服セシメザル可ラズ而シテ「ヂギタリス」ハ脈ノ遅除調整強實ヲ呈スルヤ直チニ其後服ヲ止ムベシ

ヂギ葉浸 (一、〇)一八〇、〇
覆盆子舎 二〇、〇
右毎二時一食匙

ヂギ葉浸 (一、〇)一八〇、〇
單舎 (一、〇)乃至三、〇一八〇、〇
右調和二時一食匙

ヂギ葉浸 (一、〇)一五〇、〇
硫酸アトロピン水 (〇、三%)一、〇
單舎 一五、〇
右調和二時一食匙

幾テ以テスルコトアリ
ストロファンツス丁 二〇、〇
右一日三回每五乃至十二滴

枸橼酸カフエイン 一、〇乃至二、〇
白糖 三、〇
右五包ニ作り一日ニ分服スベシ
ヂガレン 一、〇
右一日數回半一筒皮下注射料
ヂギトキシリン 〇、〇二
アルコホル 一〇、〇
溜水 二〇〇、〇
右灌腸料一〇、〇チ一〇〇、〇ノ
微温湯ニ混シ初毎日三回次ニ二
回後毎日一回宛
安息香酸ナトロンカフエイン 〇、二
右一回ノ量散十包ヲ製シ毎日四
乃至八包
硫酸スパルテイン 〇、三

ヂギ葉浸 (一、〇)一五〇、〇
鹽莫 〇、〇五
杜松實舎 一五、〇
右調和二時一食匙

ヂギ丁 十滴
杏仁水 一〇、〇
右調和一日三回每十滴

喘息ノ狀況ヲ呈シ或ハ心悸亢進ヲ起シテ脈搏ノ唯強實ナル者ニハ「ヂギタリス」ヲ應用スベシ然レドモ久シク連用スベカラズ或ハ之レニ代フルニ左ノ丁

溜水 三〇〇、〇
單舎 三〇、〇
右調和一日三四回每一食匙
脈搏微弱心悸亢進チヤノ一セ等ヲ呈スルトキハ左方ヲ用ユ
硫規 一、〇
白糖 三、〇
右研和散十包ニ分チ朝夕每一包
ベスツセルフ氏神經鐵丁 一五、〇
複方キナ丁 一五、〇
右調和一日三回十五滴
ヂギ葉浸 (〇、七)一五〇、〇
硝酸エーテル 二、〇
海葱醋密 二〇、〇
右調和毎三時一食匙
脈搏不整歇代スルモノニハ左方ヲ處ス可シ
硝酸グリセリン、アルコホル溶液

アルコホル (〇、三%者) 一、〇
五、〇
右調和一日三回每五乃至六滴
氣管支加答兒ヲ併發シタルトキハ左方
ヲ處ス可シ
硫規 〇、五
金硫黃
安息香酸 各〇、二
白糖 一、二、〇
右研和散五包ニ分子朝夕每一包
硫規 一、〇
鹽莫 〇、〇五
白糖 二、〇
右研和散十包ニ分子每二時一包
心臟病ノ爲メニ喘息發作ヲ起ス者ニハ
左方ヲ用キテ効驗大ナリ
ロベリヤ丁 一、〇、〇
右每時十乃至十五滴

杏仁水 一〇、〇
ロベリヤ丁 各五、〇
右調和每時四乃至五滴
肺水腫ノ症候ヲ發シ來レルトキニハ左
方ヲ處スルコト猶豫スル勿レ
アルニカ花浸 (一〇、〇) 一五〇、〇
單舍 一五、〇
右每一食匙
安息香華 二、〇
樟腦 〇、六
白糖 三、〇
右研和散十二包ニ分子每三時一
包
浮腫及ビ蛋白尿ヲ起セルトキハ「セル
テルス水箒ヲ與ヘ兼子テ左方ヲ處スベ
シ
ガカレチン 五、〇

單舍 二〇、〇
溜水 一〇〇、〇
右每時一食匙
酒石英 四〇、〇
醋剝 一〇、〇
溜水 一五〇、〇
右一日三回二日分服
心臟筋質ノ變性ニハ「エーテル」ノ皮下
注射ヲ行ヒ或ハ左方ヲ處スルヲ宜シト
ス
纈草根浸 (一〇、〇) 二〇〇、〇

創傷

Vulnus, Wunde. ウルヌス、ウンデ、

診候 疼痛、出血、創口哆開等
療法 概スルニ創面ノ防腐療法ニ必要ナル治療品ハ左ノ如シ
第一 一%リゾール水ニ二%硼酸水ニ、五%石炭酸溶液、昇汞溶液(千
倍ノ者)

エーテル 二、〇
橙皮舍 二〇、〇
右調和每時一食匙
神經性心悸兀進ニハ左方ヲ用キテ効有
リ
次硝酸ナトリウム 〇、五
溜水 一五〇、〇
右調和毎日三乃至四食匙
其他本症ニ對スル治則ニハ尙水腫ノ條
下ニ掲グル所ヲ參考スベシ

第二 結紮糸ニハ熱湯、石炭酸、昇汞ヲ以テ消毒シタル絹糸等ヲ用ユト雖ドモ「ヨードフォルム絹糸殊ニ賞用スベシ即チ絹糸ヲ煮沸シテ之レヲ五%ノ「ヨードフォルムエーテル」内ニ二十四時間放置シ後之レヲ「アルコホル」内ニ貯フ

第三 排膿管

右石炭酸若クハ昇汞水ニ由テ、或ハ煮沸シテ消毒シタル「ゴム管若クハ硝子管

第四 イトロール（即枸橼酸銀）○ヨードフォルム末（ヨードフォルム末ヲ四日間五%石炭酸液内ニ放置シ後一%石炭酸液ヲ以テ粥

状トナシタルモノヲ賞用ス）○銀綿紗○ヨードフォルム綿紗
右創面撒布及ビ貼用

第五 醋酸礬土水綿紗、綿花

第六 卷軸帶、三角巾

創傷療法ニ「ヨードフォルム」ヲ應用スルハ實ニ有効ナル要件ニシテ世ニ之ヲ「ヨードフォルム」繙帶料ト總稱シ先ツ之ヲ粉末トシテ而シテ或ハ粉末ノ儘直ニ撒布スルコト有リ或ハ之ヲ桿ニ作りテ創腔内ニ送入スルコト

アリ或ハ之ヲ「エーテル」ニ和シテ注入スルコトアリ或ハ之ヲ乳劑軟膏等ニ作りテ應用スルコトアリ其用法一ニシテ足ラス但シ本品ノ臭氣ヲ防グガ爲メニハ「トシカ豆、クマリン、ベルガモツト油、薄荷等ヲ混和ス可シ又ヨードフォルム一〇、〇中ニ石炭酸〇、〇五ヲ加フルモ消臭ノ効アリ
輓近クレデ氏ノ研究ニ由テ極メテ有効ナルコトヲ證セラレタル創傷ノ銀療法ハ大ニ賞用スベキモノナリ○銀鹽ニテ生ズル衣服ノ汚點ヲ去ルノ法ハ其ノ衣服ヲ左ノ液中ニ浸スコト一三分ニシテ後數回水ニテ清洗ス（昇汞一、〇食鹽二五、〇水二〇〇、〇）

一%リゾール水 五〇〇、〇 昇汞 〇、五

右外用 二〇〇、〇 昇汞 右調和外用 五〇〇、〇

二%硼酸水 二〇〇、〇 昇汞 右調和外用 五〇〇、〇

石炭酸 各五、〇 昇汞 右調和外用 五〇〇、〇

濃厚酒精 各五、〇 昇汞 右調和外用 五〇〇、〇

右調和外用 二〇〇、〇 昇汞 右調和外用 〇、五

右調和外用 二〇〇、〇 昇汞 右調和外用 〇、五

酒石酸	二、五	石炭酸	五、〇
餾水	五〇〇、〇	オレーフ油	五〇、〇
右調和外用(所謂酸性昇汞溶液)		右調和繃帶用	
(ラブラー氏)		サリチール酸	二、〇
クレタリン	四、〇	緩和軟膏	三〇、〇
餾水	二〇〇、〇	右調和軟膏ニ作ル	
右調和外用		サリチール酸	五、〇
鉛水	三〇〇、〇	餾水 (少量ノ酒精ヲ加シタルモ)	二〇〇、〇
右繃帶料		右調和繃帶用	
粗製明礬	一〇、〇	イトロール	五、〇
鉛糖	二〇、〇	右撒布料	
餾水	二〇〇、〇	ヨードフォルム (トンカ豆末ヲ加ヘ)	五〇、〇
右調和濾過外用 (醋酸礬土強溶液)		右撒布料	
粗製明礬	一〇、〇	ヨードフォルム	五〇、〇
鉛糖	二〇、〇	ベルガモット油	五滴
餾水	四〇〇、〇		
右調和濾過外用 (醋酸礬土弱溶液)			

右研和撒布	一〇、〇	グリセリン	八〇、〇
ヨードフォルム	一〇、〇	オレーフ油	四〇、〇
オレーフ油	一〇、〇	右調和注入料	
扁桃油	適宜	ヨードフォルム	五、〇
右調和桿ニ作ル(即チ「ヨードフォルム桿」)		エーテル	二五、〇
ヨードフォルム	一、〇	右調和創傷部實質内注入料	
白糖	適宜	酸化亞鉛	五、〇
右調和同上		ワゼリン	五〇、〇
ヨードフォルム	五、〇	右調和軟膏ニ作ル	
グリセリン	四〇、〇	硝酸銀	一、〇
餾水	一〇〇、〇	ベルーバルサム	五、〇
ドラガシタゴム	〇、三	單軟膏	一〇〇、〇
右調和乳劑ニ作リ繃帶用		右爲軟膏外用	
ヨードフォルム	一、〇	硝酸銀	〇、三
ワゼリン	一五、〇	ベルーバルサム	三、〇
右調和軟膏ニ作ル		ワゼリン	三〇、〇
ヨードフォルム	一〇、〇	右爲軟膏外用	
		硝酸銀	〇、一

創傷

豚脂	五〇、〇	白蠟	各三、〇
右調和軟膏ニ作ル		扁桃油	三〇、〇
硼酸末		右調和軟膏ニ作ル（所謂硼酸軟膏）	
パラフィン			

陰門炎

Vulvitis.

ウルヴィチス

原因 陰部ノ不潔、腔漏、尿道瘻、直腸瘻、外傷手淫、房事過度、梅毒、腺病、蜜尿管尿ナリ、小兒ニ在リテハ痲疾蟻蟲ニ基クコト多シ

診候 陰唇ノ發疹、粘膜ノ腫起潮紅癢痒痛バルトリン氏腺ノ腫大或ハ膿潰及ビ粘液膿汁排泄ナリ

豫後 良

療法 原因療法ヲ主トスベシ局處療法トシテ溫湯又ハ弱消毒液ニテ洗滌シテ治スルヲアリ、然レモ其症尙ホ烈シキ時ハ鉛糖又ハブロー氏液罨法ヲ施シ安靜ニスベシ、然レドモ慢性ニ陥リ一局部殊ニ大陰唇間ニ限局スル片等ニハ稍々強キ消毒藥百倍リゾール水五十倍ノ石炭酸溶液ハ百倍ノ「クレオリン」溶液二千倍ノ昇汞水等ヲ用ユ可シ而シテ洗滌後デ

マトール又ハ亞鉛化澱粉ヲ撒布シ綿花ヲ以テ被フトキハ漸次治療ス、紅班ニ對シテハ注意シテ乾燥シ表面ニ「ワゼリン」ヲ塗布ス又罨法ニハ醋酸礬土水或ハ鉛水ヲ用ユベシ又左方ヲ處シテ効アリ

硫酸亞鉛	四、〇	黃砒	〇、〇〇三
餾水	二〇〇、〇	右爲一包與六包一日三回二分服	
右調和洗滌用			
ヨードフォルム	一、〇	ブロー氏液	三〇〇、〇
重曹		右罨法料	
米粉	各一〇、〇	鉛水	三〇〇、〇
右研和撒布用		右罨法料	
臭剝	一、〇		

乾燥眼

Xerophthalmie.

キセロフタルミー

（瘡眼）

原因 二種ニ區別ス甲ハ局所ノ疾病ニ屬シ結膜ノ癩痕變性、又眼瞼ノ外翻及兎眼ニ見ルモノナリ乙ハ全身病ノ一分症トシテ起リ時トシテ流行性ニ來リ榮養不給大ニ其媒介ヲナシ殊ニ六七月頃慢性氣管枝加答兒慢性腸加答兒ヲ患フル小兒ニ多シ其他強キ反輝光線ニ暴露セル者亦々本

乾燥眼

症ニ侵サル、コトアリ本症ノ結膜上皮細胞ニ乾燥菌ヲ發見シ之ヲ原因ニ舉グルモノアリ然レモ本菌ハ屢々健康結膜ニモ存在スルモノナリ

診候 本症ハ結膜組織ノ變化ニ由リテ其表面乾燥シ涙液ニ由リテ濕潤セラレズ白色且ツ一種光澤ヲ發スル細泡沫ノ附着セル如キ小班點ヲ呈ス(ビトー氏斑)刺戟症狀ハ極テ少ク自覺的夜盲ヲ伴フ病機増進シテ角膜ヲ侵セバ其表面ニ曇暗ヲ來シ光澤ヲ失シ一見乾燥ノ狀ヲ呈シ同時ニ實質モ亦タ不透明トナル此如モノヲ角膜乾燥症ト云フ而シテ營養不給ニ由來スルモノハ專ラ上皮細胞ノ脂肪變質ニ陷ルモノニシテ一ニ上皮性乾燥症トモ稱ス局所ノ原因ニヨルモノハ又之レヲ實質性乾燥症ト稱ス

豫後 結膜ノ癢痕變性ヨリ來ルモノハ不良、眼瞼ノ外翻症及閉鎖不全ヨリ來ルモノハ其ノ手術的救治シ得ル時ハ良、全身病ヨリ來ルモノニシテ榮養ノ速ニ復舊シ得ルモノハ良、重症ニハ屢々角膜ニ潰瘍ヲ生ジ穿孔シ虹彩脫ヲ起シテ角膜葡萄腫ヲ來シ失明スルコトアリ又々角膜軟化ニ陷レル者若クハ著キ衰弱ヲ呈セル小兒ニ在テハ屢々危篤ノ全身症狀ヲ以テ斃ルコトアリ

療法 局所ニハ手術的救治シウルモノハ速ニ之レヲ施スベシ其他牛乳ク

リセリン扁桃油重曹水ヲ點眼シ又ハ繃帶ヲ施シテ乾燥ヲ防ギ榮養不良ヨリ來ルモノハ局所ノ溫罨法牛乳煉乳ヲ與ヘ專ラ榮養ニ注意スベシ

肝油	一、〇	肝油	二〇、〇
右膠囊一個ニ盛り一日十五個		石灰水	二〇、〇
肝油	五〇〇、〇	桂皮油	三滴
桂皮油	一五滴	右混和乳劑トシ一日三回分服	
右混和一日三回一茶匙乃至一食匙		漸次增量シ大人ハ	六〇、〇
角膜症ヲ來セルモノニハ宜ク合併症ノ治療ヲ計ルコト必要ナリ		小兒ハ	二〇、〇ニ至ル

病原診候豫後治則及處方畢

臨牀醫典附錄

○第一章急性中毒診候及療法

○通則

中毒療法ニ三アリ

- (一) 毒物排除法
- (二) 解毒法
- (三) 對症療法

毒物排除ノ方法ハ殆ンド同一ナルヲ以テ左ニ其通則ヲ記スベシ解毒及對症ノ二法ハ各中毒ノ條下ヲ看ルベシ
毒物胃中ニ在ルトキハ胃唧筒或ハ消息子ヲ以テ洗フベシ、然レドモ兩者ハ共ニ缺點アルヲ以テ却リテ單ニ彈力アル「ゴム」管（長サニ迷半即チ凡ソ八尺ニ寸五分管腔八乃至十ミリメートル管ノ厚サニ半乃至三ミリメートル）ヲ用ユルヲ良トス該管胃ニ達スレバ該管ニ洗滌液ヲ入レ吸液器（サ

イホン)トシテ作用セシムベシ(洗滌ノ際解毒劑ハ稀薄液ヲ用ユルコトヲ得)胃唧筒ニ對スル禁忌ハ酸、アルカリ昇汞等ニ由リテ著明ナル食道腐蝕ヲ生ジタル症ナリ、牙關緊急アルトキハ細キ消息子ヲ鼻孔ヨリ送入スベシ

胃唧筒、消息子、ゴム管ナキ場合ニハ口蓋ヲ刺戟シテ嘔吐ヲ發セシメ或ハ吐劑ヲ用ユ

上等芥子末 八、〇 一〇、〇

右水ニテ捏リ一蓋ノ水ニテ用ユ

硫酸銅 一、〇 餾水 五〇、〇

右調和吐劑トシテ先ツ其半量ヲ頓服セシメ若シ奏効ナキトキハ五分時ヲ經テ後其殘半量ヲ與ヘ而後各症適應ノ方法ヲ施スベシ

吐根末 一、〇

右爲一包與三包奏効アレバ服用ヲ止ム

鹽酸ピロカルピン 一、〇 餾水 一〇、〇

右黑色壤ニ貯フ皮下注射料半筒乃至一筒小兒ニハ四分ノ一筒以內毒物腸ニ在ルトキハ下劑ヲ與フベシ又々灌腸ヲ用ユ

苦水

カル、ス泉鹽

蓖麻子油

蓖麻子油ハ燐中毒ニ用ユルヲ禁ズ

毒物肺ヨリ吸收セラレタルハ新鮮ナル空氣ヲ吸收セシムベシ

○アルコホル中毒

診候 眩暈、耳鳴、頭痛、精神昏瞶、麻痺、痙攣、嘔氣、嘔吐、大便失禁、精液漏出、心動始躍終衰兼不整、脈搏歇代、呼氣帶酒臭等ナリトス

療法 急性アルコホル中毒ノ高度ナラザル者ハ其衣服ヲ解キ新鮮ノ空氣中ニ頭ヲ高ク眠レル儘ニナシ置クベシ、黑珈琲煎ニ枸櫞汁ヲ加ヘ與フルトキハ往々醒覺ヲ催進スル効有ルモノナリ酒客譫妄症ヲ參照スベシ

アンモニア水 二十滴 餾水 一二〇、〇

右每半時二乃至三食匙ヲ與フ

虛脫傾向ノ虞アルトキハ左方ヲ處ス

樟腦 〇、五 酒精 餾水 各五、〇

右皮下注射料

○クロ、フォルム中毒

診候 「チアノーゼ」ヲ呈シ冷汗、呼吸絶止、瞳孔散大シ、窒息ニヨリテ死ス或ハ「クロ、フォルム」ヲ吸入スルコト僅ニ數回ニシテ俄然顔面蒼白心臟機能減弱脈搏消失シ呼吸ハ一二分間持續シ心臟麻痺ニヨリテ死ス

療法 人工呼吸ヲ施シ或ハ兼メルニ感傳電氣ヲ以テスベシ即チ頸ノ兩側ニ於テ前歪筋ノ下端胸鎖乳頭筋ノ外端ニ當テ導子ヲ貼シ凡ソ二秒時間ノ刺戟ト二秒時間ノ休止ト交代シテ行フベシ
心臟機能ノ絶止シアル時ハ人工呼吸ノ際強ク心臟部ヲ壓迫スベシ

○モルヒネ中毒 阿片中毎

診候 急性中毒ニ於テハ頭痛眩暈、呼吸遲徐不正、嗜眠、昏睡、脈搏細徐、瞳孔縮少、皮膚蒼白

療法 濃厚ナル茶或ハ珈琲ノ多量ヲ用ユ
酪珈琲末浸 (五〇、〇)ニ二〇〇、〇 鞣酸 四、〇 單舎 五〇、〇
右調和毎五分時一食匙

其他アトロピン(〇、〇〇一)ノ皮下注射、カンフル油ノ注射、人工呼吸法

○ストリキニーチ中毒

診候 牙關緊急、角弓反張、諸筋強直、反射機亢進、脈搏増進、呼吸困難窒息

療法 鞣酸 三、〇 餹水 一四〇、〇 アルテア舎 六〇、〇
右調和毎五分一食匙
抱水クロラール 四、〇 餹水 一〇〇、〇
右調和一食匙
其他モルヒネ或ハクロ、フォルム吸入

○「ニコチン」中毒 烟草中毒

診候 急性ニハ脈細徐、失神、悪心嘔吐、下痢、眩暈、強直、呼吸絶止
療法 微温湯ヲ投ジ咽頭ヲ搔攪シテ嘔吐ヲ促シ(吐劑ハ虚脱ヲ増進スルヲ以テ之レヲ禁ズ)或ハ胃唧筒ヲ用井或ハ興奮劑ヲ與ヘ又或ハ「モルヒネ」ノ皮下注射ヲ行フテ其効ヲ認ムルコトアリ

タンニン酸 二一〇 卵蛋白 一〇〇〇 餾水 一〇〇〇

右調和振盪毎二時一食匙

只嘔氣ノミ有ル者ニハ左方ヲ處ス

醋酸 五〇〇 餾水 二二〇〇 單舎 五〇〇

右調和先ヅ半量ヲ頓服セシメ而後五時一食匙

タンニン酸 四〇〇 餾水 二二〇〇 單舎 五〇〇

右調和五分時一食匙

其他強度ノ酒精飲料ヲ與フ

○アトロピンノ中毒

診候 瞳孔散大、口内及咽頭乾燥、視力障害、頭痛、不穩、譫語、昏睡
蛋白尿、血尿、膀胱炎、疼痛性陰莖勃起、呼吸障害、痙攣其他内服シ
タルトキニハ腸胃加答兒ノ症

療法 毒物尙ホ胃中ニ在ルトキハ「タンニン酸〇、〇一ヲ與フ既ニ腸内ニ
入りタルトキハ「モルヒチ〇、〇二或ハ「ヒゾシチグミン」ヲ用ユ

○「コカイン」中毒

診候 惡寒、口渴、瞳孔散大、惡心、不安、譫語等ヲ發シ虚脱
療法 亞硝酸アミールノ吸入、人工呼吸、樟腦油

○「チギタリス」中毒

診候 惡心、嘔吐、頭痛、煩悶、脈搏遲徐、チアノーゼ、眩暈、幻聲、
重聽、心臟麻痺ヲ發ス

療法 酒精飲料、濃厚ナル茶、カンフル、エーテル

○雙蘭菊中毒

診候 流涎、嘔氣、腹鳴、嘔吐、下痢、皮膚蟻走感覺、瞳孔散大、呼吸
促進、脈搏遲徐不正、麻痺、呼吸麻痺若クハ心臟麻痺ニヨリテ斃ル意
識ハ變セズ

療法 酒精飲料、茶、精製樟腦、人工呼吸法

タンニン酸 四〇〇 餾水 二二〇〇 單舎 五〇〇

右調和毎五分時一食匙

○麥角中毒

診候 急性中毒ニアリテハ嘔吐、腹痛失神、下痢、流涎、胸脘四肢ニ於

ケル刺痛蟻走感覺眩暈、瞳孔散大、知覺脫失、癲癇狀發作、脈一分時
二十乃至十五搏體温下降謔語

療法 腸詰中毒ノ治法ト同一ナリ

○サントニン中毒

診候 瞳孔多クハ散大若シクハ縮少ス臭味ノ錯覺、黃色視、頭痛、惡心
嘔吐ヲ發シ最モ重症ナルモノニ於テハ痙攣發作ヲ來ス呼吸困難窒息ニ
ヨリ死ス

○抱水クロラル中毒

診候 呼吸遲徐、脈搏弱少、體温下降シ心臟麻痺ニヨリテ斃ル

療法 人工呼吸、ストリキニーチ皮下注射、エーテル、樟腦油

硫酸アトロピン ○、○○一 餡水 三五、〇

右調和三十分間ニ於テ一回ニ服用ス可シ

○コニーチ中毒

診候 流涎惡心、嘔吐、視聽障害、蟻走、チアノーゼ、痙攣ヲ發シ呼吸
麻痺ニヨリテ死ス

療法 硝酸ストリキニーチ ○、〇一 餡水 一〇〇、〇 阿片丁幾

三十滴

右調和三分トナシ先ヅ每十五分時ニ茶匙ヲ用ユ其三分一ヲ盡スニ至リ
更ニ其一部ヲ每三十分時ニ茶匙ヲ用井殘一分ハ毎時ニ茶匙ヲ用ユ可シ
カフェイン、人工呼吸

○エーテル麻酔

診候 全身知覺脫失ヲ發ス

療法 アンモニア 十五滴 餡水 二〇、〇

右調和一回ニ啜飲セシム

アンモニア 三〇、〇

右嗅入料

其他冷水灌漑ヲ行ヒ且ツ新鮮ノ空氣ヲ吸入セシムルコト等ニ注意ス可
シ

○クレオソート中毒

診候 頭痛、眩暈、呼吸困難、失神、心臟作用減弱、麻痺及腸胃症等

療法 アラビアゴム末 一〇、〇 甘扁桃油 二〇、〇

右乳劑ニ作り餹水二八〇、〇ヲ加へ其四分一頓服而後每十分時半茶匙

○石油或ハ揮發性油中毒

診候 胃部壓迫、嘔吐、下痢、眩暈、顔面蒼白「心作用遲徐寒冷ノ感及嗜眠

療法 油合劑 一〇〇〇、〇(連用)

○アニリン製劑中毒

診候 急性中毒ニ於テハ嘔吐、眩暈、步行蹣跚、卒倒、失神、昏睡狀態ヲ呈シ脈搏、呼吸増加、體温下降、「チアノーゼ」ヲ呈シ徐々瞳孔縮少及痙攣ヲ發ス

療法 燬製マグネシウム水 二〇〇、〇
右每半時一食匙

○石炭酸中毒

診候 頭痛、眩暈、脱力、體温下降、冷汗、失神ヲ發シ呼吸麻痺或ハ心臟麻痺ニヨリテ死ス尿色ハ帶綠色乃至黑褐色ヲ呈ス

療法 吐劑及ビマグネシウム劑ヲ與へ而後左方ヲ施ス可シ

油合劑 二〇〇、〇 (每十五分時一食匙)

パウマン氏ハ硫酸アルカリ鹽ヲ内服セシム過テ石炭酸ヲ吞ミ石炭酸胃中ニ存在スルトキハ砂糖石灰ヲ賞用ス(フリーゼマン氏)

○尿酸及尿酸鹽中毒

診候 口腔及ビ咽喉内灼熱、嘔吐、胃痛及ビ疝痛並ニ薦腰部及腎臟部ニ疼痛ヲ發シ尿閉蛋白尿等ヲ發シ失神體温下降脈搏増加、不正、瞳孔散大手足厥冷虚脱

療法 炭酸石灰末 五〇、〇 餹水 一〇〇、〇

右半量ヲ頓服後每十分時一食匙半時間ヲ經テ更ニ

維也納瀉下水 五〇、〇 結晶硫酸ナトリウム 一〇、〇(頓服)

○カンタリス中毒

診候 口腔及咽喉内灼熱煩渴、嚥下困難、胃痛及ビ腹痛ヲ發シ次デ腎臟部ニ疼痛ヲ覺エ舌及ビ口腔粘膜ニ水泡ヲ形成シ流涎惡心嘔吐(時トシテ吐血)、血便裏急後重、尿道及膀胱部疼痛、尿意頻數、頭痛、眩暈顔

面潮紅、腫起瞳孔散大脈搏及呼吸遲徐淫亂症ヲ發スルヲアリ其他痙攣
妊婦ニアリテハ流産ヲ發ス

療法 樟腦 三、〇 アラビアゴム漿 適宜

右ゴム合劑ヲ加ヘテ全量三〇〇、〇ニ作り更ニ阿片丁幾十滴ヲ加ヘ
毎五分乃至十五分時一食匙

○腸結中毒及腐敗肉中毒

診候 嘔吐、下痢、嚔下困難、卒倒、譫語痙攣、虛脫

療法 エーテル 二、〇 餛飩水 一五〇、〇 阿片丁 十滴

單舎 二〇、〇

右調和毎半時一食匙

蓖麻子油

○河豚中毒

診候 重症ニ在テハ俄然運動及知覺ノ麻痺ヲ發シ脈搏微弱、歇代、呼吸
緩徐一二時間ニシテ死ス輕症ニ在テハ嘔吐、頭痛、眩暈、倦怠、知覺
麻痺、舌運動及嚔下困難、チアノーゼ、四肢厥冷、瞳孔散大不動等ニ

發シ一乃至數日ニシテ治シ或ハ死ス

療法 吐劑、人工呼吸、ストリキニーチ或ハ樟腦油皮下注射

○菌類中毒

診候 嘔吐、腹痛、昏睡、口渴、發汗、倦怠、瞳孔始ハ縮小後散大、不
安、次テ躁狂ノ如ク而シテ幻覺ヲ發シ麻痺ヲ來タシ昏睡トナリテ死ス
ルコトアリ

療法 アトロピンノ皮下注射(〇、〇〇一)、樟腦油、人工呼吸

○檳實中毒

診候 嘔吐、噴泡、痙攣、瞳孔始メハ縮小後散大、チアノーゼ、手足厥
冷、脈搏微弱

療法 吐劑ヲ與ヘ興奮劑ヲ用ユ

○ドクウツギ中毒

診候 不安嘔吐、眩暈、痙攣、チアノーゼ、冷汗、嗜眠、脈搏微弱、
呼吸緩徐

療法 吐劑、麻醉劑及興奮劑

○苛性アルカリ中毒

療法 腐蝕ニ因ル口腔、食道、胃ノ灼熱疼痛、脈搏不正、手足厥冷、嘔吐、下痢虚脱

療法 酒石酸 一〇、〇 餽水 一〇〇〇、〇

右用量一酒盃ヲ頓服後毎五分時其量五食匙ニ一茶匙ノ扁桃油ヲ和シテ連用ス(此用量ハ五%液一〇〇、〇ニ向テ解毒ノ効十分ナリ)

又醋或ハ蜜柑橙類ノ新鮮ナル絞汁ヲ與ヘ疼痛ニハ麻醉劑ヲ用ユ

○アンモニア瓦斯中毒

診候 濃厚ナル瓦斯ヲ吸入シタル時ハ窒息ノ感、胸部(絞窄、苦悶、眩暈咳嗽、氣道、及胃内灼熱、粘液ノ嘔吐、咯痰、流涎、アンモニア臭ヲ有スル發汗、脈搏細小及頻數、泌尿閉止)稀釋瓦斯ヲ吸入シタル時ハ眼球鼻粘膜ノ刺戟症狀、頭痛、胸廓絞窄ノ感氣管支加答兒ヲ發ス○急性中毒ニ於テハ五乃至十分間ニ窒息ニ陥リ死シ或ハ三乃至七日ニ衰弱ニヨリテ斃ル

療法 醋酸 一〇、〇

右嗅入料

醋 五〇、〇 餽水 一二〇〇、〇

右調和温メテ吸入セシメ併セテ冷水洗滌ヲ行フ可シ

○アンモニウム製劑及吐酒石中毒

診候 口渴嘔吐、胃腸灼熱、冷汗、搖擲

療法 タンニン酸 三、〇 餽水 一四〇、〇 アルテア舎 六〇、〇

右調和毎五分時一食匙

○砒製劑中毒

診候 急性砒石中毒ニ二様アリ(甲)頸部絞窄、乾燥、口渴、下腹劇痛嘔吐、虎列刺様下痢腓腸痙攣脈搏頻少不正皮膚蒼白厥冷呼吸促迫失神或ハ痙攣ヲ發シテ死ス(乙)症ニアリテハ頭痛、眩暈、俄然虚脱ニ陥リ痙攣ヲ發シテ死ス

療法 砒石解毒藥、煨製マグネシウム等ヲ用ユ此解毒法ヲ用ユル迄ノ間ニ蛋白或ハ牛乳ヲ飲マシム可シ

煨製マグネシウム水 一二〇〇、〇

右三分一ヲ頓服シ而後毎時一食匙ヲ與フ

過硫酸鐵液

一〇〇、〇ヲ

餾水

二五〇、〇ニ混シタルモノト

煨製マグネシア

一五、〇ヲ

餾水

二五〇、〇ニ加ヘタルモノトヲ、要ニ臨ミテ混ズ可シ

(砒石解毒劑)

右毎十分後ニハ十五分次テ三十分毎ニ二乃至四食匙温湯ニ混ジ用ユ可シ

○重土中毒

診候 全身衰弱、不快、悪心、頸部絞窄ノ感、嘔吐、悪心、胃部痛、疝痛、下痢、脈微弱不正、手足厥冷、及痙攣、麻痺、兩便失禁、視聽障害、呼吸困難ヲ發シ心臟麻痺

療法 鉛鹽類中毒ノ治則ニ同シ

○鉛鹽類中毒

診候、急性症ニ於テハ鐵性ノ味感、口腔乾燥、咽頭灼熱、絞窄、食道及胃灼熱、大渴流涎、舌苔、呼氣惡臭、皮膚乾燥、劇甚ナル嘔吐、頭痛

泌尿減少、稀ニハ増加ス脈搏遲徐(一分時間四十搏)

療法

瀉下水 五〇、〇 硫酸マグネシウム 三〇、〇 熱湯 三〇〇、〇

右調和十分時以内ニ二回ニ分服セシム

○クロール瓦斯中毒

診候

咳嗽、呼吸器粘膜炎ノ加答兒、胸部刺痛等

療法

杏仁水 一〇、〇 エーテル アルコホル(九十(ア)ロセ) 各三〇、〇

右調和嗅入兼吸入料

甘硝石精 二〇、〇 アルテア舎 餾水 各四〇、〇

右調和毎五分時乃至十分時一食匙

○クローム酸及クローム酸鹽中毒

診候 輕症ニ於テハ胃部疼痛口腔乾燥惡心嘔吐下痢倦怠輕度ノ呼吸困難重症ニ於テハ劇甚ナル吐瀉、迅速ナル虚脱ヲ發シ乃至十二時間ニシテ斃ル

療法 重曹水ニテ胃ヲ洗滌シ次テ炭酸マグネシア重曹水或ハ左ノ鐵劑ヲ與フ

鐵粉 五、〇 單舍 一〇〇、〇
右調和能ク振盪シ毎分時一茶匙ヲ與ヘ然ル後二一食匙ノ水ヲ取ラシムベシ

○藏化カリウム及青酸中毒

診候 失神、痙攣、心臟及ビ呼吸麻痺ヲ呈シテ死ス

療法 硫酸銅 二、〇 餾水 一八、〇

右一食匙ヲ與ヘ五分時ヲ經テ後其殘餘ヲ與ヘ同時ニ冷水灌注法

○ヨード中毒

診候 急性症ハ口腔及咽喉内灼熱、嘔吐、胃痛、脈搏少、耳鳴、血便虚脱ヲ發シテ死ス

療法 澱粉 五、〇 熱湯 一〇〇、〇 煨製マグネシウム 一〇〇、〇

右調和毎五分時一食匙

○酸化炭素中毒

診候 頭痛、眩暈、耳鳴、眼華閃發、呼吸促迫、瞳孔散大、痙攣、昏睡等

療法 アンモニア水 四〇、〇

右吸入料兼テ同時ニ冷水灌漑法ヲ行フベシ
麥角越 〇、二 餾水 五〇、〇(毎十五分時一茶匙)

○銅鹽類中毒

診候 急性中毒ニ於テハ口内銅味ヲ覺ヘ帶綠色若クハ青色ノ物ヲ吐シ胃痛、痙攣、下痢、裏急後重、手足厥冷脈搏少、知覺脱失、麻痺、譫語等ヲ發ス

療法 鐵粉 一四、〇 精製硫黃華 八、〇 單舍 六〇、〇

右調和臨用振盪シテ毎五分時一茶匙ヲ左方ト交換シテ互ニ用ユ可シ
蒜製マグネシウム水 二〇〇、〇 卵蛋白 四個 餾水 二〇〇、〇 單舍 八〇、〇

右調和五分時半茶匙ヲ用ユ

○鑛酸類中毒(硫酸、硝酸、鹽酸)

診候 口腔、咽頭食道、胃粘膜炎ノ變色及劇痛嘔吐、虚脱、脈搏細少呼吸不正煩悶等

療法 煨製マグネシウム水 二〇〇、〇

右半量ヲ先ツ頓服セシメ而後毎五分時一食匙ト二一食匙ヲ交互増減シ

テ用ユ疼痛ニハ麻醉劑ヲ與フ

○磷中毒

診候 急性中毒ニ於テハ頭痛、嘔吐(吐物ハ蒜様臭氣ヲ帶ビ暗處ニ光ヲ放

ツ)腸胃炎、黃疸、肝臓痛、肝臓肥大ヲ發シ死亡ス

療法 古テレピンテ油 三〇、〇 (愈々古ケレハ) 卵黃 二個

薄荷水 二五〇、〇 單舎 五〇、〇 (愈々佳効アリ)

右強ク振盪シ毎半時一食匙全量四分ノ一服用後一時一食匙

疑ハシキ場合ニハ左方ヲ處ス可シ

煨製マグチシウム 一二〇、〇 クロール水 一二〇、〇(用法同前)

○水銀鹽中毒

診候 急性中毒ノ内服ニヨルトキハ口腔、咽頭、胃粘膜ノ腐蝕、銅ノ如キ

味感ヲ覺エ、咽頭絞窄ノ感、嚥下困難、灼熱次ニ嘔吐、胃痛、下痢ヲ發シ

脈搏頻數、不整、顔面蒼白ヲ呈シ虚脱ニ陥リテ斃ル○急性中毒ノ外用

ヨリスルモノハ水銀性赤痢ト名ケ血便ヲ下痢シ著明ナル裏急後重ヲ發

ス屢々汞氣性齒齦炎泌尿減絶少或ハ絶止ヲ發ス

療法 生卵白、牛乳及麻醉劑ヲ與フ、口内炎ニハ鹽剝水ノ含嗽

○銀製劑中毒

診候 急性症ニアリテハ嘔吐、下痢、胃痛及腹痛、痙攣ヲ發シ○慢性症ニ

アリテハ皮膚灰白黒色、全身倦怠、健忘、耳鳴、眼筋痙攣、口内炎、蛋白尿

ヲ發ス

療法 食鹽 二〇、〇 餹水 三〇〇、〇

右半量ヲ頓用セシメ而後毎半時一食匙且ツ其間左方ヲ用ユ

油合劑 ゴム合劑 各一五〇、〇(毎半時一食匙)

○亞鉛類中毒

診候 咽頭絞窄及灼熱ノ感ヲ發シ胃痛、嘔吐(屢々吐血)、下痢(時トシテ

血便)ヲ發シ脈搏細少手足厥冷、昏睡及虚脱ヲ發シ數時間或ハ數日内

ニ死ス

療法 タンニン酸 四、〇 餹水 一四〇、〇 アルテア舎 六〇、〇

(毎五分時一食匙)

○第二章 失神及假死救急ノ法、人工呼吸法

腦貧血ニ由テ失神ヲ發シタルトキハ患者ヲ水平ニ臥セシメ且ツ頸部ヲ稍ヤ低クスベシ而シテ葡萄酒等ノ酒精飲料ヲ與フ又々顔面ニ冷水ヲ撒布シ或ハ芳香性ノ藥品ヲ前頭部ニ塗布シ「アンモニア」ヲ嗅入セシメ或ハ器械的ニ鼻粘膜ヲ刺戟スベシ

凡テ其原因ノ何タル者ニ論ナク假死者ハ先ヅ之ヲ光線ノ十分ニシテ通氣ノ自由ナル場所ニ致シ傍人ノ雜還ヲ避ケ而シテ其原因ニ從ヒ左ニ畧序スルカ如キ方法ニ憑リ相次テ人工呼吸術ヲ施サバル可カラズ

第一 中毒ナルトキハ其療法(附録第一章中毒ノ部參照)

第二 腦震盪或ハ電擊ナルトキハ先ツ其衣服ヲ解放シ頭部氷卷法芥子泥熱布片ニテ皮膚ヲ刺戟シ峻下劑ヲ投ズ

第三 大出血ノトキハ頭部ヲ低ク仰臥セシメ樟腦油或ハ「エーテル」ノ皮下注射ヲ行ヒ又赤葡萄酒武蘭垚酒熱茶等ノ興奮劑ヲ投ジ而シテ身體輸血法食鹽溶液ノ注入法ヲ行フベシ

第四 溺者ハ口内ノ異物ヲ除キ腹ヲ下ニシテ臥サシメ腹部ノ下ニ枕(衣類ニテ代用ス)ヲ置キ二三回約三秒時背部ヨリ下方ノ肋骨ヲ壓迫シ水ヲ吐カシ次ニ背部ヲ下ニシ人工呼吸術ヲ行フ又乾燥セル熱布片ヲ用井

テ全身ヲ温包スルヲ可トス

第五 縊者ニハ先ツ其絞縊ヲ解キ皮膚刺戟及人工呼吸

第六 咽喉内異物咀塞ニハ先ツ其異物ヲ除去ス可キコト勿論ニシテ或ハ「カテーテル」ヲ用井テ其吸出ヲ試シ或ハ咽頭鉗子咽頭消息子等ヲ用井

テ其摘出ヲ試ム可シ凡テ機械ヲ應用スル場合ニハ少シク頭部ヲ下方ニ傾ケ且ツ側位ヲ取ラシム可ク百方其効無ク時間久シキニ瀰ルノ恐レ有ルトキハ速ニ氣管切開術ヲナサバル可カラズ

第七 精神感動ナルトキハ先ツ之ヲ仰臥セシメ酒精飲料ヲ與フ

第八 凍者ニハ第一其四肢ヲ折傷セザル様ニ注意シ且ツ決シテ最初ヨリ温暖ナル場所ニ致スコトナク先ヅ雪或ハ氷ヲ用井テ全身ヲ摩擦シ體温ノ漸ク挽回スルヲ得テ始テ温暖ナル室内ニ入レ爰ニ於テ或ハ熱布ノ皮膚摩擦温灌腸等ヲ試シ且ツ人工呼吸術ヲ專ラニシ少シク呼吸挽回シテ人事ヲ辨スルニ至テハ温酒ヲ投シ且ツ身體ノ温包或ハ温浴ヲナサシム
第九 日射病等凡テ非常ノ熱度ヨリ來レル者ニハ頭部ニ冷水ヲ灌キ冷卷法ヲ行ヒ冷水灌腸ヲ試シ皮膚ノ刺戟ヲ施シ興奮劑ヲ投ズ

○人工呼吸法

第一 第六十一圖第六十二圖ニ示ス如ク假死者ノ衣ヲ脱カセ之ヲ疊ミテ枕トナシ或ハ枕ヲ腰部ノ下ニ置キ仰臥セシメテ術者ハ其上ニ跨リ兩手ヲ開キ之レヲ兩乳房下ニ當テ徐々ニ十分ナル力ヲ加ヘテ胸ヲ壓迫シ次ニ手ヲ放チ又タ胸ヲ壓シ又タ手ヲ放ツ一分間ニ十五回反覆スルコト一時間

第二 マルシヤル、ハル氏呼吸法 第六十三圖及第六十四圖ニ示スカ如ク患者ヲ伏臥セシメテ前額ヲ手支シ術者ノ手掌ヲ用井テ胸側及背部ヲ平等ニ壓迫スル大約二秒時以テ呼吸ヲ營マシメ更ニ患者ヲ一側ニ回轉シ二秒時ノ呼吸ヲ營マシムル後又直ニ舊位ニ復サシメ更ニ前法ヲ反覆スルナリ（上肢ニ大損傷アルトキハ用ユベカラズ）

但シ此法ハ一分時間大約十五回反覆半時乃至一時間持續ス可シ同時ニ四肢ノ皮膚ヲ刺戟スレバ尙ホ其効ヲ補フ可キナリ

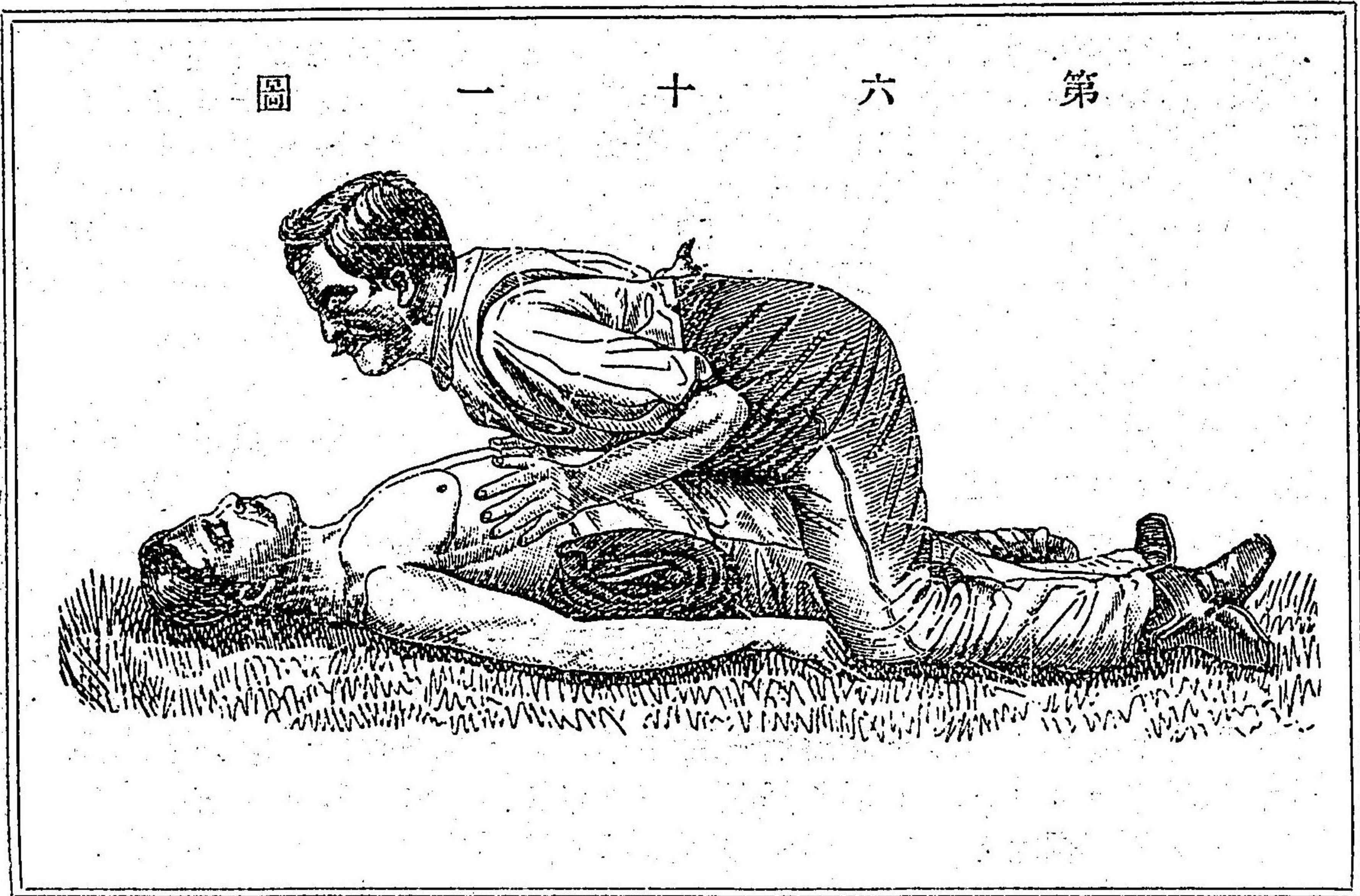
第三 ジルウエステル氏呼吸法 第六十五圖及第六十六圖ニ示スガ如ク患者ヲ臥セシメ胸部ヲ高クシ頭部ハ胸部ニ比較シテ聊カ低位ニ置キ術者其者頭邊ニ坐ヲ占メ患者ノ兩膊ヲ肘部ニ握リテ之ヲ頭部ノ兩側ニ

伸展舉上スルコト二秒時以テ吸氣ヲ營マシムルノ後其膊ヲ降下シテ胸側ヲ壓迫スルコト更ニ二秒時ヲ以テ呼吸ヲ營マシムルコト反覆一分時間是亦大約十五回ナリトス持續時間モ亦前者ト同一ナルベシ上肢ニ大損傷アルトキハ用ユベカラズ

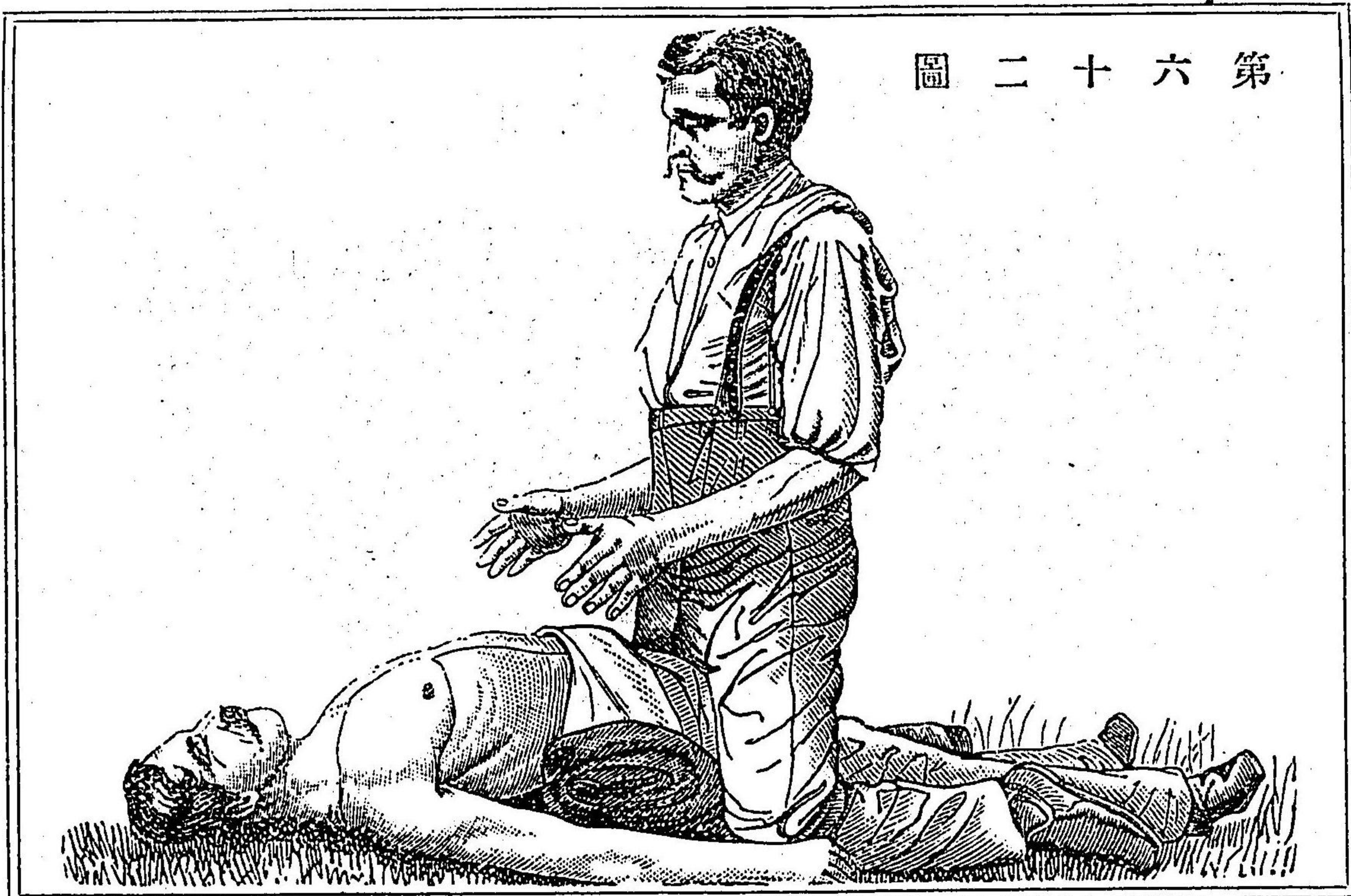
第四 マツキス、シユルレル氏呼吸法患者ヲ水平位ニ仰臥セシメテ頭部ヲ少シク高位ニ置キ術者ハ患者ノ腹部ニ起立シ兩手ヲ用井テ患者ノ肋骨弓部ヲ左右ヨリ把握シ力ヲ極メテ此部ヲ高舉スルコト大約二秒時ヲ以テ呼吸ヲ營マシメ是ニ於テ舊位ニ降シ腹壁ヲ壓迫スルコト大約二秒時以テ吸氣ヲ營マシメ斯ノ如ク整然反覆スルコト一分時間大約十五回ヲ度トシ半乃至一時間持續スルヲ通例ナリトス但シ此際腹壁ヲ弛緩スルガ爲メ膝兩關節部共ニ屈曲位ヲ取ラシムルコト必要ナリ

第五 フラスハル氏呼吸法 此法ハ患者ヲ仰臥セシメ丈五尺許ニシテ幅四五寸ニ疊ミタル布片ヲ取り第一條ヲ用井テハ胸廓ヲ右ヨリ左ニ繞リテ他ノ一條ヲ用井テ胸廓ヲ左ヨリ右ニ匝ラシ左右共ニ乳房ノ部位ニ繞匝シテ交互對側ニ引キタル其兩端ヲ絞リ是ニ於テ二人ノ術者患者ノ兩側ニ坐ヲ占メ各之ヲ其兩手ニ握リテ兩側一齊ニ牽引スルヲ大約二秒時胸廓ヲ壓搾ノ以テ呼吸ヲ營マシムルノ後布片ヲ弛ムルヲ又大約二秒時

第十六圖



第十六圖



第 六 十 三 圖



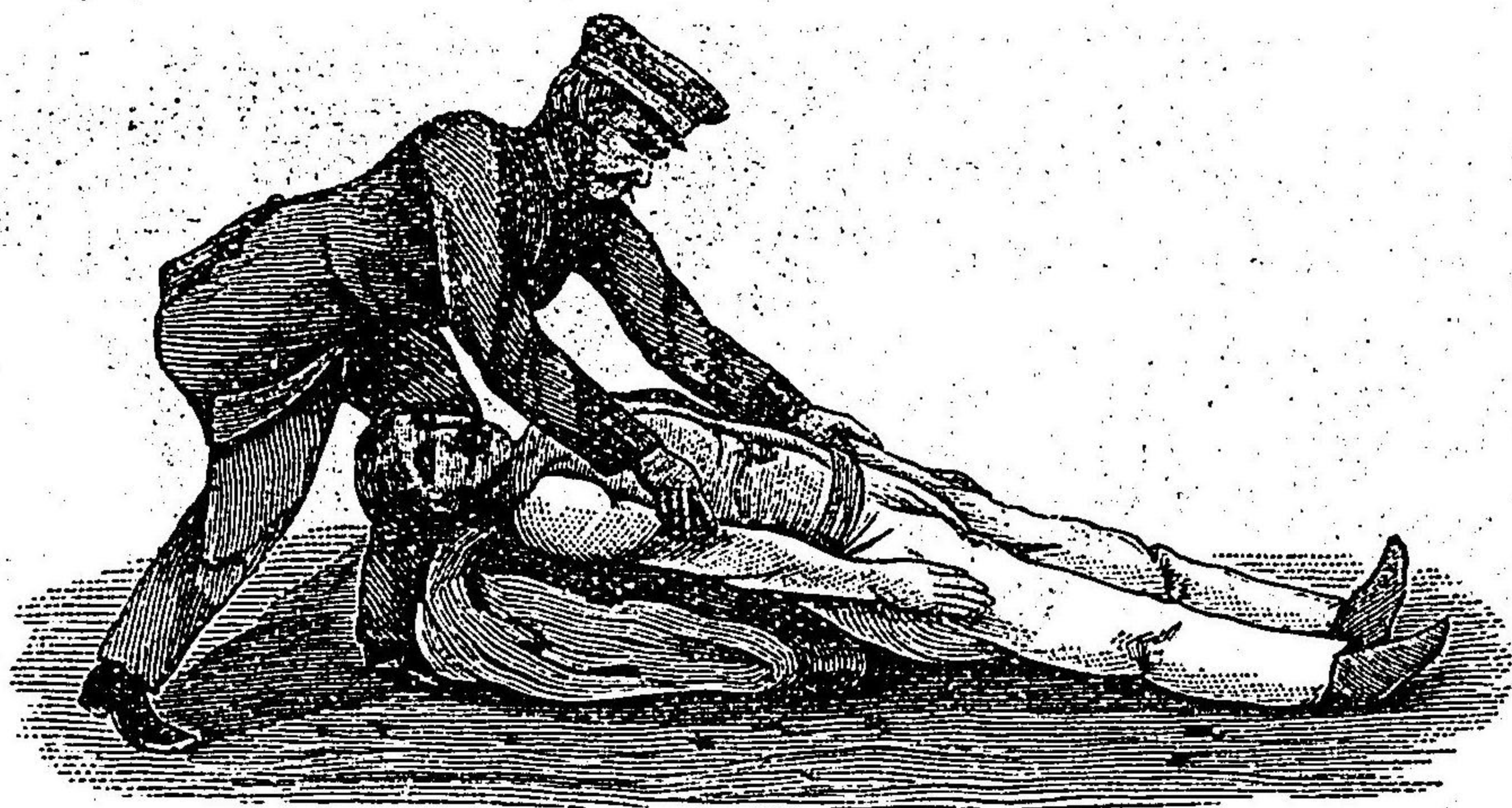
マシルヤルハル氏工人呼吸法

第 六 十 四 圖



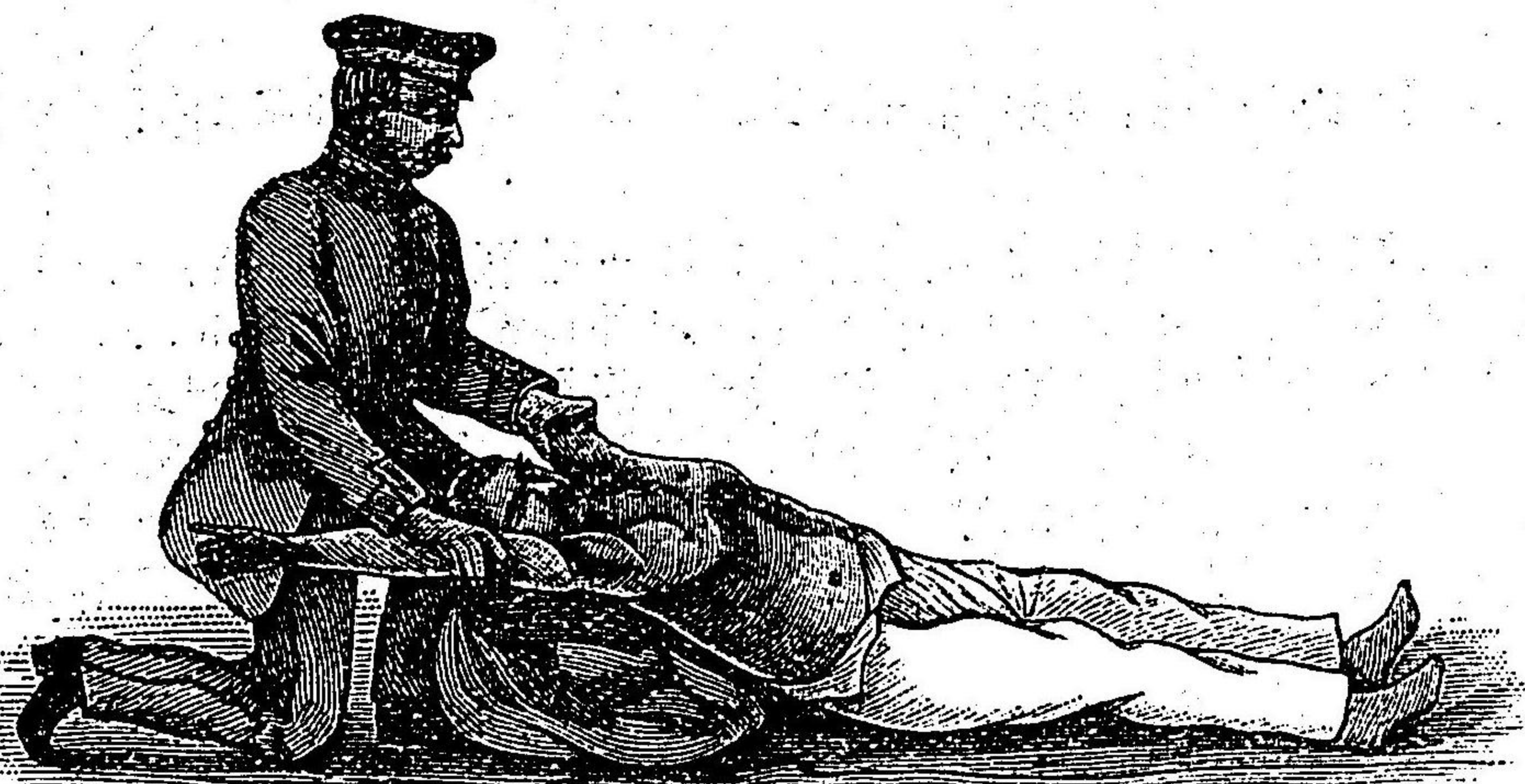
マシルヤルハル氏工人呼吸法

第 六 十 五 圖



ジ ヴ エ ス テ ル 氏 人 工 呼 吸 法

第 六 十 六 圖



ジ ヴ エ ス テ ル 氏 人 工 呼 吸 法

胸廓ヲ舊位ニ復ノ以テ吸氣ヲ營マシメ斯ノ如ク整然反覆スル一是亦一分時間大約十五回ニノ半乃至一時間持續スルヲ通例ナリトス
當時若シ二人ノ術者ヲ缺ク時ハ一布片ノ一端ヲ他ノ固定體ニ縛シ他ノ一端ヲ握リテ前ノ如ク緩急整然呼吸ヲ營マシム可シ
凡テ人工呼吸術ヲ施スノ際ニハ絶エズ患者ノ舌ヲ口外ニ牽引スルコト最モ必要ノ件ナリ

第六 刺戟呼吸法 鳥羽或ハ藁莖等ヲ用井鼻口ノ粘膜面ヲ搔攪シ反射機能ヲ起サシメテ呼吸ノ挽回ヲ促シ併セテ患者ノ頭部及ヒ胸部ニ強劇ノ水線ヲ反覆灌注シ毎回直ニ布片ヲ用井テ之ヲ乾燥ス

第七 空氣吹入胸側壓搾呼吸法 先ツ患者ノ鼻ヲ鎖シ術者ノ口ヲ用井テ患者ノ口内ニ直接ニ空氣ヲ吹入シ或ハ「カテーテル」ヲ用井テ間接ニ空氣ヲ吹入シ直ニ胸側ヲ壓迫シテ再ビ空氣ヲ搾出セシメテ以テ呼吸ヲ營マシム

○注意 心臟麻痺ヲ兼テタルモノニハ人工呼吸ヲ施スノ際心臟部ヲ強ク壓迫スベシ

○第三章 輸血法及食鹽注入法

大出血患者(止血法ヲ施シタル後ニ於テ)衰弱甚タシキ時ハ頭部ヲ低クシ顔面ニ冷水ヲ注キ「カンフル油若クハ「エーテル」ヲ皮下ニ注射シ温布ヲ

以テ身體ヲ暖メ温酒ヲ與ヘ若クハ灌腸シ下肢ヲ壓抵縛シ(身體輸血法) ○、六乃至○、七%ノ殺菌セル食鹽液ヲ三十九度ニ暖メ皮下ニ注射スベシ(五百乃至千「グラム」)靜脈内ニ注入スルモ可ナリ

○第四章 諸關節脫臼整復法
○下顎脫臼整復法



第六十七圖

下顎脫臼整復法

左右ノ拇指ヲ口内ニ送入シ拇指ヲ後臼齒上ニ置キ他ノ指ヲ下顎骨地平枝下縁ニ並置シ而シテ後拇指ヲ以テ下顎骨ヲ後下方ニ壓シ同時ニ他ノ指ヲ以テ頤ヲ舉上シ冠狀突起ノ關節結節ヲ通過シタルヲ認ムレバ速カニ兩拇指ヲ取り去ル可シ

○肩胛關節前脱臼

新發ノ脱臼ハ麻醉劑ヲ要セズシテ左法ニテ整復ス

第六十八圖



復整臼脱胛肩

第一 モーテ氏整復法 上肢ヲ過度ニ外轉シ左手ヲ以テ之レヲ牽引シ右手指頭ヲ腋窩ニ送り骨頭ヲ壓シテ關節窩内ニ向ハシメ次デ上肢ヲ内轉ス

第二 ジモン氏法 患者ヲ疊ノ上ニ健康側ヲ下方トナシテ側臥セシメ助手ヲシテ兩足ヲ固持セシメ術者ハ伸展セル患肢ヲ握リ上方ニ牽引ス患者ノ身體疊ヲ離ル、ニ從ヒ介者モ亦其足脚ヲ漸次舉上シ身體吊垂スルニ在テ術者患者ノ身體ヲ振子ノ如ク動搖セシム

第三 コツヘル氏法 ヲ施スニハ左ノ順序ヲ用ユ
(甲) 外轉シアル肘頭ヲ徐々ニ強ク軀幹ニ壓迫ス肘頭軀幹ニ接着スレハ更ニ稍ヤ後方ニ送ル

(乙) 肘頭ニ於テ直角ニ上肢ヲ屈曲シ一手ヲ肘頭ニ置キ他手ヲ以テ腕關節ヲ握リ上膊ヲ外旋シ前膊全然側方ニ向フニ至ル其際上膊ヲ稍ヤ下方ニ牽引ス可シ此位置ニ於テ大約一分間ヲ經過ス

(丙) 次ニ肘頭ヲ握リ強カヲ以テ徐々ニ前方ニ舉上ス
(丁) 前方ニ十分舉上シタルトキハ徐々ニ上膊ノ外旋ヲ減シ手掌ヲ健側ノ胸廓面ニ送ル(是レ即チ上膊ヲ内轉スルナリ)

久時ヲ經過シタル症及ビ不適當ナル整復ヲ試ミタル新發症ニハ「クロ、
フオルム」麻醉ヲ用井テ後整復法ヲ行フ可シ整復後ハ擔布ヲ用井大約一
二週間安靜ヲ要ス

○肘關節脱臼

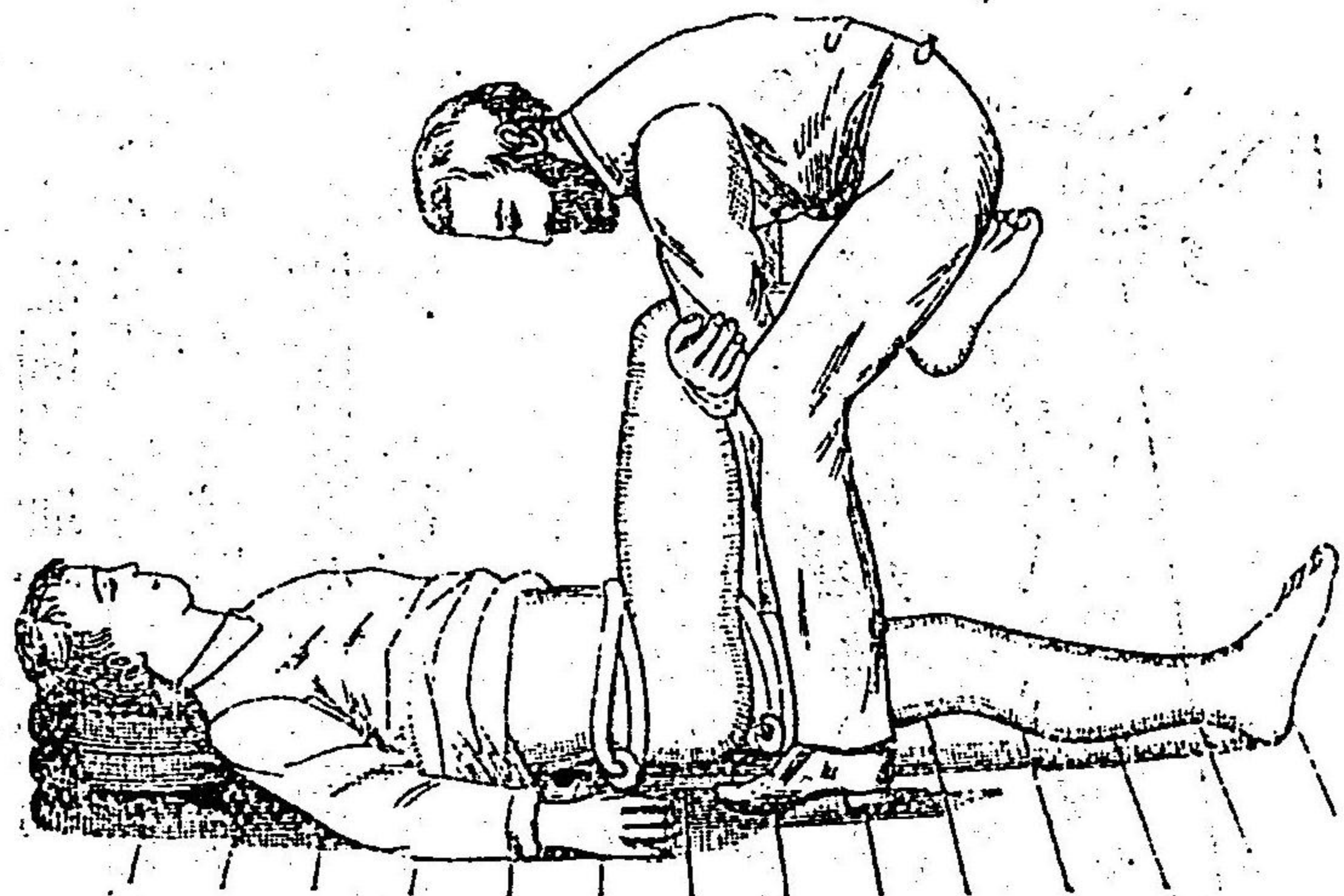
患者ヲ臺上ニ仰臥セシメ術者ハ膝上ニ患者ノ肘關節伸展面ヲ接シ一手ニ
上膊ヲ握リ一手ニ前膊ノ下端ヲ握リ過度ノ伸展ヲ營ミ前膊ト上膊トノ後
面ニ於テ百四十度ノ凹角ヲナスニ至リ始メテ迅速ニ前膊ヲ屈曲ス屈曲ト
同時ニ前方ニ牽引スルヲ要ス但屈曲ヲナスノ瞬間助手ヲシテ鶯嘴突起尖
端ヲ直接下方ニ向テ壓迫セシムレバ奏効一層確實ナリ

○股關節後脱臼

第一 コッヘル氏法、先ヅ患者ヲ仰臥セシメ助手ヲシテ腸骨前上棘ニ於
テ骨盤ヲ固定セシメ術者ハ膝關節ニ於テ屈曲セル患者ノ膝臑窩ニ一手
ヲ他手ヲ内外髌部ニ當テ、上膊ヲ握リ尙ホ強ク内旋ヲ行ヒ股關節ヲ直
角ニ曲ケテ上方ニ牽引シ後外旋シテ終ニ伸展ス

第二 ミッデルドルフ氏法、先ヅ強屈外轉外旋ヲ行フテ整復ス

第六十九圖



○股關節耻骨上脱臼

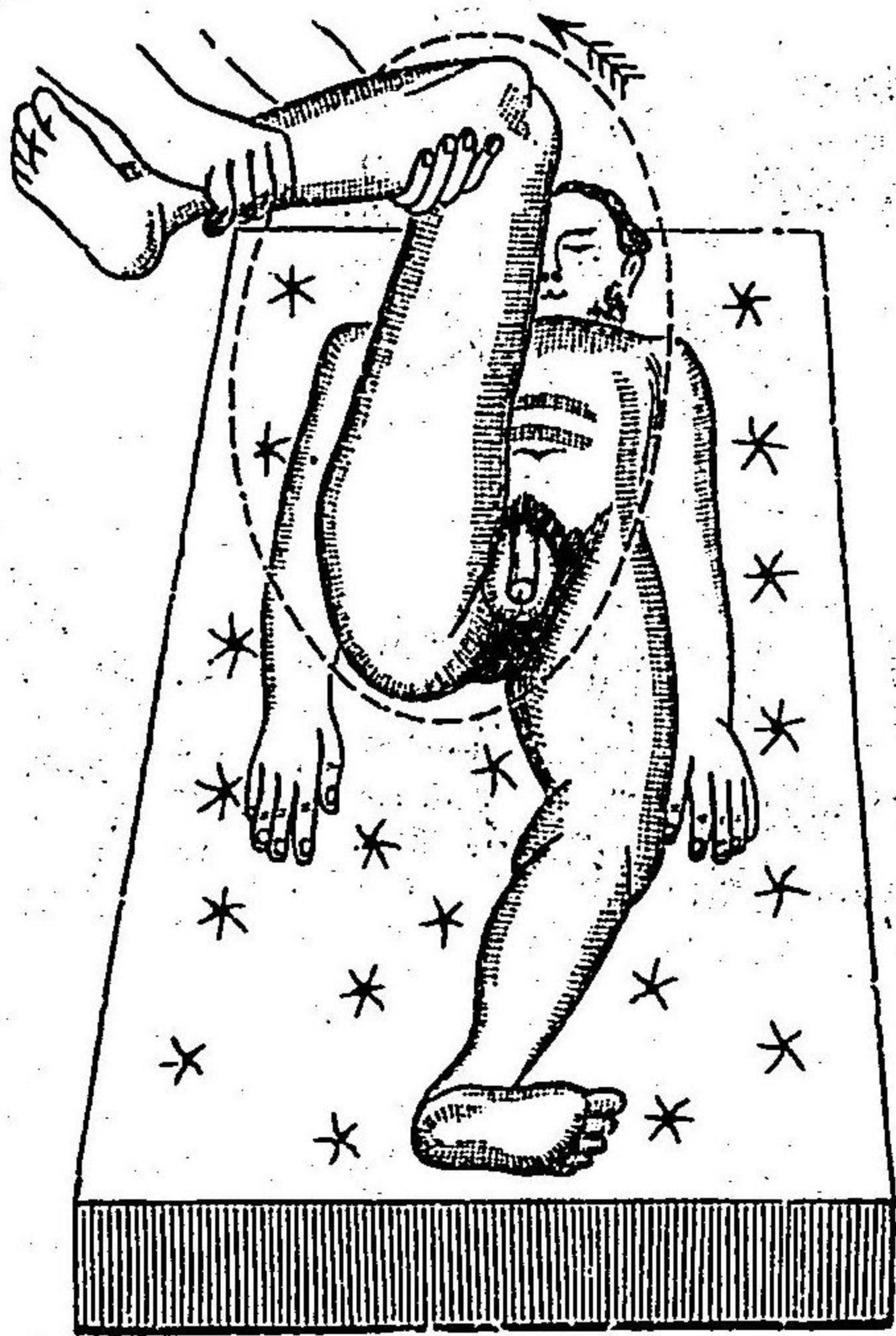
第一 コッヘル氏法、過度、伸展屈曲(同時ニ大腿骨頭ヲ壓スベシ)内旋

第二 ミッデルドルフ氏法、過度伸展、強屈曲内轉及ビ内旋

○股關節耻骨下脱臼

第一 コッヘル氏法、直角ニ屈曲シ此位置ニ於テ上方ニ牽引シ強ク外旋

第七圖



第二 ス ミッデルドルフ氏法、直角ニ屈曲シ内轉及ビ内旋

○股關節下脱臼

屈曲外轉ノ位置ニ於テ牽引シ終リニ臨ンデ外旋ス

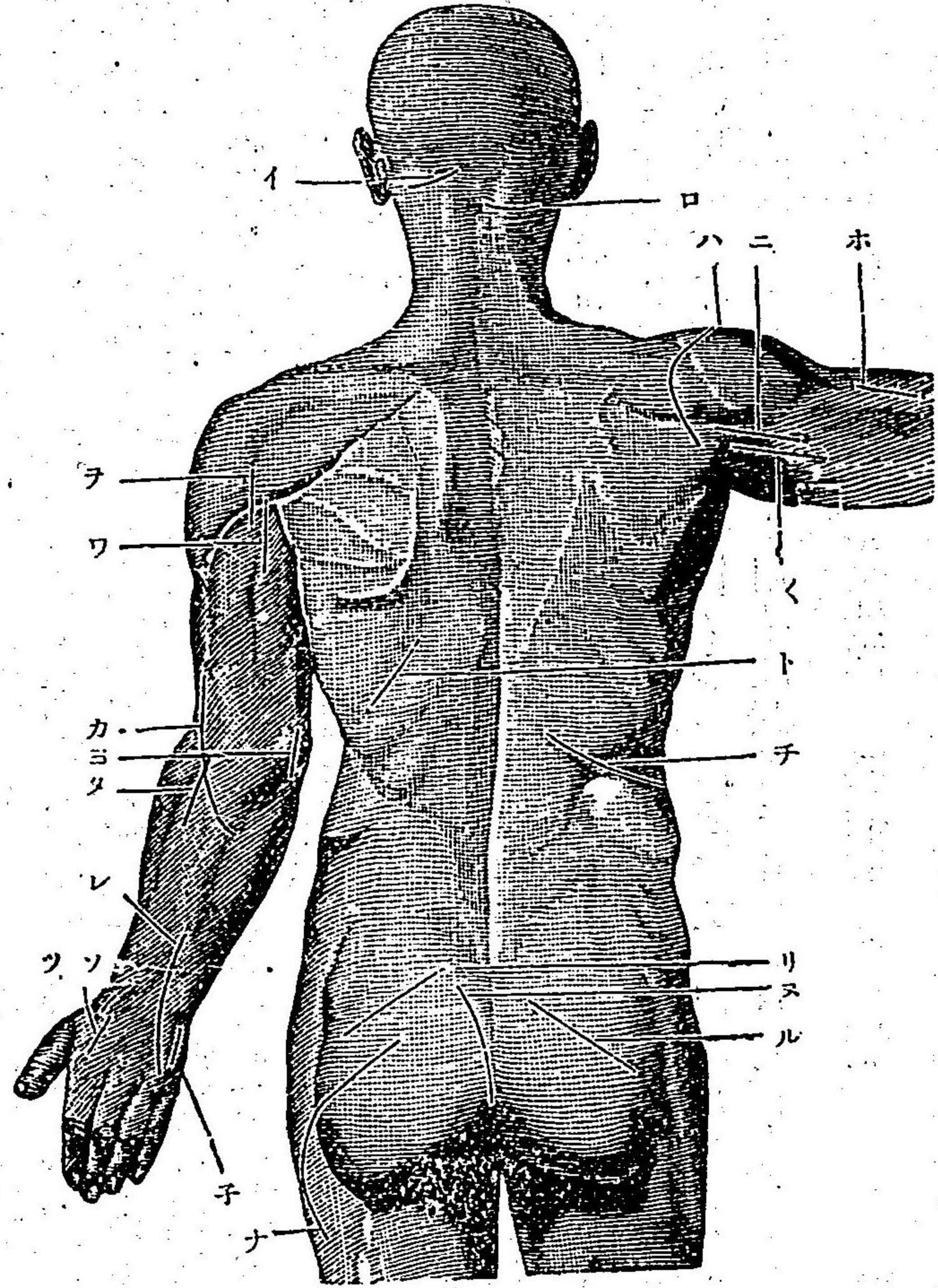
○股關節上脱臼

屈曲内轉下方牽引及ビ内旋

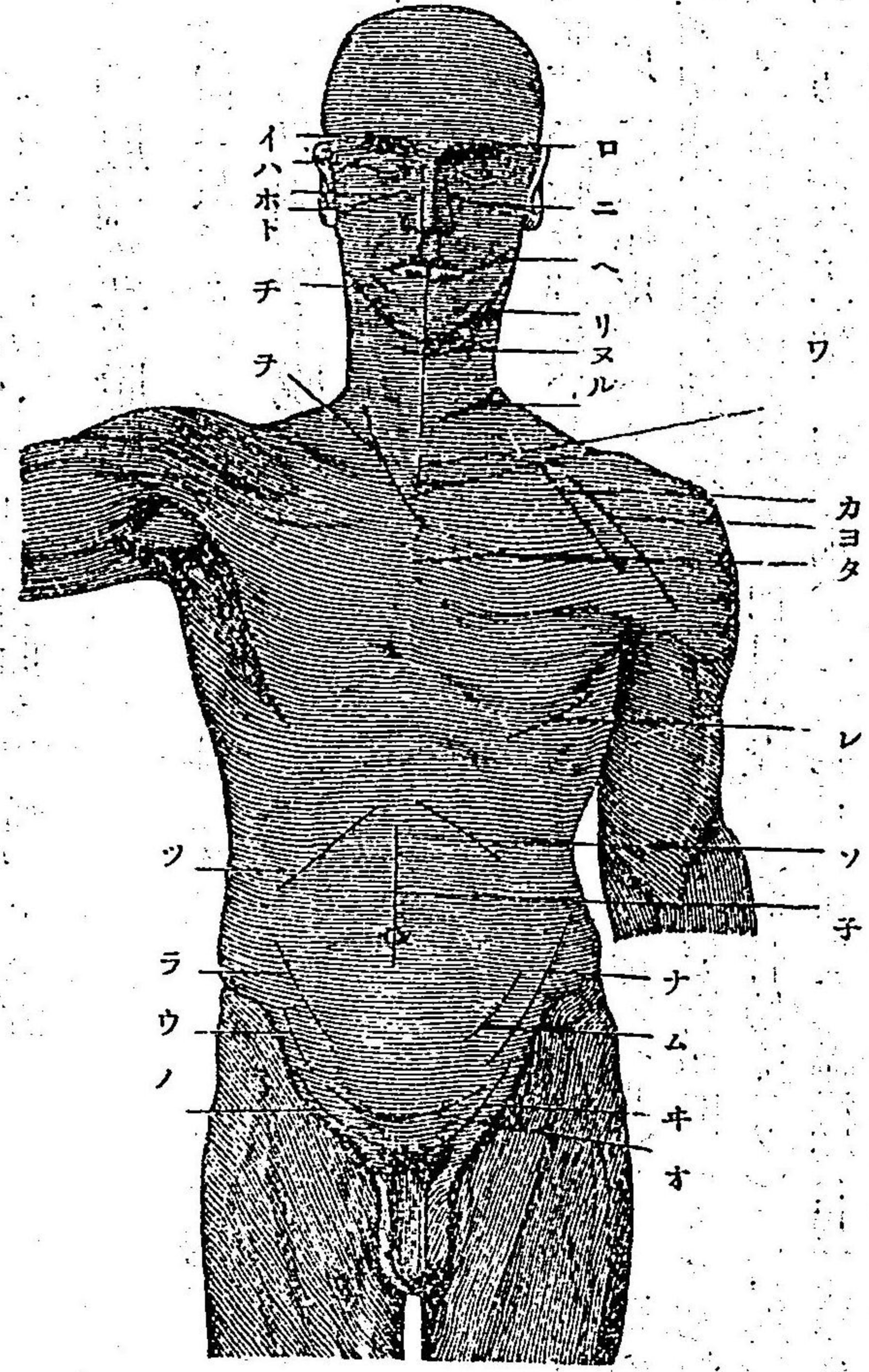
○第五章 諸手術皮切一覽

- (イ)上眼窩動脈及神經(ロ)前額竇(ハ)顴骨神經(ニ)上顎切除(ホ)下眼窩神經(ヘ)横頬皮切(ト)バラ正中鼻截(チ)頤神經(リ)下 切除
- (ヌ)喉頭切開(ル)總頸動脈(ヲ)無名動脈(ワ)下氣管切開(カ)鎖骨下動脈(ヨ)前上膊關節截除(タ)内乳動脈(レ)肋骨切除(ソ)造胃瘻術
- (ツ)膽囊切開術(子)幽門切除術(ナ)總腸骨動脈(ヲ)蟲樣突起切除術
- (ム)人工肛門形成術(ウ)腸骨膿瘍(井)脱腸治術(ノ)外腸骨動脈(オ)耻骨上膀胱切開術

第 七 十 七 圖



第 一 十 七 圖



附 録 諸 手 術 皮 切 一 覽

○ 第 七 十 一 圖 第 七 十 二 圖 ニ 就 テ 見 ル ベ シ

(イ)後頭動脈(ロ)大後頭神經(ハ)後上膊骨關節切除(ニ)後上膊廻旋動脈、廻旋神經(ホ)橈骨神經、深在上膊動脈(ヘ)橈骨神經(ト)第十肋間神經及動脈(チ)腎腧出術(リ)上臂動脈(ヌ)直腸切除術(ル)下臂動脈、坐骨神經(ヲ)後廻旋動脈(ワ)橈骨動脈、深在上膊動脈(カ)肘關節切除(ヨ)尺骨神經(タ)橈骨神經(深在枝)(レ)腕關節切除(ソ)及(ツ)橈骨動脈(子)尺骨神經(手背枝)(ナ)股關節切除

○第六章 血清療法

實扶的里ハレツフレル氏實扶的里亞菌ノ傳染ニ因リテ發スル疾病ナリ抑々該菌ノ有害ナルハ該菌ノ產出スル固有ノ毒物アリテ以テ身體ニ危害ヲ加フルニ職由ス近年該毒ハ實扶的里血清ニ由リテ無害ノモノト變ズルモノナルヲ發見シ幾多ノ試驗研究ヲ經テ血清療法ノ有効ナルコトヲ稱スルニ至リ其他破傷風、赤痢等諸種ノ傳染病ニ血清療法ヲ用ユルコトアリ其用法ハ血清ニ添附シアルトコロノ用法注意書ニ詳ナレバ之ヲ贅セズ

○第七章 貴要ナル症候ト其病原ノ一覽

(第一) 假死 ヲ發ススルモノハ○絞縊假死○沈溺假死○有害瓦斯ノ吸

入○初生兒假死

(第二) 人事不省 ヲ發スル諸病ハ次ノ如シ、○腦出血(卒中)○腦動脈ノエンボリー○腦震盪症○腦壓迫症○尿毒症○失氣○大醉○ヒステリ

ー○日射病
(第三) 痙攣及搐搦 ヲ發スルモノハ次ノ如シ○癲癇○小兒急癇○妊婦及產婦急癇○腦出血(卒中)○腦貧血○ヒステリー○腦及腦膜炎○破傷風○尿毒症○腦腫瘍

(第四) 呼吸困難ノ劇症 ヲ發スルモノハ○咽頭後膿瘍○食道ノ異物○氣道ノ異物○實扶的里○聲門浮腫○喉頭軟骨膜炎○聲門痙攣○喉頭ノ黴毒○喉頭ノ腫瘍○喘息○肺ノ充血及浮腫○氣管支加答兒○肋膜炎○氣胸

(第五) 胸部劇痛 ヲ發スルモノハ○肋膜炎○氣胸○肋間神經痛○絞心症
(第六) 腹部劇痛 ヲ發スルモノハ○胃痛○急性胃加答兒○中毒性胃炎○單純胃潰瘍○胃癌○神經性胃痛○胆石症○疝痛○腎石症○腹膜炎、○盲腸炎、盲腸腹膜炎及ビ蟲樣突起ノ穿孔症○子宮腹膜炎

(第七) 下痢ノ強劇性 ヲ發スルモノハ○大人ノ急性腸加答兒○小兒ノ

腸加答兒○赤痢○亞細亞虎列拉○霍亂及歐洲虎列拉

(第八) 頑固ノ便秘、強劇嘔吐、吃逆、吐糞、ヲ發スルモノハ○嵌頓ヘル

ニア○嵌頓鼠蹊ヘルニヤ嵌頓股ヘルニヤ○嵌頓閉鎖孔ヘルニヤ○腸管ノ狹窄及閉塞○妊娠性子宮後屈

(第九) 尿管蓄積、ヲ發スルモノハ○蔓延性非化膿性腎臟炎○化膿性腎臟炎○尿管ノ閉塞○尿管壓迫○膀胱炎○膀胱結石○膀胱新生物○膀胱瘻○膀胱痙攣○攝護腺炎○攝護腺肥大○攝護腺癌○尿道閉鎖○包莖○尿道内異物○尿道狹窄○妊娠性子宮後屈症

○第八章 人工浴

- 第一 寒水浴
 - 攝氏 十乃至二十度
 - 華氏 八乃至十六度
- 第二 冷水浴
 - 攝氏 二十乃至二十八度
 - 華氏 六十八乃至八十一度
- 第三 微温浴
 - 攝氏 二十八度乃至三十四度
 - 華氏 八十一乃至九十三度

第四 温浴

攝氏 三十四乃至四十度
華氏 九十三乃至百四度

第五 熱浴

攝氏 四十乃至四十五度
華氏 百乃至百十三度

人工浴ノ温度ニ關スル大別ハ斯ノ如ク又之ヲ浴法ニ從ヒ差別スレバ緊要ナル者全身浴(頸部以下全身ヲ浸スル者ニシテ其浴量大人ニハ二百リ、小兒ニハ五十乃至二百リ)半身浴(以下半身ヲ浸スル者ニシテ其量大約百乃至百五十リ)坐浴(腰部以下ヲ坐浴スル者ニシテ其量大約百乃至百五十リ)スベキ體部ノ面積ニ應ジテ浴水ノ量同一ナラズ例へハ其足浴ニハ大約十リ、テルノ水ヲ要スルガ如ク)ノ四種ニ外ナラズ而シテ其醫療ノ目的ヲ異ニスルニ從ヒ水ニ加フル藥品ノ種類頻ル多シト雖モ普通治療上ニ賞用スル者及ビ一回ノ浴中ニ加フベキ其分量左ノ如シ

- (一) 櫛皮浴 一名タンニン酸浴
 - イ ○タンニン酸 一〇、〇乃至五〇、〇 水 二〇〇、〇
 - ロ ○櫛皮 五〇〇、〇 水 二一リ、〇ニ煎出

ハ ○柳皮 同上
ニ ○榆皮 同上
ホ 栗皮 同上

(二) 鐵浴

イ ○精製硫酸鐵 三〇、〇乃至六〇、〇
精製ボツタース 一二〇、〇

ロ ○精製硫酸鐵 三〇、〇 食鹽 六〇、〇
重碳酸ナトリウム 九〇、〇
但シ小兒ニハ其四分一ニテ足ルナリ

(三) 鐵泥浴

○マツトニー氏泥越幾斯(殊ニマツトニー氏泥鹽所謂乾性モール越幾斯ヲ良トス) 一〇〇〇、〇
○マツトニー氏泥滷汁(即チマツトニー氏流動越幾斯) 七〇〇、〇

(四) 松葉浴

○松葉越(所謂黑色松葉越) 一五〇、〇乃至五〇〇、〇
(五) ヨード浴 浴槽ニハ桶ヲ用ユベシ

イ ○ヨードカリウム 全身浴 五〇、〇乃至一〇〇、〇
局所浴 五、〇乃至一〇、〇
坐浴 同上

ロ ○ヨードカリウム 二〇、〇 ヨード 一〇、〇
(六) 糟糠浴
○小麥糠 五〇〇、〇乃至一五〇〇、〇 餽水 五リール
右調和三十分間 沸シテ濾過ス

(七) 麥芽浴
○麥芽浴 一〇〇、〇乃至三〇〇、〇
餽水 四乃至五リール
右半時間煮沸シテ濾過ス

(八) 鹽浴
イ ○食鹽 二〇〇〇、〇乃至四〇〇〇、〇
ロ ○食鹽 一〇〇〇、〇 母滷鹽 一〇〇〇、〇

ハ ○母滷汁 一リール
(九) 硫黃浴 浴槽ニハ必ラズ桶ヲ用ユ
イ ○フレミング氏液 二〇、〇乃至五〇、〇

ロ ○硫化カリウム 五〇、〇乃至一〇〇、〇(較強)
 ハ ○硫化カリウム 三〇、〇 粗製硫酸 一五、〇
 ス 海浴之レニ加フルニ動物性膠二五〇、〇乃至五〇〇、〇ヲ以テ

(十) 石鹼浴

イ ○常用石鹼 一〇〇、〇乃至四〇〇、〇
 ロ ○白色カリ石鹼 同上
 ハ ○芳香石鹼 同上
 ニ ○石鹼精 五〇、〇乃至一〇〇、〇

(十一) 海水浴

○食鹽 五〇〇〇、〇乃至八〇〇〇、〇 全身浴

(十二) 芥子浴

○芥子末 一〇〇、〇乃至二〇〇、〇 全身浴
 右冷水ニテ攪捏シ後浴湯ニ混ス

(十三) 曹達浴

○炭酸ナトリウム 全身浴 二〇〇〇、〇乃至五〇〇〇、〇
 局所浴 一〇〇〇、〇乃至二〇〇〇、〇

(十四) 昇汞浴

イ ○昇汞 浴槽ニハ必ス桶ヲ用ユ 二、〇乃至一〇、〇 アルコホル 五、〇
 水 二〇〇、〇

右調和全身浴

ロ ○昇汞 〇、一乃至〇、五以上一、〇

右局所浴

入浴時間 寒水浴ニハ四五分時冷水浴ニハ六七分時微温浴或ハ温浴ニハ二十乃至二十五分時熱浴ニハ十乃至十五分時ヲ通例ナリトス

○第九章 檢尿法

通常疾病ノ診斷上行フ可キ尿ノ檢査ハ左ニ示スガ如ク單純ノ定性分析ノミヲ以テ充分ナリトス然レドモ其精覈ナランコトヲ要スルハ素ヨリ論ヲ待タザルナリ

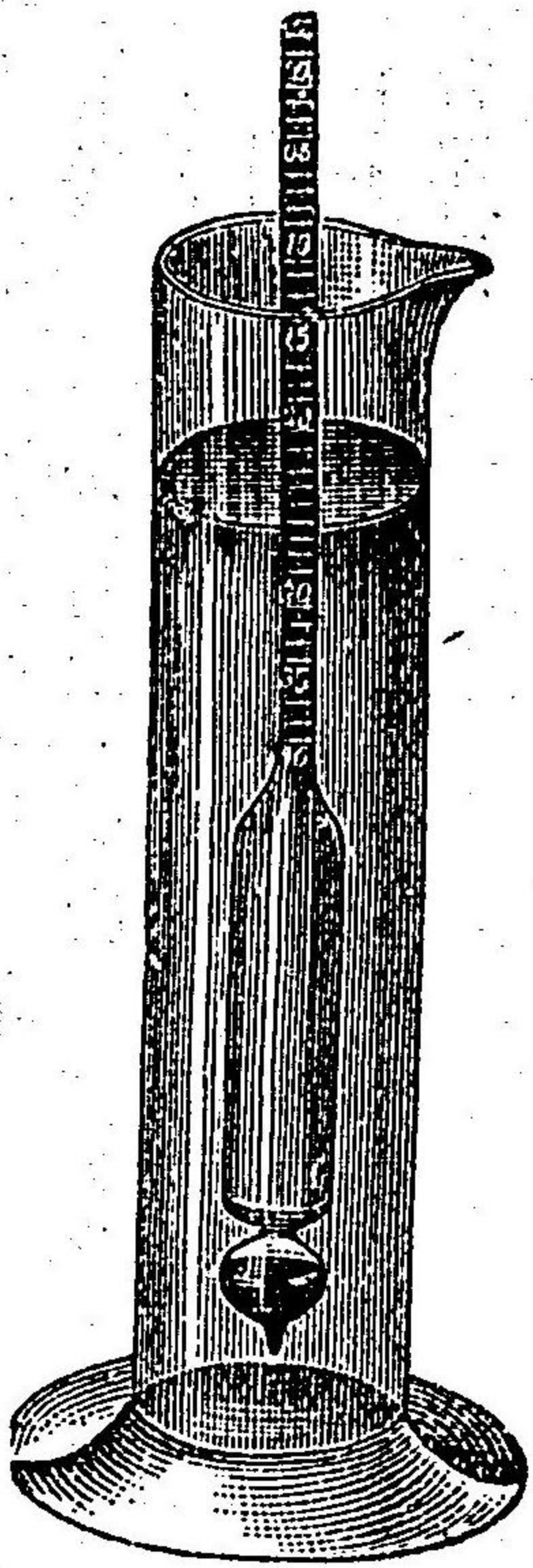
色尿 通常其稠度ニ關係ス、病的ニ諸種ノ色素ニヨリテ着色セララル、モノアリ、赤血球ヲ混ズルモノハ赤色ヲ呈シ(腎臟膀胱、尿道ノ出血、血色素尿モ亦同ジ)膽汁色素ヲ混ズル尿(黄疸)ハ褐黄色又ハ帶綠色ヲ

呈シ振盪ニヨリ黄色ノ泡沫ヲ生ズ、藥劑ノ吸收ニ因リテ來ルモノハ褐色乃至血赤色(大黃、セシナ)帶黑色(石炭酸ウワウルシ、レゾルチン、ナフタリン)其他キニーチ、アンチピリン、タルリン時トシテ「ズルフオナール」ノ内服ニ於テモ尿ニ著シキ種々ノ着色ヲ呈スルコトアリ、一般ニ熱性病ノ尿ハ暗色ヲ呈ス

尿色ノ稀薄トナルハ糖尿病、尿崩、慢性腎炎及貧血ニ來ル

反應 尿ハ其反應弱酸性ナルヲ常トシ、酸性ナルモノハ青色試験紙ヲ赤變シ「アルカリ性ナル者ハ赤色試験紙ヲ青變ス

沈渣 尿若シ沈渣ヲ含有スル乎或ハ溷濁スルトキハ先ヅ其尿若干量ヲ硝子盃(下方ノ細ク尖レル盃ヲ最良ナリトス)中ニ盛リテ暫ク放置シ清濁



計重比尿

圖三十七第

上下二部ニ分界スルヲ待テ其上清澄部ヲ淘汰シ以テ下溷濁部即チ沈渣ヲ取り其性質ヲ檢ス(遠心器ヲ用ユレバ速カニ沈渣ヲ得)沈渣褐色ニシテ少許ノ稀薄アムモニア水ヲ加ヘ煮沸シテ清澄トナルトキハ其沈渣ノ尿酸ナルコト又單ニ水ノミヲ加ヘ熱シテ其清澄トナルヲ認メバ其尿酸鹽ナルコトヲ知ル可キナリ其他ノ混合成分ニシテ沈渣中ニ含有スル有形物ハ顯微鏡ヲ以テ之ヲ檢スベシ

比重 尿ノ比重ハ一〇一八乃至一〇二二ニシテ病的比重一〇〇二(多尿症)乃至一〇四〇(密尿病)ナリ之レヲ計ルニハ尿比重計(ウロメテル)ヲ用ユ

受驗尿ヲ圓筒ニ盛リ比重計ヲ其内ニ沈メ其劃度ヲ檢スベシ但シ泡沫アルトキハ之ヲ除クベシ濾過ヲ必要トスルトキハ先ツ之ヲ行フベシ

尿ノ比重ニ由リテ一〇〇〇立方仙迷ノ尿中ニ於ケル固形成分ノ量ヲ算シ得ルノ法アリ即チ比重ノ終末ノ二數字ニヘーゼル氏數二、三三ヲ乘スルトキハ固形成分量ヲ得ベシ

蛋白 ヲ檢査スルノ法ニ種々アリ即チ左ノ如シ

第一 煮沸硝酸試驗法 凡ソ尿十瓦ヲ試験管ニ盛リ(酸性ナラザルト

キハ一滴ノ稀醋酸ヲ加フ之ヲ熱シテ煮沸スルニ至ルベシ煮沸スルモ透明ナルトキハ蛋白ヲ含有セス若シ濁濁ヲ生ズルトキハ之レニ(硝酸凡ソ尿量ノ十分ノ一)ヲ加フベシ而シテ濁濁尙ホ依然トシテ存スルトキハ蛋白存在ノ徴ナリ(若シ其沈渣磷酸土類ノミナルトキハ煮沸シテ濁濁ヲ生ズト雖モ硝酸ヲ加フルトキハ直ニ消失ス)

第二

醋酸芒硝試驗法(ハーヌム氏法)該法ハ尿ヲ試管ニ盛り醋酸二三滴ヲ滴下シ尿量ニ同ジキ芒硝溶液ヲ加ヘテ熱スベシ蛋白存在スルトキハ濁濁或ハ沈渣ヲ生ズ

第三

醋酸黄色血鹵鹽試驗法 該法ハ約十立方仙迷ノ尿ヲ試験管ニ盛り之ニ純醋酸十滴ヲ加ヘ(ムチン或ハ「ヌクレオアルブミン」ノ爲メ濁濁ヲ生ズルトキアリ此ノ際ハ之レヲ濾過スベシ)次ニ五%ノ黄色血鹵鹽溶液二三滴ヲ滴下シ暫時放置スルトキハ蛋白ハ白色濁濁ヲ形成ス該法ハ便利ニシテ且ツ確實ナリ

第四

冷硝酸試驗法(ヘルレル氏試驗法)該法ハ細キ試験管中ニ先ツ五瓦許ノ硝酸ヲ盛り更ニ少管(Pipette)ヲ用井テ尿ヲ徐カニ點入

第五

スベシ尿中蛋白ヲ含ムトキハ兩液上下接際ニ白色ノ濁濁ヲ生ズガリツペ氏試驗法(ピクリン酸試驗法)該法ハ尿ニエスバツハ氏試驗液ヲ加フルニアリ(エスバツハ氏液ハピクリン酸一〇、〇枸橼酸二〇、〇餽水一〇〇〇、〇ヲ混ジ微温ニ於テ徐ニ溶解ス)蛋白ヲ含ムトキハ直ニ濁濁ヲ生ズ但シ該法ハ尿中ニ「キニーチ、タリリン、アンチビリン及ビ」カリウム鹽ヲ含ムトキハ用ユベカラ

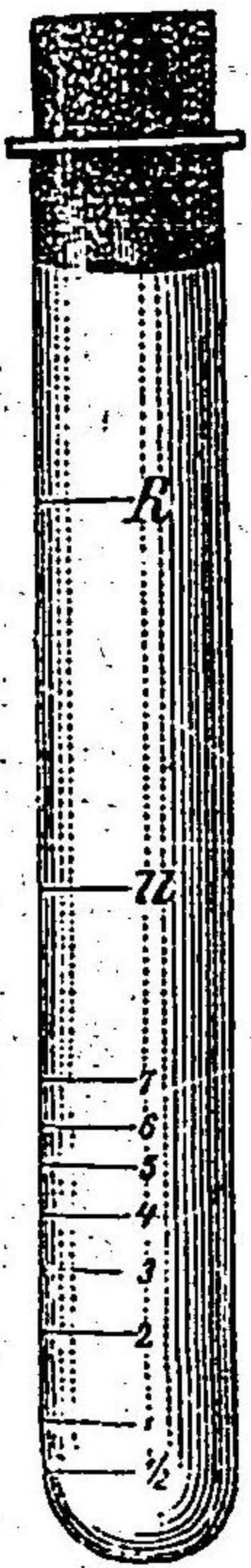
第六

ス硫基撒酸試驗法二十%ノ硫基撒酸液ハ各種ノ蛋白ノ少量ニ對シテモ濁濁ヲ生ズ

蛋白之定量

エスバツハ氏蛋白計ニヨリテ之ヲ測定ス即チ蛋白計ノUト記シタル處迄テ尿ヲ盛り試藥(ピクリン酸一、〇枸橼酸二、〇餽水一〇〇、〇)ヲRノ記號迄テ加ヘ一二回振盪シ蓋ヲナシ二十四時間室内ニ(室温攝氏十八度ヲ下ルベカラス)放置シテ沈澱ノ量ニヨリ蛋白ノ量ヲ測定ス即チ各畫線ノ數字ハ 一〇〇〇、〇ノ尿ニ存在スル「一瓦ノ蛋白」ヲ意味ス故ニ例ヘバ2ニ至ラバ〇、二%即チ二瓦 3ニ至ラバ〇、三即チ三%瓦ナリ

エスバツハ氏蛋白計



第七十四圖

本定量法ヲ用ユルトキハ左ノ件ニ注意スベシ

- (一) 一日中ノ尿ヲ一器ニ貯ヘ十分之レヲ攪拌シタル後用ニ供スベシ
- (二) 室温ハ十八度以下ニ下ルベカラス
- (三) キニー子、タルリン、アンチピリン及カリウム鹽ヲ尿中ニ含ムトキハ用ユルトコト克ハス
- (四) 〇、七%以上ノ蛋白アルトキハ尿ヲ二倍若クハ三倍ニ稀釋シテ用ユベシ

糖分検査法

第一 トロンメル氏法 試験管ニ約十瓦ノ尿ヲ入レ其三分ノ一即約三瓦ノ十%カリ滲汁ヲ加ヘ次ニ五%硫酸銅液ヲ滴下シ且ツ振盪シ淡青色ノ沈澱全ク溶解スルノ間ハ此ノ滴下ト振盪トヲ反覆シ新滴下ノ爲

メニ生シタル沈澱振盪スルモ溶解セザルニ至ルヤ火焰ヲ以テ徐々ニ液ノ上部ヲ温ムベシ(煮沸スベカラズ)糖分存在スルトキハ液ノ上部黄赤色ノ沈澱ヲ生ズ此ノ變色發現スルヤ直チニ加温ヲ止ムベシ加温ヲ止メタル後モ尙ホ變色ハ液ノ下層ニ向ヒテ蔓延スベシ

トロンメル氏法ノ簡畧法ハ數立方仙迷ノ尿ヲ試験管ニ入レ之ヲ煮沸シ之レニ二倍ノ稀釋セルフエリンゲ液ノ同量ヲ加フ糖存在スルトキハ黄赤色ヲ呈ス(但シフエリンゲ液ノミニテ該變化ヲ呈スルコトアルヲ以テ豫メ試験前ニ該液ヲ検査シ置クベシ)

第二 ニーランドル氏法 尿ニ其容積ノ十分ノ一ノニーランドル氏液ヲ加ヘテ煮沸ス糖存在スルトキハ黑色或ハ褐色ヲ呈ス

酒石酸カリウムナトリウム 四、〇

一〇%ナトロン液 一〇〇、〇

右ヲ少シク温メツ、之レニ加フルニ

次硝蒼 二、〇

右冷却後濾過ス(ニーランドル氏液)

第三 モール氏法 尿ニ其三分ノ一、一〇%カリ滲汁ヲ加ヘ液ノ上部

ヲ煮沸スベシ糖アルトキハ褐色ヲ呈ス

其他醱酵法、ベツチエル氏法、ルブチル氏法アリ

エーレルリツヒ氏デアツガ反應本法ニハ二種ノ試薬ヲ要ス即チ(甲液)ハ「スルファニール劑一、〇鹽酸一〇、〇餽水二〇〇、〇(乙液)硝酸ナトリウム〇、五餽水一〇〇、〇ナリ今甲液(一〇、〇)ニ乙液三滴ヲ混シ之レテ十瓦(一〇、〇)ノ尿ニ混シ更ニ其容積ノ八分ノ一アンモニアヲ加ヘ強ク振盪スルトキハ其泡沫及液ハ深赤色ヲ呈ス特ニ其泡沫ノ赤色ナルヲ特異トス

エーレルリーヒ氏デアツガ反應ヲ呈スルモノハ腸窒扶斯、肺炎、麻疹、肺結核ノ重症等熱アル病ナリ但シ本反應ハ腦膜炎ニハ欠如ス

血色素 尿ニ約三分ノ一ノ「カリ滲汁ヲ加ヘテ強アルカリ性トナシ之ヲ熱スルトキハ血色素ハ燐酸土類ト共ニ沈澱シテ赤色或ハ褐赤色ヲ呈シ且ツ綠色様ノ光澤ヲ帶ブ但シ尿酸ノ爲メニ赤色ヲ帶フルトキハ「ナトロン滲汁ニ由テ褪色ス

膽色素 (一)グメリン氏ピリルビン試驗法先ツ試驗管ニ尿ヲ盛り而シテ徐カニ其上ニ注グニ發烟硝酸二三滴ヲ加ヘタル硝酸ヲ以テスベシ若

シ膽色素ノ存在スルニ於テハ上下兩液ノ接際ニ綠、青、紫、紅、黃ノ色輪ヲ順次ニ呈現スルモノナリ殊ニ綠色ヲ最モ著シトス或ハ吸墨紙片ヲ尿中ニ浸シ之ニ一滴ノ硝酸ヲ點スルモ亦以テ其彩色ヲ檢シ併セテ膽色素ノ存在ヲ知ルニ足ル

(二)試驗管ニ半バ尿ヲ容レ少量ノ「クロ、フォルム」ヲ加ヘ振盪シ之ヲ靜置スレバ「クロ、フォルム」ハ黃色トナリテ沈降ス
(三)ヨード丁幾ヲ加フレバ綠色ヲ呈ス

膽汁酸 先ツ吸墨紙ヲ線條ニ剪ミ之ヲ少許ノ蔗糖ヲ加ヘタル尿中ニ浸シテ更ニ乾燥シタル後之ニ一滴ノ硫酸ヲ點スベシ若シ膽汁酸ノ存在スルニ於テハ美麗ナル紫色ヲ呈スルモノナリ或ハ尿中ニ少許ノ糖分ヲ加ヘテ之ヲ磁器中ニ乾燥セシメ而後一滴ノ硫酸ヲ加ヘ之ヲ廻旋スルモ亦可ナリ

インヂカン反應 尿ニ同量ノ鹽酸ヲ加ヘ一滴乃至三滴ノ飽和クロール石灰溶液ヲ滴スレバ初メ赤綠終ニ鮮青ヲ呈ス之ニ「クロ、フォルム」ヲ加ヘ振盪スレバ「クロ、フォルム」青色トナル

○第十章 胃病ノ診斷法

第一 視診、觸診、打診及ヒ聽診

胃ノ疾患アルモノニシテ其腹壁菲薄ナルトキ若シ胃著ルシク膨滿スルカ或ハ胃ノ前壁ニ腫瘍ノ發生アルトキハ視診ニ由テ或ハ胃或ハ腫瘍ノ形狀等ヲ診斷シ得ルコトアリ幽門部ニ障礙ノ存在スルトキ或ハ胃ノ神經性疾患ニ於テ胃ノ蠕動ヲ視ルコトアリトス○觸診ニ由テ知り得ルトコロノモノハ疼痛ノ有無胃ノ腫瘍性狀等ナリ○打診及ヒ聽診ハ診斷上大ナル價値ヲ有セズ

第二 胃ノ膨脹法

胃ノ膨脹法ハ胃ノ位置、大小形狀ヲ明ラカニシ其他腫瘍ノ診斷ニ用ユ先ヅ患者ニ半茶匙ノ酒石酸ヲ一盞ノ水ニ溶解シテ之レヲ服用セシメ次ニ一茶匙重曹ヲ又一盞ノ水ニ溶解シ之レヲ服用セシム然ルトキハ炭酸瓦斯ヲ發生シテ胃ヲ膨脹セシム該法ハ甚ダ簡便ナルヲ以テ汎ク用井ラル、モノナリ然レドモ胃消息子ヲ用井胃中ニ空氣ヲ送り膨脹セシムルノ法ヲ優レリトス膨脹シタル胃ハ視診及ビ打診ニ由テ明カニ檢シ得ベシ

第三 吸收力検査法

朝時胃ノ空虚ナル時ニ際シ沃剝○、ニヲ容レタル膠囊ヲ内服セシメ之レヨリ毎一分時ニ唾液ヲ以テ澱粉紙ニ浸シ硝子棒ヲ以テ發烟硝酸一滴ヲ滴下スベシ硝酸ニ由テ澱粉紙ノ赤變若クハ青變シタルトキハ沃剝ノ既ニ吸收セラレテ唾液中ニ循環シ來リタルコトヲ證ス健康時ニアリテハ十分乃至十五分ニシテ已ニ此反應ヲ認ムベシ胃ノ疾患例セバ胃癌ニアリテハ吸收ニ一時間餘ヲ要スルコトアリ（澱粉紙ハ粥狀ニ溶解セル澱粉液ニ濾紙ヲ浸ス之レヲ乾燥シテ製ス）

第四 運動力検査法

患者ニ驗査食餌（米飯二三碗、味噌汁一碗、鶏卵一個）ヲ與ヘ六時間ノ後消息子ヲ送入シ患者ヲシテ努責セシムルトキハ胃内容物ハ消息子ノ上端ヨリ流出スベシ若シ流出スル物ナキトキハ漏斗ヲ消息子ニ挿入シ微温湯ヲ胃中ニ注入シ其充滿スルヲ待チ指ヲ以テ消息子ヲ壓迫シ漏斗ヲ一器上ニ傾置シ然ル後壓迫ヲ除ケバ微温湯ト共ニ胃ノ内容物ハ該器中ニ流出スベシ食物尙ホ胃中ニ滯留スルトキハ運動力ノ減少シタルコトヲ知ルベシ運動力ノ減少ハ胃癌胃擴張症等ニ發ス

第五 胃液検査法

化學的診斷ハ胃病ノ診斷及ビ治療上缺クベカラス
胃ノ内容物ハ第一嘔吐物トナリ第二ニハ故意ニ攝取セラレタル液トシテ
化學的検査ノ用ニ供セラルル故意ニ胃ノ内容ヲ攝取スルニハオーゼル氏ノ
法ニ從ヒ柔軟ナルゴム管ヲ挿入スベシ而シテ診斷上ノ検査ニハ常ニ同一
ノ食物ヲ與ヘ同一ノ時間ニ於テ之レヲ攝取検査セザルベカラス
此検査ヲ行フニ當リ患者ニ食セシムルトコロノ食品ハ諸家各其擇ミヲ異
ニス

第一エワルド氏朝食ハ一椀ノ茶及ビ三五、〇乃至七〇、〇ノ白麵包ヲ毎朝
空腹時ニ食セシメ一時間後胃ノ内容ヲ攝取スルニアリ
第二リーゲル氏晝食ハ正午ソップ一椀ビステッキ及ビ白麵包ヲ食シ五時
間乃至七時間後内容ヲ攝取スルニアリ
攝取シタル内容物ノ検査ハ理學的性質其反應確定後ニ於テ胃ノ固有ナル
分泌液ノ證明ニ及ビ又食シタル營養物ノ變化如何ヲ觀察スルモノトス而
シテ内容物ヲ濾過シ其濾過紙上ニ残留シタル物體ニハ顯微鏡検査ヲ施ス
ベシ

正規ノ胃液ハ生理的の必要ナル遊離鹽酸ヲ含有ス蓋シ遊離鹽酸ノ存在スル
際ニノミ「ペプシン」ハ其作用ヲ營ムコトヲ得レバナリ故ニ遊離鹽酸ノ
有無ハ検査ノ最要點ナリ

○遊離鹽酸ノ検査法

遊離鹽酸ノ検査ハ二箇ノ試験ニ由テ精確ニ之レヲ結了スルヲ得ベシ
第一コンゴ紙 ハ〇、〇一%以上ノ遊離鹽酸アルトキハ青變ス
第二メチール紫 ハ〇、〇二四%ニテ青變ス弱紫色液ヲ製シ之レヲ兩分
シテ二ツノ試験管ニ入レ其内一管内ニ被檢液ヲ加フ遊離鹽酸アルトキハ
青變ス其變色ハ他ノ管ト比較シテ定ムベシ
第三トロペオリン試験 トロペオリンハ〇、〇二五%以上ノ酸ニテ褐變
ス○先ヅ胃ヨリ攝取シタル液ヲ濾過シ置キ陶器小皿ニ「トロペオリン飽
和アルコホル液」二三滴ヲ滴下シ之レニ彼ノ濾過液ノ二三滴ヲ加フベシ即
チ遊離鹽酸ノ存在ニ當テハ黃色ナル液ハ變シテ褐色トナル而シテ小火焰
ニ皿ヲ注意シテ蒸發スレバ蒸發シ殘リタル液ノ縁ニ於テ青色ノ部ヲ認ム
携帶ニ便センガ爲メ「トロペオリン液」ヲ浸シ製シタル濾過紙ヲ試験紙ト
ナスモ可ナリ此試験紙ハ濾過液ヲ以テ濕潤セラレバ先ヅ褐色ニ變シ之

レヲ熱スレバ青色ニ變ズ

第四 キュンツブルグ氏 反應藥ニハ左方ヲ用ユ

フロ、グルチン

二、〇

ワニリン

一、〇

純粹アルコホル

三、〇〇

右混和試藥ハ〇、〇〇五%以上ノ遊離鹽酸アルトキハ赤變ス
此試驗ニ於テモ亦第一試驗ノ如ク同一ノ方法ヲ用ユ而シテ蒸發後其縁ニ
於テ赤色ヲ呈スルハ遊離鹽酸ノ存在ヲ證スルナリ鹽酸ナキトキハ褐色此
反應ニ於テモ亦第三ノ如ク「フロ、グルチン、ワニリン紙ヲ製シ反應紙ト
シテ用ユルヲ便トス此反應ハ最モ確實ナリ

○乳酸ノ検査法

乳酸ハ鹽酸ニ次テ胃病化學的診斷ニ檢スベキモノナリ

(第一) 過クロール鐵液ノ極メテ稀薄ナル(液其黄色ヲ知り克ハザル)モ
ノニ濾過液ノ一二立方仙迷ヲ加ヘ黄色ヲ呈スルハ稀多量ノ乳酸アルノ證
ナリ

(第二) 過クロール鐵石炭酸ノ青色液ニ第一ト同法ヲ用井テ等シク黄色ヲ

呈ス過クロール鐵石炭酸液ハ左ノ如シ

四%石炭酸

十立方仙迷

蒸餾水

二十立方仙迷

過クロール鐵

一滴

右混和

其他胃液内ニ病理的特ニ産出シ來ルトコロノ酸ハ醋酸及ビ牛酪酸ナリ共
ニ固有ノ臭氣ニ由テ其存在ヲ知ラシムルモ精密ナル化學的ノ證明ハ極メ
テ複雑ナル手數ヲ要スルモノナリ

以上諸種ノ酸類及ビ酸性燐酸鹽ノ少量ハ合シテ胃液ノ酸性反應ヲ呈出セ
シムルモノニシテ之レヲ總括シテ胃内容物ノ總酸性力ト云フ而シテ其變
化ハ診斷上治療上共ニ貴要ナル位置ヲ有スルモノナリ

○總酸性力ノ検査

十立方仙迷ノ濾過液ニ一%ノ「フェノールフタレイン」アルコホル溶液
ノ一二滴ヲ加ヘ次ニ「ピュレット」ヲ以テ十分ノ一定規アルカリ液ヲ加ヘ
テ中性若クハ弱アルカリ性トナシ其中和後アルカリ液ノ一滴ニテモ加ハ
、ルヤ否ヤ忽チ無色ノ液ハ變シテ薔薇紅色トナルベシ

該アルカリ液ノ立方仙迷ハ〇、〇〇三六五ノ鹽酸ヲ中和スルモノナルガ故ニ其液ノ分量ニ由テ十立方仙迷内ニ含有スル酸ノ量ヲ算出シ得ベシ即チ該液ノ立方仙迷ノ數ニ〇、〇〇二六五ヲ乘スベシ
 今得タルトコロノ總酸性力幾部分ハ鹽酸ニ屬シ幾部分ハ他ノ酸類ニ基ツクモノナルガ故ニ之レヲ區別セザルヘカラス然レトモ其精密ナル成績ヲ得ルニハ種々ノ裝置ヲ要スルヲ以テ其概略ヲ知ルヲ以テ足レリトセザルベカラズ

○鹽酸ノ定量法

ポアス氏ハ「コンゴ赤ノ溶液ヲ用ユ即チ十立方仙迷ノ濾過液ニ「コンゴ赤」溶液ヲ加ヘ青色トナシ後十分定規アルカリ液ヲ青酸ノ消失スルマデ滴下ス而シテ今滴下シタル液ハ遊離鹽酸ヲ中和スル爲メニ使用セラレタルナリ何トナレバ「コンゴ赤」ヲ青變スルモノハ遊離鹽酸ニシテ他ノ酸類ハ唯僅ニ影響スルニ過ギザレバナリ、此際用井タル「アルカリ液」ノ者ハ遊離鹽酸ノ酸性力ヲアラハスモノナルガ故ニ總酸性力ノ内ヨリ之レヲ減ジタルモノハ即チ他ノ酸類ノ量ヲアラハスモノナリ

○ペプシ子及ラーブノ検査

「ペプシ子及ラーブ醱酵素ノ検査」次ニ検査スベキモノハ醱酵素即チ「ペプシ子」ト「ラーブ」醱酵素ノ二種ナリトス其法先ヅ煮タル蛋白ノ小片ヲ内容ノ十五立方仙迷ヲ盛リタル試験管ニ投ジ三十七度乃至四十度ノ重湯煎内ニ入ルレバ暫時ノ後液内ニ「ペプトイン」ヲ證明シ得ベシ「ラーブ」醱酵素ハ中和セル胃液ノ一二立方仙迷ヲ同量牛乳ニ加ヘ三十七度乃至四十度ノ温度ヲ保タシムルコト十乃至十五分間ナレバ「ラーブ」ハ牛乳ヲ凝固セシム
 「ペプトイン」ノ検査ハ檢液ヲ強アルカリ性トナシ之レニ稀薄ノ硫酸銅液ヲ靜カニ漸次注入スレバ「ペプトイン」ノ存在ニ因テ兩液境界ニ於テ赤色ノ輪ヲ生ズ

○嘔吐物ノ検査

嘔吐セル胃ノ内容物ハ其理學的性質ニ由テ又診斷ヲ助クル者ナリ乃チ膽汁ヲ混ズルモノハ綠色若クハ黃綠色ヲ呈シ新鮮ナル血液ヲ混ズルモノハ鮮紅色ニシテ久時ヲ經タル血液ヲ混ズルモノハ汁粉ノ如キ色ヲ呈ス此時

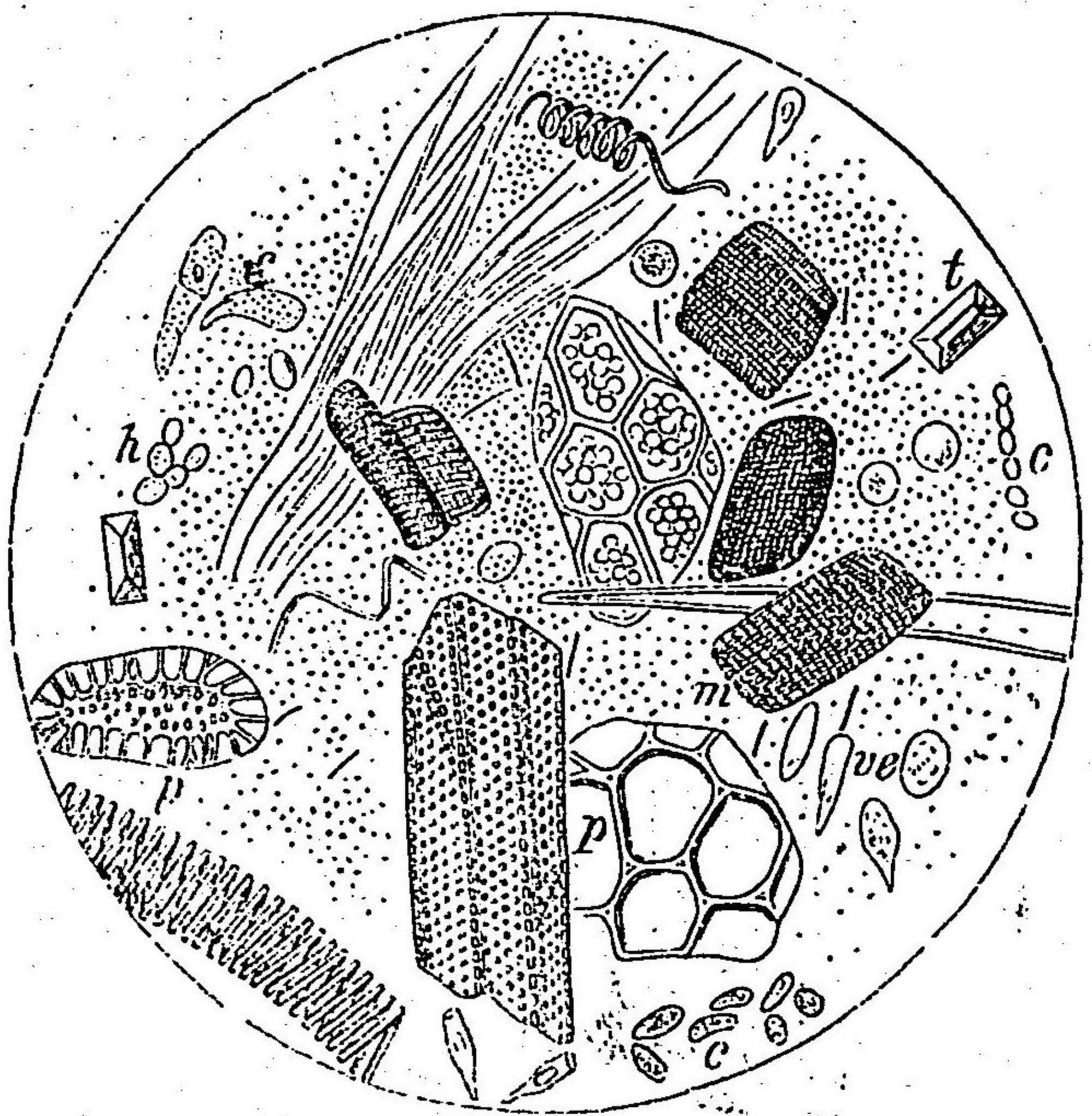
ニ當テ其果シテ血液ナルヤ否ヤヲ證明スルニハ嘔吐物ノ少量ニ「エーテ
 ル」ヲ加テ濾過シ以テ脂肪ヲ除キ而シテ後遺殘物ヲ載物硝子上ニ置キ氷
 醋及ビ食鹽ヲ加ヘ「タイヒマン」氏ノ「ヘミン」結晶ヲ製スルコトヲ求ム
 ベシ其他尙ホ嘔吐物ノ臭氣ヲ詳カニセサルベカラズ蓋シ糞臭ヲ放ツモノ
 吐糞タルヲ證スレバナリ

化學檢査ニ次デ又顯微鏡的檢査ヲ必要トス乃チ食物消化狀態ニ由テ胃ノ
 如何ヲトシ小有機體ノ多量ニ存スルコト「サルチチ」ノ存在ハ共ニ胃内
 容物異常ノ醗酵及ビ滯溜ヲ證明スルモノナリ(第七十四圖)ヲ見ヨ)

○化學的診斷ノ應用

普通ノ鹽酸含有量即チ大凡二%ハ胃粘膜ノ深ク障害ヲ被ムラザルコトヲ
 示シ爾餘ノ症候ト共ニ慢性胃加答兒ト神經性胃病トノ鑑別ヲナサシム
 ル者ナリホアス氏ハ二%以上ノ鹽酸含有ハ又胃粘膜疾病ノ大ナラザルヲ
 證スルモノニシテ多クハ神經性胃病又ハ胃潰瘍ニ於テ之ヲ見ル
 鹽酸含有量ノ少キト鹽酸ノ缺乏トハ胃粘膜全部ノ疾患ヲ證スルモノニシ
 テ多クハ慢性胃加答兒稀ニ胃潰瘍ニ於テ之レヲ見ル胃癌ニ就キテハ鹽酸
 ノ缺乏ヲ以テ之レヲ證スルコト能ハズト雖トモ鹽酸ノ每常缺乏スルハ胃

第七十五圖



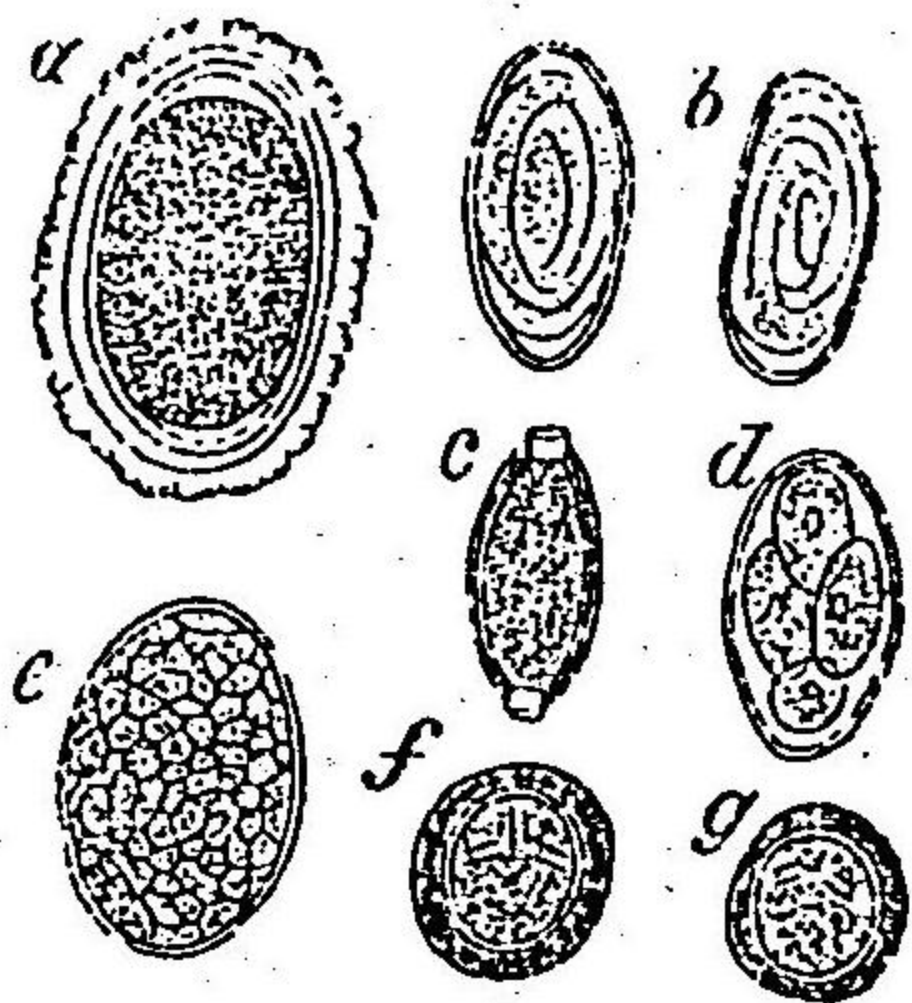
- 糞便ノ顯微鏡所見
 (三百五十倍)
- m 筋纖維
 - e 腸上皮
 - ve 其凝收シタル者
(ノートナーゲル氏)
 - c クロストリヂエ
氏ムブチリクム
 - h 釀母
 - p 植物細胞
 - t 磷酸マグネシウム
アンモニウム
槍蓋狀結晶

癌ノ疑ヲ起スニ足ルモノニシテ他ニ胃癌ノ症候アレバ確診スルニ足ル
 (貧血、惡液質等ニ鹽酸ヲ缺乏スルコトアリ)
 朝食後多量ニ乳酸ヲ分泌スルハ又胃癌ノ疑アルモノナリ其他ノ場合ニ於
 テハ胃内異常ノ醱酵ヲ示スニ過ギズ
 總テ化學的診斷ハ胃病診斷ニ當テ缺クベカラザルモノナリト雖トモ決シ
 テ此検査而已ヲ以テ胃病如何ヲ診斷スベカラズ必ズヤ此試驗ノ外ニ尙ホ
 他ノ胃病診斷法ヲ並用シテ而シテ後ニ始メテ其全斑ヲ決スベキナリ

○第十一章 糞便ノ顯微鏡的検査

- 健胃體ノ糞便顯微鏡所見ハ第七十五圖ノ如シ
- 腸寄生蟲アルトキハ各其卵ヲ發見ス其形狀次ノ如シ
- 腸窒扶斯、虎列拉、腸結核ニハ各其固有ノ細菌ヲ發見ス

第七十六圖



- a 蛔蟲卵
- b 蟯蟲卵
- c 鞭蟲卵
- d 十二指腸蟲卵
- e 裂頭絛蟲卵
- f 無鉤絛蟲卵
- g 有鉤絛蟲卵

○第十二章 細菌検査法總論

細菌ノ有無ヲ檢スルニ際シテハ先ヅ顯微鏡ヲ用井「バクテリア」ノ存在
 ヲ探リ細菌ノ存在スルニ當テハ其形體の性質ヲ知り次ニ之ヲ人工培養基
 ニ培養シ以テ彼ノ生物學上性質ヲ研究セザル可カラズ次ニ動物體外ニ於
 テ培養セル細菌ヲ適當ナル動物ニ接種シ同種ノ病態ヲ呈スルヤ否ヤヲ證
 明スベシ然レドモ實地醫家ハ大抵以上三検査中顯微鏡検査ヲ以テ満足セ
 ザル可カラズ顯微鏡検査而已ヲ以テ不充分ナル場合ニ於テノミ(虎列拉、

窒扶斯、實扶的里)培養法ヲ用ユベシ而シテ動物試驗ハ開業醫ニ於テハ實際之レヲ行フコト難シ

○染色ヲ用キズシテ細菌ヲ檢スルノ法

「バクテリア」ハ自然的狀態即チ染色セザルモ視ルコトヲ得ルモノアリ或ハ染色ニ由テ始メテ觀察シ得ベキモノアリ細菌ヲ自然ノ有様ニテ檢セント欲セバ瓦斯或ハ酒精燈火ヲ以テ熱灼シ而シテ冷却シタル白金線ヲ以テ檢知セント欲スル液體ノ一滴或ハ被檢物一小部ノ殺菌水中ニ摩碎セルモノヲ清潔ナル被蓋硝子上ニ置キ次テ之レヲ載物硝子上ニ載セ全體ヲ顯微鏡下ニ致スベシ細菌ノ壓迫ニ由テ生ズル所謂プローション氏分子運動ヲ避ケンガ爲メ非染色性細菌ノ檢査ハ懸滴法ノ儘施スヲ宜シトス其法試檢液ヲ滴下シタル被蓋硝子ハ其滴ヲ有スル側面ヲ下方ニ向ケ陥凹載物硝子ノ凹窩内ニ置クベシ尤モ此液ノ蒸發ヲ防グ爲メニハ豫メ黄色ワゼリン^レヲ凹窩縁ニ塗布シ置カザル可ラス

○染色液ノ製法

細菌ヲ染色スルニ要スル色素ハ鹽基性色素就中大概ハ「フクシン、ゲン

チアナビチレッド、メチーレン青ナリ通常母液トシテ該色素ノ濃厚アルコホル溶液ヲ製ス

- (第一) フクシン 一五、〇 アルコホル 一〇〇、〇
- (第二) ゲンチアナ紫 七、〇 アルコホル 一〇〇、〇
- (第三) メチーレン青 五、〇 アルコホル 一〇〇、〇

水製アニリン溶液ヲ製スルニハ母液一分ニ蒸餾水四分ヲ加フ通常時計硝子ニ盛リタル餾水ニ六乃至八滴ヲ加フレバ可ナリ

紫色色素ハ最モ強ク染色スルモノナルモ蛋白ヲ含有スル物體ニ於テハ反テ「メチーレンプラウ」ヲ賞用ス此色素ハ血清濃清等ヲ染色スルコト微弱ニシテ「バクテリア」及ビ其他有形成分ヲ著シク顯著ナラシムルモノナレバナリ

「バクテリア」ハ大概該色素ヲ數分時間内ニ吸收スルモノナルモ尙ホ「アニリン色素」ノ染色力ヲ増加セシムル^レヲ要スル場合少カラズ之レ染色ノ時間ヲ短縮シ或ハ該色素ヲ吸收セザルトコロノ「バクテリア」ヲ尙ホ染色シ得ルノ利益アリ染色力ノ増加ハ長時間作用セシムルノ他ニ色素液ヲ熱シ若クハ一定ノ化學的物質ヲ加ヘ或ハ二ツナガラ共ニ之ヲ用ユルニ

由テ得ルモノナリ此目的ニ使用スル化學品ハ次ノ藥品ヲ以テ最良トス即チ「カリアニリン油、石炭酸及媒染藥（明礬及ビ「タンニン」）ナリ是等ノ藥品ヲ加ヘテ製スルトコロノ色素溶液ハ實地ニ於テ最モ多ク使用ス

第一レッフレル氏アルカリ性メチレン青溶液

三十立方仙迷ノ濃厚アルコホル製メチレン青溶液ト百立方仙迷ノカリ（〇、〇一％）溶液ヲ混ズ此液ハ久時貯フルモ變化ナキヲ以テ實用的便ナリ

アニリン水染色液

第二（甲）エールリッヒ氏アニリン水溶液

該液ハ濃厚アニリン水溶液ト濃厚アルコホル製フクシン或ハ「ゲンチアナ溶液ヲ混和シタルモノナリ「アニリン溶液ヲ製スルニハ五立方仙迷ノアニリン油ヲ百立方仙迷ノ水ニ和シ強ク振盪シ後水ヲ以テ濕ジタル濾過紙ヲ用井テ之ヲ濾過シ水様透明ノ濾過液（アニリン水）ニ「チバレスツエンツ」ヲ明ラカニ呈スルマデ「フクシン或ハ「ゲンチアナビテレット」ノ濃厚アルコホル溶液ヲ加フ可シ而シテ「アニリン水ハ容易ニ分解スルモノナルガ故ニ毎回用ニ臨ンデ新タニ之

レヲ製スルヲ可トス該液ヲ保存センニ八十％ノ純粹アルコホル」ヲ加フベシ數日間貯フルヲ得

（乙）レッフレル氏アルカリ性アニリン水溶液

該溶液ハエールリッヒ氏アニリン水百立方仙迷ニ水酸化ナトリウム」ノ一％溶液一立方仙迷ヲ加ヘテ「アルカリ性トナシ後固形色素ノ四乃至五％ヲ加ヘ強ク振盪シテ製ス而シテ用ニ臨ミ染色スベキ被蓋硝子上ニ其二三滴ヲ濾過ス此強力染色液ハ一週間分解ノ憂ナクシテ貯フルコトヲ得ルモノナリ

第三石炭酸溶液

（甲）チール氏溶液（石炭酸フクシン溶液）

フクシン	一、〇	純アルコホル	一〇、〇
結晶石炭酸	五、〇	餾水	一〇〇、〇（久シク貯フルコトヲ得）

（乙）チャプレフスキー氏石炭酸グリセリンフクシン溶液フクシン一、〇五立方仙迷石炭酸液グリセリン五、〇立方仙迷餾水一〇〇、〇

用ニ臨ミテ四乃至十倍ニ稀釋シテ用ユ

(丙) キューチ氏石炭酸メチーレン青液即チ左ノ如シ

メチーレン青 一、五 アルコホル 一〇〇、〇

結晶石炭酸 五、〇 餾水 一〇〇〇、〇

メチーレン青ヲ乳鉢内ニ入レ一〇、〇ノ純アルコホルヲ注キ後五%
石炭酸水ヲ徐々ニ加ヘ強壓ヲ避ケテ輕ク摩擦溶解ス需用多カラザル
場合ニ於テハ半量ヲ製スルヲ便ナリトス蓋シ久シキヲ經ルニ從ヒ染
色力モ亦隨ツテ減少スレバナリ

○デツクグラス乾燥プレパレート染色法

總テ液体内ノ「バクテリア」ヲ檢セント欲スレバ先ヅ瓦斯或ハ酒精燈火
焰内ニテ白金線(或ハ白金線端ヲ鑷子ニテ彎曲セシメタルモノ)ヲ熱シ
其紅織シタル後之レヲ冷却シ該白金線ヲ以テ検査液ノ一滴ヲ取り全然清
潔ニシテ殺菌セル被蓋硝子板上ニ之ヲ擴ゲ或ハ二個ノ被蓋硝子間ニ彼ノ
滴ヲ置キ輕壓シテ相對スル二個ノ被蓋硝子面ニ液ヲ蔓延セシメ注意シテ
鑷子ニテ之ヲ離シ而後被蓋硝子ヲ氣中ニテ乾燥セシメ或ハ火焰上ノ温空
氣内ニテ注意シテ乾燥シ板上ニ乾燥シタル層ヲ上面トナシ瓦斯或ハ酒精

燈火焰上ヲ三回通過セシム此標本ヲ染色スルニハ固着セル層ヲ上面トナ
シコルチツト氏ピンセツトヲ以テ夾ミピペツトヲ以テ染色液一、三滴ヲ
滴下ス(ピペットノ尖端デツクグラスニ觸レザル様ニ注意スベシ或ハ固着
セル層ヲ下面トナシ時計硝子内ニ盛リタル染色液中ニ入レ後數秒乃至數
分時(通常五分若シ火焰上ニテ加熱スレバ十乃至六十秒)ヲ待テ剩餘ノ色
素ヲ水ニテ洗去シ濾紙ニテ被蓋硝子板ヲ拭ヒ乾燥セシメテ鏡檢ノ用ニ供
ス又ア、ナイセル氏ニ從ヒ「オブエクトグラス上ニ直チニ液ヲ乾燥セシ
ムルヲ便トスルコトアリ

血液中ノ「バクテリア」ヲ檢スルニ當リテハ血球及ビ血漿共ニ染色シ大
ニ其検査ヲ妨害ス故ニ此障害ヲ避クルニハギウンテル氏法ヲ賞用ス其法
乾燥固定セル血液「プレパレート」ヲ一乃至五%ノ醋酸溶液ニテ洗滌シ
「ヘモグロビン」ヲ除去シ又血球ノ大部分ヲ洗ヒ再ビ「プレパレート」
ヲ乾燥セシメ通常ノ法ニ從ツテ之レヲ染色ス之レニ由テ「バクテリア」
ハ獨リ染色セラレ血球ノ妨害ヲ蒙ルコトナシ但シ血液ノ被蓋硝子板上
ニ乾燥シテヨリ久時ヲ經タルモノハ醋酸溶液ヲ以テ血漿ヲ洗去スル能ハ
ズ宜シク二乃至三%ノ「ペプシン」水溶液ヲ以テ之レヲ除クベシ

以上記載セル着色方法ニ於テ「バクテリエン」ノ他ニ尙ホ組織ノ部分等モ亦着色スルヲ以テ着色後更ニ「プレパラート」ヲ脱色薬中ニ置カザルヲ得ズ蓋シ脱色薬トハ「バクテリア外ノ物質ヲ容易ニ脱色セシムルモノナリ該脱色薬ハ水、アルコホル、醋酸及ビ「ヨード」(ヨード一、〇沃剝二、〇餽水三〇〇、〇)ニシテ「バクテリア検査ニハ必要ナルモノナリ

○切片染色法

組織内バクテリアノ検査ハ實地醫家ニ取り必要ナル場合甚ダ多カラズ故ニ此處ニハ唯其概要ヲ舉ゲ切片内「バクテリア」ノ着色ニハ「メチーレン青法」ノ最モ可ナルヲ告ゲ左ニ其法ヲ述ブベシ
切片ヲ取りレツフレル氏メチーレン青液中ニ放置スル一一分ニシテ之レヲ〇、五乃至一〇ノ醋酸中ニ移シ一二秒間脱色セシメ更ニ「アルコホル」中ニ移シテ水分ヲ除キ「ツエーデル油」中ニ透明ナラシメ「カナダ、バルサム」ニテ封鎖シ又ハ油浸用ツエーデル油ヲ用ユ「カナダバルサム」ハ久時ヲ經レバ色ヲ變化セシムルヲ以テ久時貯フルニハツ「エデル油」ヲ可トス「プレーグル」氏ノ改良セルキユー「子氏」染色法モ甚ダ賞揚スベキモノナリ即チ「オプエクト」或ハ「デツクグラス」上ニ貼シタル切片ヲ半乃至一分時

キユー「子氏」石炭酸メチーレン青ヲ以テ(場合ニ由リ温ムルコトアリ)着色シ水ニテ洗ヒ五〇%ノ「アルコホル」ヲ以テ淡青色ニ稍帶綠色ヲ呈スルマデ脱色セシメ後純「アルコホル」ニテ脱水シ「キシロール」ヲ以テ透明ナラシメ「バルサム」或ハツエデル油ニテ封鎖ス

○グラーム氏法

アニリン色素ヲ以テ着色スレバ「バクテリエン」ノ他ニ尙ホ細胞核ヲモ染色ス故ニグラーム氏ハ細胞核ヲ脱色シ「バクテリア」ニハ變化ヲ及ボサザル脱色法ヲ案出シテ特ニ「バクテリア」而已ヲ着色スルノ道ヲ開ケリ
グラーム氏染色法即チグラーム氏脱色法ハ左ノ如シ
デツクグラス乾燥プレパラート「ア」ニリン水ゲンチアナ紫中ニテ一二分間着色シ一分間ヨード沃剝液中(ヨード一、〇沃剝二、〇ヲ餽水五、〇ニ入レ溶解後餽水二九五、〇ヲ加フ)ニ入レ核ヲ脱色シ更ニ純粹アルコホル中ニ放置ノ「プレパラート」ノ全然脱色スルニ至リ水或ハ「カナダ、バルサム」ヲ以テ鏡檢ス切片ハ五乃至三十分間アニリン水ゲンチアナビオレット中ニテ着色シ二三十分間プレパラートノ暗褐色乃至黑色ヲ呈スル迄「ヨード沃剝液」中ニ放置シ後アルコホル中ニ入レ全ク色素ヲ出サバル

ニ至ルヲ待テ丁字油ヲ以テ透明トナシ「カナダバルサム」ヲ以テ封鎖ス
 然レドモグラーム氏ノ此法タル脱色ノ過不及ヲ生ズルコトアルヲ以テ其
 中庸ヲ得ルヲ難シ於是乎オイゲンホートキン氏ハ「アニリン水ゲンチア
 ナビオレット」ニテ着色後純アニリン水ヲ以テ剩餘ノ色素ヲ洗去シ而
 始メテ之ヲ「ヨード沃剥水」ニ移スノ法ヲ以テ此弊ヲ除カン「ヲ賞揚ス其
 他ギユンテル、キユー子氏ノ改良セルグラーム氏法ハ其アルコホール中
 ニテ脱色シタル後更ニ「プレバライト」ヲビスマルクブラウン中ニ入レ
 放置スルコト一二分間ナリ該法ハ重複染法ニモ亦應用セラル、ニ至レリ
 數多ノ「バクテリア」ハグラーム氏法ニ由テ之レヲ檢出セシムル如ク他
 ニ此法ヲ用井テ檢出シ能ハザルノ「バクテリア」アリ故ニ此法ハ又バクテ
 リア」ノ種類ヲ區別スルノ用ニ供セラル其病理學上必要ナル「バクテリ
 ア」ニグラーム氏ノ法ヲ用ユレバ着色スルモノ即チ核ノ脱色アルモ依然
 トシテ着色ヲ失ハザルモノトグラーム氏法ニ由テ着色セザルモノ即チ
 核ト共ニ脱色スルモノトアリ此處ニ列舉スル其甲ニ屬スル者ハ結核、癩
 病、破傷風、脾脱疽バチルレン、膿腫コッケン及ビ肺炎チブコッケン
 ニシテ其乙ニ屬スルモノ即チ脱色スルモノハチフス菌、大腸菌、赤痢菌

フリードレンデル氏肺炎菌、青膿菌、インフルエンザ菌、軟性下疳菌、ペ
 スト菌、馬鼻疽菌、悪性浮腫菌、コツホ氏ウエツクス氏菌、ゴノコッケン
 メニンゴ、コツケン、再歸熱及ビ黴毒スピロヘーテン等

○^{ガイセル}鞭毛染色法

十立方仙迷タンニン溶液（二〇ニ八〇ノ水ヲ加ヘタル者）ニ五立方仙迷
 寒冷飽和ノ硫酸鐵溶液及ビ一立方仙迷ノ「フクシン」或ハ「メチールビオ
 レット」若ハ「ウオルシワルツ」ノ水溶液或ハ「アルコホル溶液ヲ混和シ
 各「バクテリア」ニ對シ試験ニ由テ確定シタル一％ナトロン溶液或ハ硫酸
 數滴ヲ加フ可シ即虎列拉「バチルレンガイセル」ニハ硫酸ノ半滴乃至一滴
 ヲ窒扶斯「バチルレンガイセル」ニハ一％ナトロン溶液ノ一立方仙迷ヲ
 十六立方仙迷ノ媒染液ニ加フルヲ要スルガ如シ「ガイセル染色ノ方法
 ハレップレル氏ニ從ヘバ次ノ如シ
 純粹培養ノ少量ヲ一滴ノ蒸餾水ニ浮遊セシメ豫メ白金線ヲ以テ「デック
 硝子」ニ點滴シアル數多ノ水滴ニ此浮遊セルモノヲ播種シ空氣中ニ乾燥
 セシメ其他乾燥ヲ待チテ火焰ヲ通過セシメ固定セシムルコト常ノ如クス

ベシ而シテ該處置ハ最重要ナルモノナリ何トナレバ温ムルコト其度ニ過グレバ「ガイセル」ハ之ガ爲メニ其被媒染性ヲ失ヘバナリ「バクテリア」體ノ染色性モ亦高度ノ熱ニ由テ消失スルモノナルハ一般ノ知ルトコロナリ而シテ「ガイセル」ハ其體ニ比シテ尙反應ノ著シキモノナリ火焰ヲ通過セシムル際デック硝子ヲ鑷子ヲ用井テ固定セズ母指ト示指ノ間ニ之レヲ保テバ温度ノ高キニ失スル患ナシ指ニシテ忍ブベキ温熱ハ「ガイセル」ノ被媒染性及ビ着色性ヲ害スルコトナシ熱セラレタル「デック硝子」上ニ媒染液ヲ加ヘ其全面ヲ穹窿狀滴狀ニ於テ被ハシメ火焰上ニ更ニ温メテ蒸氣ノ發生スルヲ度トス(半—一分)而シテ輕ク「デック硝子」ヲ動シ熱シタル媒染液ヲ半乃至一分時間デックグラス上ニ放置スベシ次デ蒸餾水ノ強キ水線ヲ以テ之レヲ洗去ス然レモ尙ホ媒染液ノ殘物ハ「デックグラス」縁ニ止マリ染色液ニ會フテ沈澱ヲ生ズ故ニ水ヲ以テ洗去シタル後純粹アルコホル中ニテ更ニ洗去シ「バクテリア」ヲ含有セル滴ノ固着シタル部分ノ他ハ全然清澄トナルヲ待テ後デックグラス「ニアニン」水フクシン溶液(—%ナトロン液ヲ—%加フ)ヲ滴下シテ其全表面ヲ被ハシメ再ビ蒸氣發生ニ至ルマテ一分間之レヲ熱シ終ニ水線ヲ以テ洗去ス

○芽胞染色法

右ニ列擧スル染色ノ諸法ハ未ダ以テ諸般ノ目的ヲ達スルニ足ラズ即チ「スポーレン」ハ硬固ニシテ抵抗ニ富ミタル膜ヲ被ムルガ故ニ色素ノ侵入困難ニシテ之レヲ現出セシムルコト克ハザルナリ「スポーレン」ノ染色ニ用ユル諸法中實地醫家ノ特ニ便益ナルモノヲ擧グレバ次ノ二法アリ

第一ハウゼル氏法

三回火焰内ヲ通過セシメタル「デックグラスプレート」ヲ濃厚フクシン水溶液ヲ以テ更ニ其全面ヲ被ヒ再ビ火焰上ヲ徐々ニ通過セシムルコト三十回乃至四十回ニシテ蒸氣發生ヲ度トナシ之レヲ止メ二五%ノ硫酸中ニ浸スコト一二秒次デ水ヲ以テ洗ヒ弱メチーレン青液ヲ以テ染色ス

第二メルレル氏法

該法ハ輓近案出シタル者ニシテ速ニ善良ナル「スポーレン」染色ヲ結了セシムルモノナリ即チ空氣中ニ乾燥セル「デックグラスプレート」ヲ火焰ニ通過セシムルコト三回或ハ二分間純アルコホル中ニ入レ而シ

テ後二分間クロ、ホルム中ニ放置シ水ヲ以テ洗ヒ半乃至一分間五%ク
ローム酸ニ浸シ再ビ水ヲ以テ丁寧ニ洗ヒ石炭酸「フクシン」ヲ滴下シ火
焔ヲ以テ一分間温メ一回沸騰スレバ石炭酸「フクシン」ヲ除キ「デック
グラス」ヲ五%ノ硫酸中ニ浸シ脱色セルヲ待チテ再ビ丁寧ニ水ヲ以テ
洗滌シ次デ三十秒時間メチーレンブラウ若クハ「マラシットグリユン」
ソ水溶液ヲ作用セシメ又之レヲ洗去ス如此ニシテ製シタル「プレパラ
ート」ニ在リテハ美麗ナル綠色若クハ青色ノ「バクテリア」體內ニ「ス
ポールン」ハ暗赤色ノ色ヲ呈シ炳然トシテ明瞭ナリ

○カプセル染色法

デックグラス標本ニレップレル氏液或ハチール氏液ヲ用ヒ比較的長ク温
染スル片ハ淡青、紫或ハ赤色ニカプセルノ染色スルヲ見ルベシ脾臓疽菌
染色法モ亦タ用ユベシ

○純粹培養法

顯微鏡検査ニ由テ検査シタル物體中ニ「バクテリア」ノ存在スルコトヲ
認メ染色法ニ由テ其形態ノ性質ヲ知悉シタル時ハ其種類ニ從ヒ相孤立セ

シメテ之レヲ純粹ニ培養スルノ法ヲ講ゼザル可カラス
純粹培養ヲ施スニハ細菌ヲシテ可成其自然ノ關係ニ最モ類似セル有様ニ
於テ生活セシメザルベカラズ此培養ニ使用スル人工培養基ニ二種アリ液
體及ビ固體培養基是ナリ液體培養基中ニテハ專ラ培養肉羹汁ヲ用ユ其製
法脂肪ナキ挫碎セル牛肉或ハ馬肉五〇〇、〇二「リール」ノ蒸餾水ヲ注
ギ約半時五十度ノ湯ニ浸出シ次ニ之レヲ三十乃至四十五分煮沸ス次ニ此
肉羹汁ヲ濾過シ之レニ水ヲ加ヘテ「リール」トナシ綿栓セルコルベン
ニ入ル(肉水)此ノ肉水ニ一〇、〇ノ「ペプトン」五、〇食鹽ヲ加ヘ十%炭
酸ナトリウム液ヲ徐々ニ加ヘ此酸性ノ液ヲ弱アルカリ性トナス次デ此液
ヲ一乃至二時間蒸氣釜内ニテ煮沸シ濾過シ濾過液ノ通常十立方仙迷ヲ豫
メ殺菌シテ綿花栓ヲ以テ密閉セラレタル試験管ニ盛り後三日間毎日半時
間宛之レヲ六十度ニ温ムベシ如此所置シタル完全ナル肉羹汁ハ清潔透黄
色ノ液ナリ

固體培養基中ニテ一般ニ應用スルトコロノモノハ馬鈴薯培養ゲラチン培
養寒天及ビ血漿ナリ

馬鈴薯培養基ノ製法ハコッホ氏ニ從ヘバ左ノ如クナルベシ

先ヅ堅牢ナル刷毛ニテ丁寧ニ洗ヒ其表面ノ陷凹セル部分ハ刀ヲ以テ除去シ後半乃至一時間酸性昇汞液中ニ放置ス（昇汞一、〇鹽酸五、〇餾水一〇〇〇、〇）而シテ馬鈴薯ヲ鐵葉製釜内ニ入レ半時間乃至四十五分間煮沸スベシ冷却後昇汞液中ニ浸シタル左手ヲ以テ馬鈴薯ヲ取り右手ニ持スル殺菌セル刀ヲ以テ之レヲ二等分ス各等分セラレタル馬鈴薯ハ其切断面ヲ上方ニ向ケ濕室内ニ放置ス（硝子製重複大皿ニシテ其底面ニハ千倍ノ昇汞水ヲ以テ浸シタル濾過紙ヲ供フルモノナリ）
ホイヒトカシメル
 エスマルヒ氏製法ハコッホ氏製法ニ比スレバ甚ダ簡便ナリ其法馬鈴薯ノ皮ヲ去リ水ニテ丁寧ニ洗滌シ之ヲ切りテ圓板トナシ豫メ殺菌セル硝子製重複小皿中ニ入レ之レヲ蒸氣釜内ニ移シ此處ニテ四十五分間放置スルトキハ既ニ使用ニ供スベキ固體培養基ヲ製シ得タル者ナリ又馬鈴薯ノ一片ヲ楔狀ニナシ綿花ヲ以テ栓シタル試験管中ニ入レ而シテ蒸氣釜内ニテ熱シテ製スルコトヲ得

培養膠ハ左法ニ由テ製ス

即チ肉羹汁製法ノ部ニ記載シタル肉水一〇〇〇、〇ニ一〇、〇ペプトー
 ン五、〇ノ食鹽ヲ加ヘ十%（即チ一〇〇、〇）ノ純粹「ゲラチン」ヲ加ヘ

此混合液ヲ丁寧ニ攪拌シ重湯煎ニテ膠ノ全ク溶解スルマデ温ムベシ其溶解ニ費ス時間ハ大凡二十分乃至四十五分ナリ溶解後ハ曹達液ヲ徐々ニ加ヘ赤色ヲクムス紙ノ少シク青變スルマテ中和シ不溶性蛋白質ヲ除去スル爲メニ一時間尙ホ煮沸シ其熱液ヲ濾過ス膠ハ冷却スルニ從テ固體ニ變シ從テ濾過スル一克ハザルカ故ニ所謂熱湯漏斗ヲ用ユ熱湯漏斗ハ硝子漏斗ト其之ヲ被覆スル銅性「マンテル」ノ間ニ熱湯ヲ灌漑セラ
 ル、モノニシテ此熱湯ハ環狀ニ配列セル瓦斯火焰ニ由テ熱セララル、者ナリ熱湯漏斗ノナキ場合ニ於テハ濾過液ヲ受クルトコロノ瓶及ビ漏斗ヲ共ニ蒸氣釜内ニ入レ置クベシ濾液ハ清澄透明弱アルカリ性反應ヲ呈スル液ニシテ冷却スルニ從テ凝固シ膠狀透明ニシテ稍黃色ヲ帶ビタル固體ヲ形成ス濾過セラレタル液狀ノ「ゲラチン」ノ各十立方仙迷ヲ殺菌セル硝子「ピベット」ヲ用井テ取り注意シテ殺菌ノ綿花栓ヲ供ヘタル試験管中ニ之ヲ盛ルベシ此ゲラチン培養基ヲ使用センニハ先ヅ三日間毎日十五分間宛之ヲ流通セル蒸氣ニ觸レシムベシ
 數多ノ「バクテリア」ハ通常ノ室温ニ於テ蕃殖セザルモノニシテ其蕃殖ニハ血温ヲ要シ而シテ培養ゲラチン「ハ二十五度ニ在テ已ニ液狀トナリ

固體培養ノ性質ヲ失フガ故ニ肉羹汁ニ加フルニ寒天ヲ以テス即チ上ニ記載シタル方法ヲ以テ製シタル肉水ノ一〇〇〇、〇二一〇、〇ノ「ペプト」ニ五、〇ノ食鹽及ビー〇、〇乃至一〇、〇ノ細切セル寒天ヲ加フ寒天ハ溶解シ難キモノナルヲ以テ先ツ一時間重湯煎ニテ煮沸シ中和シテ二時間蒸氣釜内ニ煮沸シ後濾過ス濾過液ハ清澄透明ニシテ甚ダ速カニ凝固シ稍ヤ濁濁ヲ生ス

寒天ノ溶解ヲ容易ナラシメ從テ肉ペプト「ン寒天ノ製法ヲ單一ナラシメ」ンガ爲メチツシユットキン氏ハ寒天ヲ先ツ五ノ醋酸液ニ十五分間浸シ水ニテ洗ヒ後ニ肉羹汁ト共ニ煮沸シ五分間ニシテ寒天ハ全ク溶解スベシ中和及ビ冷却後二箇ノ卵白ヲ加ヘ此混合物ヲ三十分乃至四十分間煮沸シテ濾過ス可シ

血清培養基製法

先ツ獸類ヲ屠殺スルニ當リ流出スル血液ヲ殺菌セル硝子圓筒内ニ受ケ二十四時間乃至四十八時間氷函内ニ放置セシメテ血清ト血餅ヲ分離セシメ清澄明ナル血清ヲ殺菌セル「ピペット」ヲ以テ汲ミ殺菌セル試驗管中ニ移スベシ而シテ約七十度ニ熱スル「久シキ」ハ凝固ノ培養

基ヲ形成スソノ殺菌ニハ數日間一乃至四時間宛約五十八度ノ温ニ遭遇セシムベシ

検査物ニ含有スル「バクテリア」ヲ互ヒニ孤立セシムル爲メニハコッホ氏ノ平板培養法ヲ用ユ可シ其法熱シタル後冷却シタル白金線ヲ以テ試験液ノ一滴ヲ取り（三十五度ノ重湯煎ニテ溶解セル）「ゲラチン」ヲ盛りタル試験管中ニ入レ暫時攪拌シテ「ゲラチン」ヲ平等ニ配分ス此第一ノ試験管所謂「オリギナル」ヨリ殺菌セル白金線ニ由テ三滴ヲ取りテ第二ノ液狀「ゲラチン」試験管ニ移シ攪拌スル「前ノ如クス稀釋ニシテ之ヨリ第三ノ液狀「ゲラチン」試験管ニ移シ攪拌スル「前ノ如クス之レ第二稀釋ニシテ之レヨリ第四ニ移シタルモノハ第三稀釋又時トシテ之レヲ第五ニ移セバ第四稀釋ヲ生ス可及的相離隔シタル「バクテリア」ノ種類ヲ固定シテ其相互ノ混合ヲナサシメザルタメニ「ゲラチン」ヲ管ヨリ可及的大ナル平面上ニ擴ゲテ凝固セシム之レニ用ユル平板ハ豫メ高熱ニ由テ殺菌セル方形硝子板ヲ用井平等ニ薄キ層ヲ其表面ニ作り氷上ニテ凝固セシム試験管ヨリ硝子板ニ「ゲラチン」ヲ注グニハ所謂平板灌注裝置ヲ用ユ此裝置ハ氷及ヒ水ヲ充分ニ盛りタル大皿ト其皿ヲ蓋フトコロノ硝子板トヨリナ

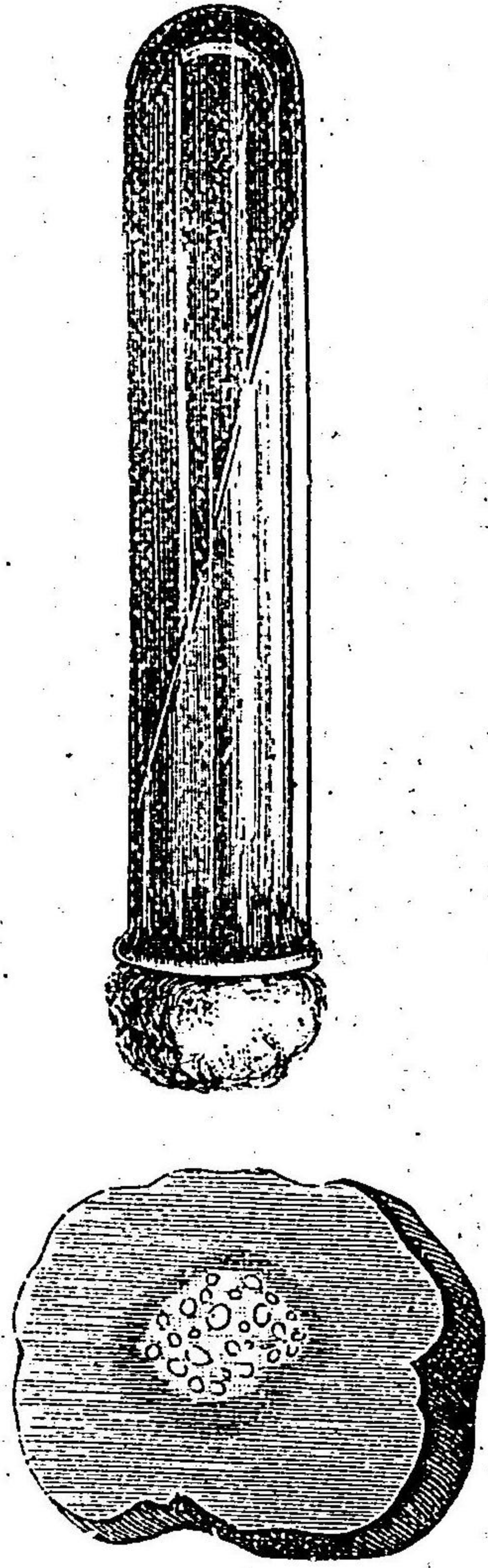
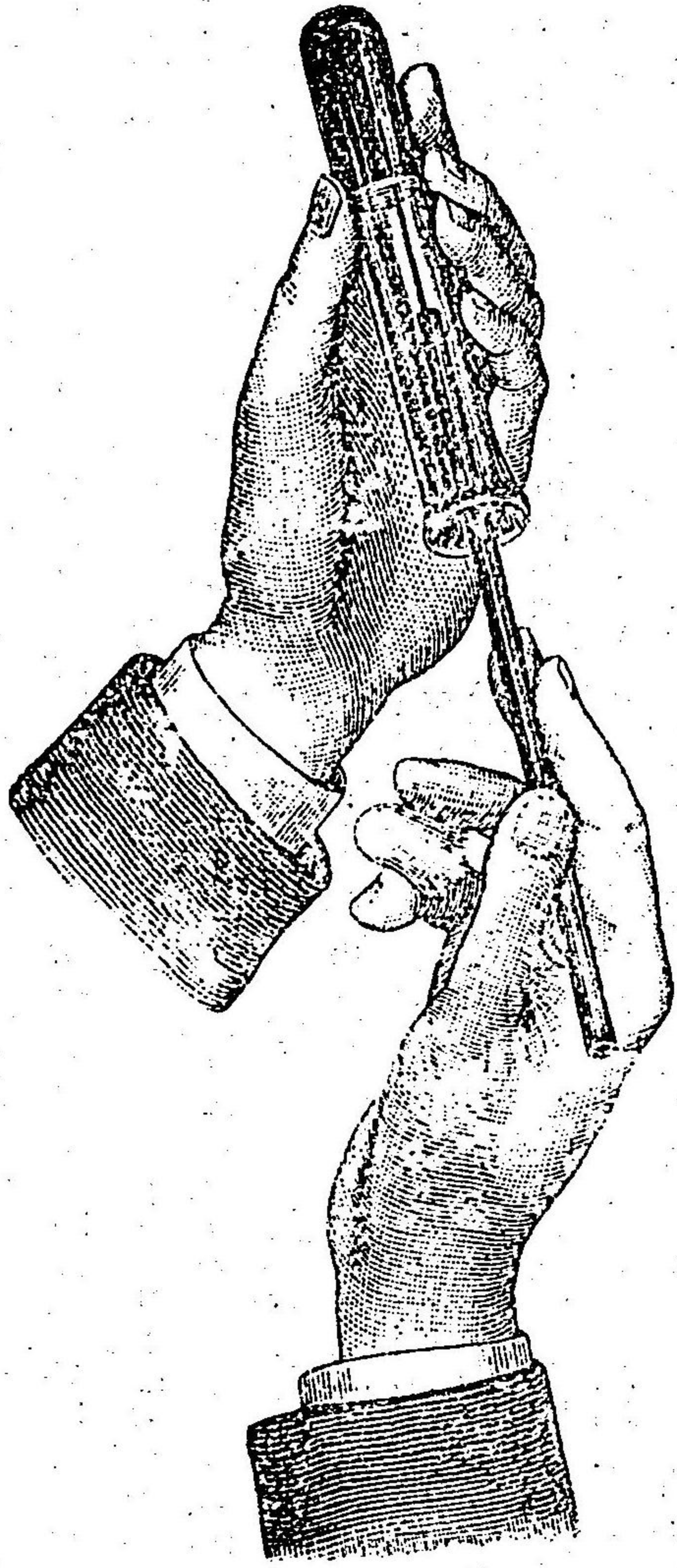


圖 八 十 七 第



第 七 十 七 圖

リ容易ク水平ノ位置ニ置カレ得ルモノナリ皿上ノ硝子板上ニ更ニ硝子平板ヲ置キ流動性検査物體ヲ混ジタル「ゲラチン」ヲ注キ直ニ硝子鐘ヲ以テ覆ヒ空氣ヨリ不潔物ノ入ルコトヲ防ギ第三乃至第四稀釋ノ「ゲラチン」ヲ如此平板上ニ注ギ「ゲラチン」ノ凝固スルヲ待チテ（氷上ニハ速ニ凝固ス）細心注意シテ昇汞ヲ以テ濕シタル濾過紙上ニ安置スル硝子鐘内ニ入レ棚ノ如ク相重ナレル硝子机上ニ安置ス

此方法ハ漸々種々ノ改良ニ由テ簡單トナレリ平板ニ換フルニ扁平ナル瓶ヲ用井其平面ナル部分ニ「ゲラチン」ヲ送り圓形ナル瓶ノ頸ニ綿花ヲ送入シ閉鎖ス検査物ヲ如此ニシテ分配シタル後ハ此瓶ヲ單純ニ水平ノ位置ニ置キ其凝固ヲ待ツエスマルヒ氏ハコッポ氏ノ法ヲ變シ上述ノ如ク試験物ヲ有スル「ゲラチン」ヲ平板上ニ注ガズシテ試験管中ニ凝固セシム凝固セシムルニハ栓上試験管ヲ被フニゴム囊ヲ以テシタル試験管ヲ殆ンド水平ノ位置ニ保チ冷水若クハ氷水中ニ入レ「ゲラチン」ノ管壁ニ凝結固着スルマデ絶ヘス廻轉ス

第一法若クハ第二法ニ由テ「ゲラチン」表面上ニ各細菌ノ種類ヲ孤立セシメタルトキハ更ニ各種類ニ就キ精密ノ攻窮ヲナサンガ爲メ各自更ニ新

ラシキ培養基ニ移シテ其培養基ヲ謀ルベシ此培養ヲ行フニハ先ツ孤立セル集落ノ一點ヲ白金線ヲ以テ他ニ移スニアリ其法ハ穿刺培養ヲ用ユルト擦過培養ヲ施サントスルニ從テ異ナリ穿刺培養ヲ施スニハ「ゲラチン」若クハ寒天ヲ盛ルトコロノ試験管ノ綿花栓塞ヲ廻轉弛縦トナシ試験管ヲ左手ニテ取り管口ヲ上方ニ向ケ右手ノ第四及ビ第五指ヲ以テ綿花栓塞ヲ除キ右手ノ拇指及示指ノ間ニ持スルトコロノ硝子棒ノ白金線ヲ以テ「ゲラチン」ニ穿刺ヲ施スコト圖ノ如クス而シテ後白金線ヲ拔去シ試験管口ヲ下方ニナシタル儘再ビ綿花栓ヲ施シ終ニ使用シタル白金線ヲ灼熱殺菌スベシ

擦過培養法ヲ行フニハ穿刺ニ代フルニ豫メ斜面狀ニ凝固セシメタル培養基ノ表面ヲ白金線ヲ以テ擦過ス可シ

馬鈴薯上ニ培養スルニハ接種ス可キ物體ヲ殺菌セル刀柄ノ尖端ニ附着セシメ馬鈴薯ノ表面ニ塗擦スベシ後ニ此部ニ種々ノ集落ヲ生ス圖ニ就テ看ルベシ馬鈴薯ヲ持スル指ハ昇汞液ヲ以テ濕シ置カザル可ラズ又刀柄ハ馬鈴薯ノ縁ヨリ一乃至二三仙迷隔リタル部ニ接種スベシ
空氣ヲ忌ムトコロノ「バクテリア」ヲ培養スルニハ種々ノ法アリト雖トモ

要スルニ酸素ニ觸レシメザルニアリ簡單ニシテ實地醫家ニモ亦用ユルコトヲ得可キ方法ハ「ピヒチル諸氏ノ法ナリ」アルカリ性焦性没食子酸液ニ由テ酸素ヲ吸収スルニアリ其培養法ヲ廣キ試験管中ニ於テシ其試験管ノ底面ニ一〇ノ乾燥セル焦性没食子酸ヲ入レ一〇ノ「カリ鹼汁ノ十立方仙迷ヲ加ヘ試験管口ヲ「ゴム栓ヲ以テ密閉スルニアリ」終リニ臨ンテ尙ホ一言ス可キハ總テ細菌學的ノ事ニ從フニ當テハ嚴重ナル殺菌ヲ其使用ノ諸物品ニ行フヲ要スルニ他ナラス殺菌ニハ熱ヲ用ユルヲ最良トス硝子製物品ハ先ツ千倍ノ昇汞水ヲ以テ洗ヒ次テ酒精ヲ以テ尙ホ清潔トナシ乾燥シテ後烙管内ニテ一時間熱スベシ刀炳白金線等ノ如キ諸器械ハ瓦斯火焰若クハ酒精燈火焰内ニテ熾熱スルヲ最良トス

○十三章 細菌検査法各論(卷末彩色圖參照)

○結核「バチルレン」検査法

(甲)咯痰ノ検査

咯痰中結核「バチルレン」ヲ檢スルニハ瓦斯燈或ハ酒精燈ヲ以テ紅熾シタル白金線(硝子等ヲ柄トナシタル者)ヲ用井テ先ツ其検査スベキ咯痰ヨ

リ帽針頭大ノ膿様或ハ乾酪様ノ小片ヲ取り之ヲ清潔ナル二個ノ「デックグラス」間ニ挾ミ兩硝子板ヲ互ニ壓迫シテ可及的痰層ヲ平等ナラシメタル後再ビ兩板ヲ離シテ先ツ空氣中ニ乾燥シ後ニ火焰内ヲ通過セシムルコト一回ニシテ「デックグラス」乾燥標本ヲ完成ス其染色ノ順序左ノ如シ
チール氏チールゼン氏法

(第一)「カルボールフクシン」(「デックグラス」標本ヲコル子ツト氏鑷子ニテ水平ニ固定シ其表面ニ「カルボールフクシン」ヲ滴下シ酒精燈ニテ温ムルコト三乃至五分)

(第二)五%硫酸(三秒時)赤

(第三)七十%酒精ニテ洗ヒ殆ント無色ノ觀アルニ至ル

(第四)水性メチレン青(二分)或ハレットツフレル氏メチレン青一ト水三ノ内ニ五〇乃至十秒

(第五)水(ニテ洗ヒ)

(第六)吸墨紙(ニテ乾カシ)

(第七)カナダバルサム(ニテ封ス)

ガッベット氏法

- (第一) 石炭酸フクシン(二分間、温ヲ加フベシ)
- (第二) 水(ニテ洗ヒ)
- (第三) 硫酸(メチーレン青(一分間)メチーレン青二、〇二十五%硫酸一〇〇、〇)
- (第四) 水(ニテ洗ヒ)
- (第五) 吸黒紙(ニテ乾シ)
- (第六) カナダバルサム(ニテ封ス)

(乙) 切片ノ検査

チール氏チールゼン氏法ニ於テハ(第一)ヨリ(第六)ガッベツト氏法ニ在テハ

- (第一) ヨリ(第四)マテ咯痰検査ニ同ジ但シ石炭酸フクシン中ニ五分間ヲ要ス
- (第五) 九十六%酒精(三乃至五分)
- (第六) 無水アルコール(三乃至五分)
- (第七) キシロール或ハ「ベルガモット油
- (第八) カナダバルサム

○ 癩病バチルレン染色法

結核バチルレント同法ヲ用ユルヲ可トス但シ本菌ハ單純ナル「アニリン色素水溶液」ニモ亦タ容易ニ染色ス又グラーム氏法ニ由リ染色ス

○ 腸窒扶斯バチルレン染色法

デックグラスプレバライト」ヲ製シレップレル氏メチーレン青溶液ニ五乃至十分間浮ベ水ヲ以テ洗滌スベシ(アルコール)ヲ用ユ可ラス) ○ グラーム氏法ニ依リ脱色ス

○ 破傷風バチルレン染色法

レップレル氏溶液ヲ以テ染色スベシ ○ 又グラーム氏法ニ由ルモ染色ス

○ 虎列拉バチルレン染色法

蒸留水ヲ時計硝子ニ盛リ一二滴ノチール氏液ヲ加ヘ其中ニ「デックグラスプレズライト五分乃至十分間放置スレバ染色スグーライム氏法ニ由リ脱色ス